

平成16年度（第48回）
岩手県教育研究発表会発表資料

学年・学級経営

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の
在り方に関する研究
- 学級経営プログラムの作成と活用をとおして -

研究協力校
花巻市立湯口小学校

平成17年2月8日
岩手県立総合教育センター
教科領域教育室
藤川 公子

目次

| | |
|---|----|
| 研究の目的 | 1 |
| 研究の見通し | 1 |
| 研究の年次計画 | 1 |
| 本年度の研究内容与方法 | 1 |
| 研究結果の分析と考察 | 2 |
| 1 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成 | 2 |
| (1) 児童相互の好ましい人間関係についての基本的な考え方 | 2 |
| (2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の基本的な考え方 | 2 |
| (3) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラム作成の視点 | 2 |
| (4) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの実際 | 4 |
| 2 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの活用 | 5 |
| (1) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方 | 5 |
| (2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方の手順及び留意点 | 5 |
| 3 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した指導実践とその分析・考察 | 6 |
| (1) 指導実践 | 6 |
| (2) 指導実践の目的 | 6 |
| (3) 指導実践の計画 | 6 |
| (4) 指導実践の概要 | 7 |
| (5) 指導実践の分析と考察 | 12 |
| (6) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正の視点 | 14 |
| 4 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正 | 14 |
| (1) 学級経営プログラムの活用の手引きの作成と付記 | 14 |
| (2) プログラム ～ の見直しと表記の工夫 | 16 |
| (3) 学級経営プログラムを活用した指導計画案の例示 | 17 |
| 5 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究のまとめ | 18 |
| (1) 成果 | 18 |
| (2) 課題 | 18 |
| 研究のまとめ | 19 |
| 1 研究の成果 | 19 |
| 2 今後の課題 | 20 |

おわりに

【参考文献】

【別冊資料】

研究の目的

小学校学習指導要領総則には、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てることの重要性が示されている。学級経営の充実を図るためには、学級を構成する児童一人一人が、学級集団の人間関係の中で安定した立場を得て、互いに心理的な圧迫がなく、学級全体が協調的、協力的である、児童相互の好ましい人間関係を育てることが必要不可欠である。

しかし、現在、学校教育で問題となっている学級崩壊、いじめ、不登校等が学級の人間関係に起因していることが多い。このことは、家庭や地域における児童の人間関係の希薄さや社会体験の不足から、他者との適切なかわり方を学ぶ機会が少なくなってきたことと、学級内の人間関係の修復を図る指導にとどまっている状況が多いことによると考えられる。

このような状況を改善していくためには、学級経営全体を人間関係を育てるという視点から見直し、学級における様々な場や活動を整理し、相互の関連を図った学級経営プログラムを作成し、それに基づいた意図的、計画的な指導を進めていくことが必要である。

そこで、この研究は、学級経営プログラムの作成と活用をとおして、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方を明らかにし、小学校における学級経営の充実に役立てようとするものである。

研究の見通し

小学校学級経営において、以下の視点に沿って、学級経営プログラムを作成し、児童の人間関係の育ちに応じて活用すれば、意図的、計画的に児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進めていくことができると考える。

- (1) 年間を見通した段階的な指導
- (2) 教育活動全体による組織的な指導

研究の年次計画

この研究は、平成15年度から平成16年度にわたる2年次計画である。

第1年次（平成15年度）

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本的な考え方の検討、基本構想の立案、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成

第2年次（平成16年度）

学級経営プログラムを活用した指導実践とその結果の分析と考察、学級経営プログラムの改善・修正及び研究のまとめ

本年度の研究内容与方法

1 目 標

小学校学級経営において、学級経営プログラムを活用した指導実践、その結果の分析・考察をとおして、学級経営プログラムの妥当性の検討及び改善・修正をし、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究のまとめを行う。

2 内 容

- (1) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの活用
昨年度作成した児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方を検討し、その手順及び留意点を明らかにする。
- (2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した指導実践とその分析・考察
学級経営プログラムを活用した指導実践を行い、その結果について、学級担任教師等へのアンケートを基に分析・考察する。
- (3) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正
児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した指導実践から明らかになった学級経営プログラムの改善点、修正点に基づき、学級経営プログラムを検討し、改善する。
- (4) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究のまとめ
指導実践の成果と課題をまとめ、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究の見通しの妥当性について明らかにする。

3 方 法

- (1) 指導実践
学級経営プログラムを活用した指導実践計画に基づいた指導実践を行い、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究の見通しの妥当性を確かめる。

(2) 記録法

学級経営プログラムを活用した指導実践の中での学習の成果や児童の様子を記録し、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの有効性を確かめる。

(3) 質問紙法

研究協力校の教師を対象とした調査を指導実践後に行い、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究の見通しの妥当性の検討及び児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正に役立てる。

4 研究の対象

研究協力校 花巻市立湯口小学校

研究結果の分析と考察

1 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営についての基本的な考え方とそれに基づく基本構想及び学級経営プログラムの作成については、本研究の第1年次（平成15年度）に明らかにした。この第1年次の内容は、第2年次の研究内容でもある「児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの活用」の基盤となるものであり、以下にその概要を示す。

(1) 児童相互の好ましい人間関係についての基本的な考え方

児童相互の好ましい人間関係とは、信頼の絆で結ばれ、何でも自由に安心して話し合い、支え合い、高め合うことのできる温かな関係であると考えます。このような人間関係は、まず、児童と児童がふれ合い、交流し、互いを理解し合う「相互理解」の関係の成立が基盤となる。

「相互理解」の関係は、交流の機会が増えるとともに深まり、自他のよさや違いは互いを特徴付ける個性として認知されるようになる。このとき、互いの個性を肯定的に受け止め、認め合う「相互受容」の関係が成立することにより、児童は心理的な安定感を得、他者への信頼感を抱くようになる。他者への信頼感は、互いに協力し合う「相互協力」の関係の成立によって深まる。すなわち、共通の目的に向かって助け合いながら活動することによって、互いを信頼できる他者としてとらえることができるようになる。

さらに、互いの向上を願いながら、自他の思いや考えを尊重してかかわる「相互尊重」の関係が成立することで、児童相互の信頼関係は確かなものとなり、維持されることが考えられます。

【表1】児童相互の好ましい人間関係を構成する要素

| 要素 | 意味 |
|------|-----------------------|
| 相互理解 | 互いの個性を理解し合う関係 |
| 相互受容 | 互いの個性を肯定的に受け止め、認め合う関係 |
| 相互協力 | 互いに助け合い、協力し合う関係 |
| 相互尊重 | 互いの思いや考えを尊重し合う関係 |

そこで、本研究で目指す児童相互の好ましい人間関係を構成する要素を【表1】に示すように、「相互理解」「相互受容」「相互協力」「相互尊重」ととらえる。

(2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の基本的な考え方

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営は、個や集団に働きかけ、児童相互の関係を深め、好ましい方向へと発展させる年間をととした長期的な営みである。このような学級経営を可能にするのは、学級担任教師の明確な経営ビジョンの有無である。すなわち、年間の「どの時期」に、「どのような人間関係」を育てていくのかについての経営の構想をもち、児童相互の人間関係の深まりに応じた段階的な指導を計画することが必要である。

また、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営は、あらゆる教育活動において機能していくものであると考えます。そこで、「どの教育活動」において「どのような指導・配慮」をしていくのかについての具体的な指導の構想をもち、それぞれの教育活動の関連を図りながら組織的に進めることが重要であると考えます。

これらのことから、本研究では、「年間を見通し、段階的に育てる指導」「教育活動全体を通じ、組織的に育てる指導」の二点に着目し、これらの視点から児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の指導構想を検討し、学級経営プログラムを作成した。

(3) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラム作成の視点

ア 学級経営プログラムとは

学級経営プログラムとは、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進めるために、「年間を見通した段階的な指導」と「教育活動全体による組織的な指導」の視点に基づいて

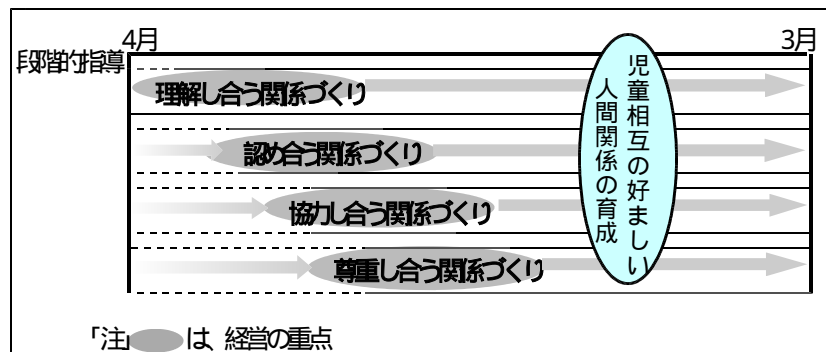
作成した指導構想である。学級経営プログラムに、各教育活動の指導内容、活動内容、配慮点を示すことで、学級担任が年間の指導の見通しをもち、実際の指導計画を立案・運営する上でよりどころとなり、児童相互の好ましい人間関係の成立、発展、維持を図る学級経営を意図的、計画的に進めることが可能になると考える。

イ 児童相互の好ましい人間関係を育てる「年間を見通した段階的な指導」

「年間を見通した段階的な指導」とは、児童相互の人間関係を好ましい関係へと育てる指導を段階的にとらえ、一年間の学級経営に位置付け、重点化を図る指導である。そこで、先に述べた児童相互の好ましい人間関係を構成する四つの要素を基に、段階的な指導を【表2】に示す～ととて考え、それぞれの指導に対応する学級プログラムとして四つのプログラムを作成することにした。【図1】は、段階的な指導を児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の重点として配した年間指導構想である。

【表2】学級経営における児童相互の人間関係を育てる段階的な指導

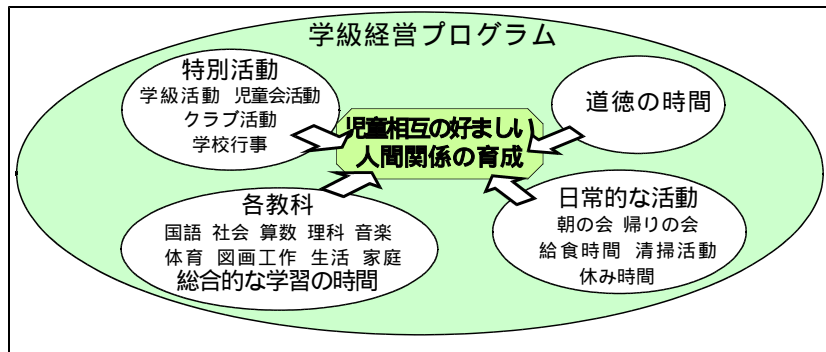
| 段階的な指導 | 内容 |
|------------|--|
| 理解し合う関係づくり | 互いにふれ合い、互いの嗜好、習慣、興味・関心、行動様式等を理解し合う関係を育てる |
| 認め合う関係づくり | 互いのよさや違いを理解し合い、認め合う関係を育てる |
| 協力し合う関係づくり | 互いのよさを生かし合いながら、助け合い、共に協力し合う関係を育てる |
| 尊重し合う関係づくり | 互いの思いや考えを理解し合い、互いを高め合い、尊重し合う関係を育てる |



【図1】児童相互の好ましい人間関係を育てる段階的な指導を学級経営の重点に配した年間指導構想

ウ 児童相互の好ましい人間関係を育てる「教育活動全体による組織的な指導」

「教育活動全体による組織的な指導」とは、学級で展開されるあらゆる教育活動において、児童相互の人間関係を育てる学級経営を機能させ、相互の関連を図ることである。教育活動において児童相互の好ましい人間関係を育てる指導・配慮が同じ方向をもち、関連が図られるとき、より効果的な指導が期待できると考える。そこで、学級経営プログラムの四つのプログラムのそれぞれに、【図2】に示すような教育活動を位置付け、関連を図ることにした。なお、本研究において、「特別活動」は、学級を単位として行われる「学級活動」を中心に上げる。



【図2】児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムに位置付け教育活動とそのかわり

エ 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラム作成の手順

学級経営プログラムの作成は、以下の方針と手順に基づいて行った。

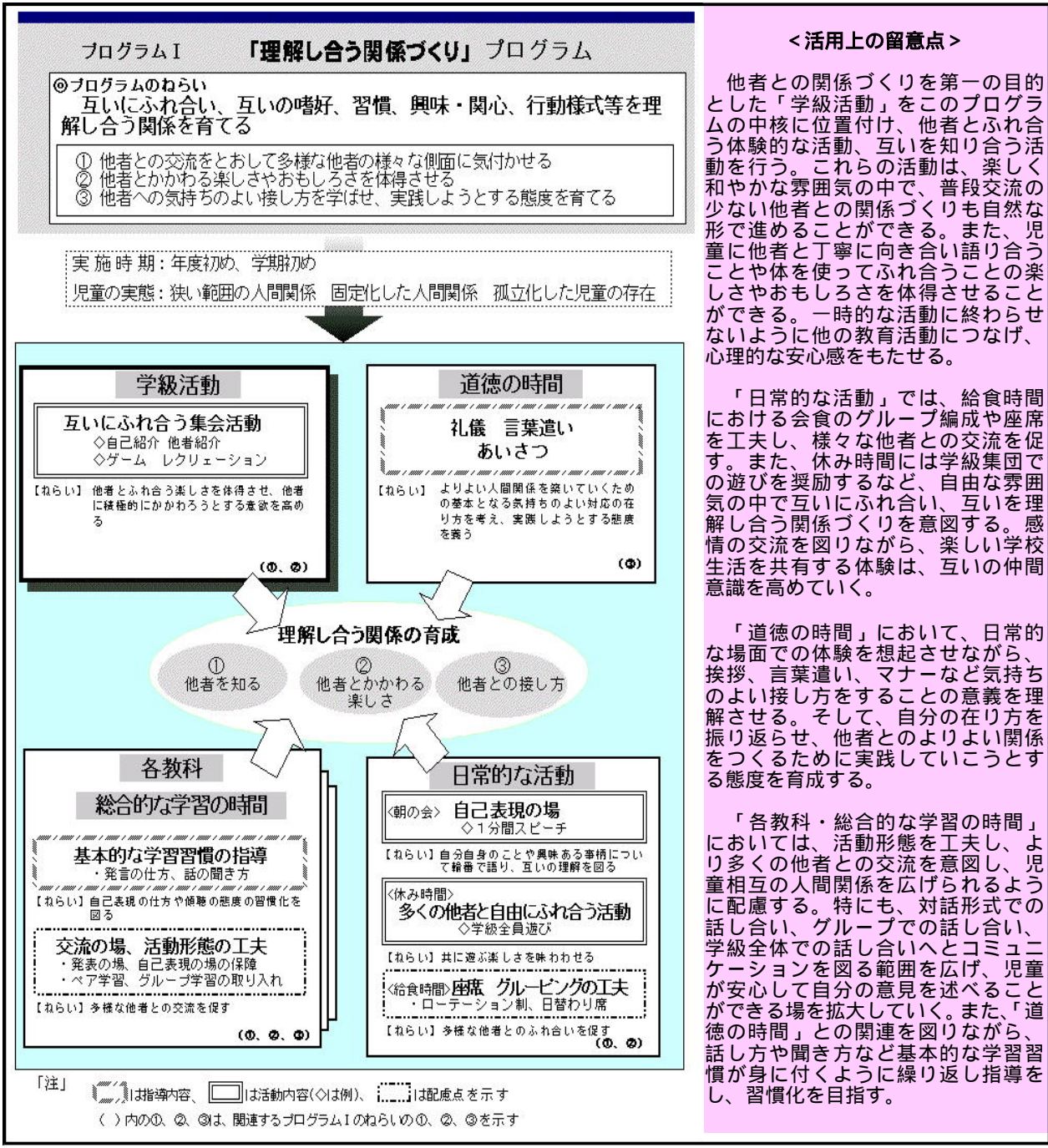
- (ア) 作成の方針
 - 全学年に共通して活用できる学級経営プログラムを作成する。
 - 一年間の学級経営を想定した学級経営プログラムを作成する。
 - 学級経営プログラムとして、プログラム「理解し合う関係づくり」、プログラム「認め合う関係づくり」、プログラム「協力し合う関係づくり」、プログラム「尊重し合う関係づくり」の四つのプログラムを作成する。
- (イ) 作成の手順
 - プログラム～における指導のねらいを具体化する。
 - 各教育活動の特質を踏まえ、プログラム～の指導のねらいにかかわる各教育活動の指導内容、活動内容、配慮点を洗い出す。
 - プログラム～において中核となる教育活動と関連する教育活動を位置付ける。
 - プログラム～の活用上の留意点を検討する。

(4) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの実際

(3)で述べた作成の視点にしたがい、学級経営プログラムとして、プログラム ~ を作成した。ここでは、作成した学級経営プログラムのうち、プログラム「理解し合う関係づくり」を抜粋して、【図3】に示す。

このプログラムは、年度初めの早い段階で実施することを想定している。学級編成替えが行われた直後は、前年度まで同じ学級であった児童同士が集まり、狭い範囲での人間関係を形成している場合が多い。学級編成替えが行われない場合であっても、前年度からの人間関係が引き続き、人間関係の固定化の傾向や集団から孤立化している児童の存在も予想される。こうしたことを踏まえ、このプログラムは、児童相互の新たな人間関係づくりや人間関係の広がりを促していくものである。

児童が他者と関係を結び、互いに理解し合う関係を育てるためには、様々な教育活動において、社会的接触や交流をする場や機会を用意し、他者の習慣、嗜好、興味・関心、態度、行動様式等の理解を促す必要がある。また、同時に他者の話を傾聴する態度や他者への気持ちのよいかかわり方を身に付けさせる指導も必要である。このような指導を同時期に行うことによって、児童は安心して他者とふれ合い、本音で語り合い、他者とかかわる楽しさや喜びを感得することができると思う。



【図3】 プログラム「理解し合う関係づくり」

2 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの活用

(1) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営は、以下に示す四つの段階で進めていくことにする。

- ア 年間構想の立案
- イ 指導計画の作成
- ウ 実施
- エ 評価と改善

【図4】は、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方の段階と手順である。

(2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方の手順及び留意点

以下、上記の四つの段階で行うことについて述べる。

ア 年間構想の立案

年間構想の立案の段階では、「どのような人間関係」を目指し、「どの時期に」「学級経営プログラムのどのプログラムを活用するのか」を下記(ア)から(オ)により明確にする。したがって、児童の人間関係の育ちを踏まえ、(ア)と(イ)を行い、学級経営プログラムに示したプログラム ~ のどのプログラムまでを活用するのかを決めてから、(ウ)(エ)(オ)の作業に進む。

(ア) 学級経営目標から育てたい児童相互の人間関係の明確化を図り、学級経営方針を検討する。

(イ) 目標達成の手だてとして活用する学級経営プログラムを選定する。

(ウ) 活用する時期や期間を検討し、決定する。

(エ) 必要に応じて「学級活動」「道徳の時間」の年間単元配列を調整する。

(オ) プログラム ~ で扱う「教科・総合的な学習の時間」の単元名を検討する。

イ 指導計画の作成

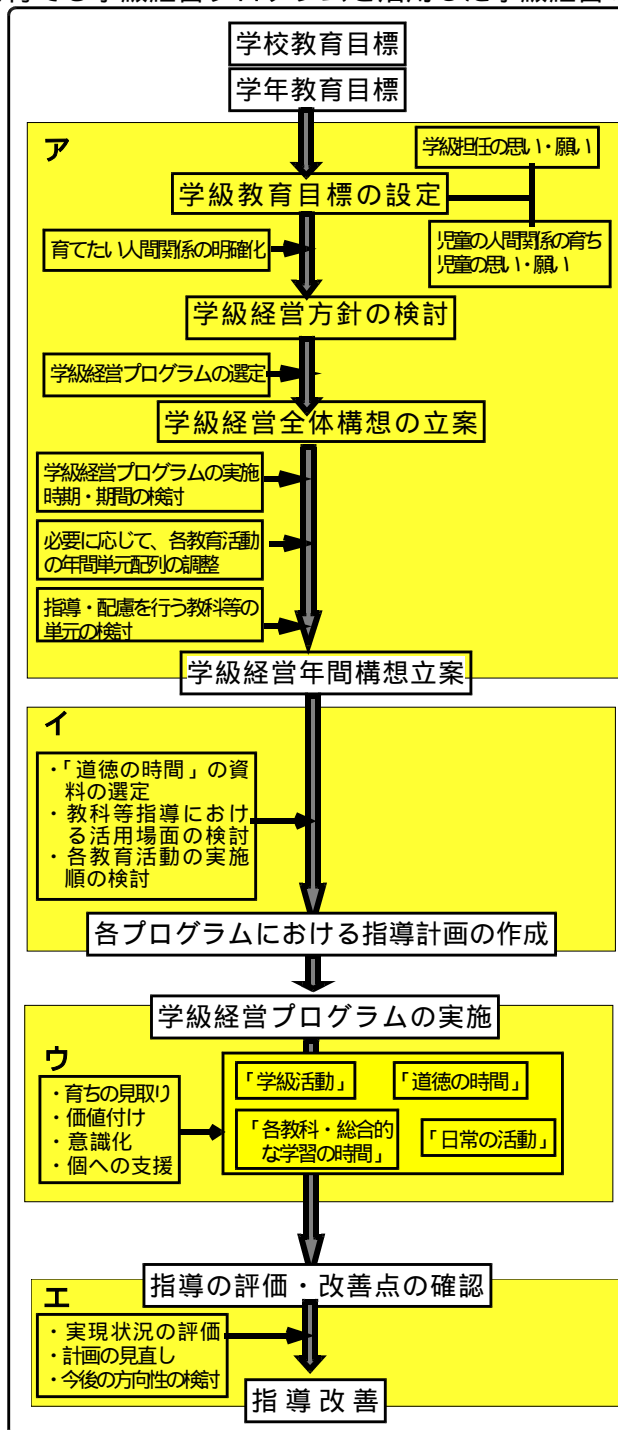
指導計画の作成の段階においては、学級経営プログラムのプログラム ~ に示した各教育活動についての指導内容、活動内容、配慮点を具体化する。作成に当たっては、以下の点に留意する。

(ア) プログラム ~ に示した「活用上の留意点」を参考に指導計画を作成する。

(イ) 「道徳の時間」において扱う資料を検討し、指導計画を作成する。

(ウ) 「各教科・総合的な学習の時間」については、単元のどのような学習場面で指導・配慮が可能なのかを検討し、指導計画を作成する。

(エ) 教育活動間の関連を考慮し、各教育活動の実施順、実施時期を検討する。



【図4】学級経営プログラムを活用した児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の進め方

ウ 実施

実施の段階においては、それぞれのプログラムを活用した指導計画に基づき、各教育活動における指導実践を行う。実施に際しては、以下の点に留意する。

- (ア) プログラムにおける各教育活動の果たす役割や教育活動間の関連を踏まえ、指導・配慮の充実を図る。
- (イ) 他の教育活動や日常の場面で見られた児童の人間関係の育ちを積極的に取り上げ、価値付け、全体へ広げる。
- (ウ) 指導実践期間中、他者とのかかわりを児童のめあてとして設定するなど、児童一人一人に意識化させる。
- (エ) 特に指導・配慮が必要な児童への支援を講じていく。

エ 評価と改善

学級経営プログラムを活用した各教育活動の指導・配慮の実施期間中あるいは実施後に、指導の効果と改善点を検討し、その後の指導に生かすために次のことを行う。

- (ア) 学級経営プログラムのねらい及び各教育活動に示されたねらいに照らし、児童の意識の変容状況や人間関係の育成状況を把握する。
- (イ) 各教育活動の指導・配慮を見直し、改善点を明確にする。
- (ウ) 改善点に基づき、今後の指導・配慮の方向性を検討する。

3 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した指導実践とその分析・考察

(1) 指導実践

指導実践は、花巻市立湯口小学校4年2組（男子13名 女子9名 計22名）の学級を対象として、4月上旬から11月初旬にかけて学級経営プログラムを活用した指導実践を行った。

(2) 指導実践の目的

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本構想に基づき、「年間を見通した段階的な指導」及び「教育活動全体による組織的な指導」の視点に沿って作成した学級経営プログラムの妥当性について指導実践をとおして明らかにする。

(3) 指導実践の計画

ア 計画

指導実践から学級経営プログラムの改善・修正に至るまでの計画は、【表3】に示すとおりである。

イ 実践結果の分析の内容と方法

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本構想に基づいて作成した学級経営プログラムを活用した指導実践後に、次の【表4】に示した内容及び【表5】に示した設問内容により分析と考察を行う。

【表3】指導実践計画

| 実践時期・対象 | 指導実践の流れ |
|--|---|
| < 実践期間 > 平成16年4月8日 ↓ 平成16年11月5日 | ・対象学級の学年段階、児童の実態に応じて、活用する学級経営プログラム及び実践時期を検討する ↓ ・学級経営プログラムを活用した指導実践計画を作成する。 |
| < 対象 > 花巻市立湯口小学校 第4学年1学級児童22名 | ・学級担任による指導実践 ↓ ・学級経営プログラムの修正・改善 |

【表4】分析の内容と方法

| 調査項目 | 対象 | 調査内容 | 調査方法 | 処理・解釈の方法 |
|------------------------|----|---|----------------------|--------------------|
| 学級経営プログラム全体の妥当性 | 教師 | 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上で役立つ点 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上での改善・修正点 | 設問1～2の自由記述 | 指導実践後に調査し、分析・考察をする |
| 学級経営プログラムの四つのプログラムの妥当性 | 教師 | それぞれの学級経営プログラムが役立つ点 それぞれの学級経営プログラムの改善・修正点 | 設問3～10の自由記述 | 指導実践後に調査し、分析・考察をする |
| 児童相互の人間関係の変容 | 教師 | 教師がとらえた児童相互の人間関係の変容 | 設問11の自由記述 | 指導実践後に調査し、分析・考察をする |
| | 児童 | 児童の人間関係の変容や児童の意識の変容 | 指導実践における発言、感想、作文等の記述 | 指導実践の記録を分析・考察をする |

【表5】設問内容

| |
|---|
| 1 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上で、この学級経営プログラムが役に立つと思われる点 |
| 2 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上で、この学級経営プログラムについて、改善・修正を加えた方がよいと思われる点 |
| 3 児童相互の「理解し合う関係づくり」を進める上で、このプログラム が役立つと思われる点 |
| 4 児童相互の「理解し合う関係づくり」を進める上で、このプログラム について修正・改善を加えた方がよいと思われる点 |
| 5 児童相互の「認め合う関係づくり」を進める上で、このプログラム が役立つと思われる点 |
| 6 児童相互の「認め合う関係づくり」を進める上で、このプログラム について修正・改善を加え方がよいと思われる点 |
| 7 児童相互の「協力し合う関係づくり」を進める上で、このプログラム が役立つと思われる点 |
| 8 児童相互の「協力し合う関係づくり」を進める上で、このプログラム について修正・改善を加えた方がよいと思われる点 |
| 9 児童相互の「尊重し合う関係づくり」を進める上で、このプログラム が役立つと思われる点 |
| 10 児童相互の「尊重し合う関係づくり」を進める上で、このプログラム について修正・改善を加えた方がよいと思われる点 |
| 11 児童相互の人間関係についての変容 |
| 12 その他 |

(4) 指導実践の概要

ア 年間指導構想の立案

(ア) 対象学級のプロフィール

指導実践の対象学級は4年生二学級のうちの二学級（男子13名、女子9名、計22名）である。3学年進級時に学級編成替えがあり、現在に至っている。学級担任は、3学年2学期から受けもち、4年生進級後も継続してもちあがっている。児童は、全体的に明るく、素直であり、学級生活のルールも比較的守り、落ち着いた生活ぶりである。学級内の児童間の交友関係は固定化されつつあり、特に女子にその傾向が見られる。休み時間になると外で仲よく遊ぶ姿も見られるが、些細な口論からトラブルになることがある。また、はっきりと自己主張ができず友達とうまくかかわれないことで孤立している児童や、口調が乱暴で相手を傷つけてしまう児童が数名見られる。

(イ) 学級経営の方針と活用する学級経営プログラムの選定

学級担任は、学校教育目標及び学年教育目標を踏まえるとともに、学級の児童の実態から、「友達の立場がわかる子」を学級教育目標の一つの柱として設定し、「相手の喜びや悲しみを感じ取り、一人一人がかけがえのない存在であることを分かり合い、共に助け合い支え合う学級づくり」を学級経営の方針に据えた。この学級経営の方針から、活用する学級経営プログラムを、プログラム「理解し合う関係づくり」、プログラム「認め合う関係づくり」、プログラム「協力し合う関係づくり」、プログラム「尊重し合う関係づくり」の四つとし、順次指導実践を進めることとした。

(ウ) 学級経営年間構想案の実際

学級経営プログラムの四つのプログラムの実践時期は、学級経営プログラムに示した実践時期をベースにしながらも、学校行事や学年行事等を考慮して決定した。また、「学級活動」

における活動内容と「道徳の時間」における指導内容については、指導実践校の「道徳の時間の年間指導計画」「学級指導年間指導計画」を基本に、四つのプログラムに示した内容への組み替えや調整を行った。【表6】は、指導実践学級における学級経営年間構想案である。

【表6】児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営年間指導構想案

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
|----------------------|---|-------------------------------------|---|----------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------|
| 学級経営の重点 | 互いに理解し合う関係づくりを目指す | | 互いに認め合う関係づくりを目指す | | 互いに協力し合う関係づくりを目指す | | | 互いに尊重し合う関係づくりを目指す |
| 活用する学級経営プログラム | プログラム | | プログラム | | プログラム | | | プログラム |
| 学級活動 | 組織作り ゲーム集会 係活動計画 自転車乗り方 運動会を成 功させよう 身体 の清潔 体験活動 | 運動会を成 功させよう 身体 の清潔 体験活動 | 運動会反省 虫歯の予防 廊下歩行 古代村係分 担の話し 合い | 夏休み計画 をしよう お楽しみ 会 | 夏休み反省 組織作り マラソンの ための準備 | 発表会を成 功させよう | どう言っ たの 目の健康 | 本の紹介 生命尊重 |
| 道徳の時間 | 礼儀 挨拶 家族愛 | 節度 節制 思いやり | 信頼 友情 勤勉 努力 | 敬虔 公徳心 誠実 明朗 | 信頼 友情 愛校心 自然愛 | 敬虔 愛国心 節度 節制 | 信頼 友情 勇気 郷土愛 | 生命尊重 思慮 反省 |
| 各教科 総合的な 学習の時間 | <国語 社会 理科> ペア学習の取り入れ 基本的学習習慣の定着 | | <図画工作> 自己評価、相互評価の 取り入れ | | <総合的な学習の時間 音楽> グループ学習の取り入れ | | | <国語> 学び合い学習 の取り入れ |
| 日常的な 活動 | <朝、帰りの会> BS42放送をしよう <給食時間> わくわくランチタイム | | <帰りの会> 今日のキラリ（みんな のよさを見つけよう） | | <帰りの会> 係活動を振り返る活 動 | | | <帰りの会> お悩み相談活動 |
| 学校・学 年行事等 | 始業式 入学式 交通安全教室 身体測定 1年生を迎える会 家庭訪問 | 児童会総会 運動会 知能検査 | ボランティア活動 鑑賞教室 授業研究会 | 古代村体験学習 終業式 お別れ会 | 始業式 夏休み作品展 ボランティア活動 ゲーム大会 | 祖父母参観日 児童会認証式 陸上壮行式 全好ると学習 | 学習定着度調査 校内マラソン大会 音楽発表会 学習発表会 | |

「注」教育活動欄の網掛け箇所は、学級経営プログラムとして実施した内容

イ 学級経営プログラム活用計画及び各教育活動の指導計画の作成

上記の学級経営年間構想を踏まえ、指導実践する四つのプログラム毎に四つの教育活動の「主題名・活動名・単元名」「指導・配慮の主な内容」「ねらい」を明確にし、それぞれの教育活動の「実践時期・期間」「他の教育活動との関連」について検討し、具体化した活用計画を作成した。さらに、それぞれの教育活動における指導・配慮の展開について、指導計画を作成した。

ウ プログラム「理解し合う関係づくり」を活用した指導実践

4頁【図3】に示したプログラムを活用した指導計画案を作成（詳細は別冊資料『学級経営プログラム』参照）し、その指導計画に基づき指導実践を行った。また、各教育活動における指導実践の時期と指導順序は【表7】に示したとおりである。次頁【資料1】は、指導実践の概要を示したものである。

【表7】プログラム「理解し合う関係づくり」における各教育活動の指導実践時期

| 月 | 4月 | | | | 5月 |
|----------------------|--------------|------------------|------------|------------|------------|
| 教育活動 | 第1週 | 第2週 | 第3週 | 第4週 | 第1週 |
| 学級活動 | | 「ゲーム集会をしよう」 | | | |
| 道徳の時間 | まごころをもって、春の星 | | | | |
| 各教科 総合的な 学習の時間 | | 話し方・聞き方の習慣化を図る指導 | 社会（校内施設探索） | 算数（ペアで丸付け） | 国語（音読ペア学習） |
| 理科（春探し） | | | | | |
| 帰りの会「一分間スピーチ」 | | | | | |
| 日常的活動 | ランチ | ランチ | ランチ | ランチ | ランチ |

エ プログラム「認め合う関係づくり」

プログラム「協力し合う関係づくり」、プログラム「尊重し合う関係づくり」を活用した指導実践

指導実践の概要を、10頁【資料2】に示す。

プログラム 理解し合う関係づくり

学級活動の授業の概要

| 活動名 | ねらい |
|-----------|---------------------------------------|
| ゲーム集会をしよう | 他者とふれ合う楽しさを体得させ、他者と積極的にかかわろうとする意欲を高める |

授業の様子

1 **あいこになるように相手を見てジャンケンする**


T 1分間以内になるだけ多くの人とあいこになるようにジャンケンをしてみましょう。「親しき中にも礼儀あり」ですから、挨拶もします。



T 気が付いたことは？
C さっきより難しかった
C 息を合わせてやったらできました
C あいこになったらうれしかったです

2 **集まった4人のグループでジャンケントーキングをする**

今一番ほしい物は、ピアノかな。



ぼくは、チワワです。

T 気が付いたことがありますか？
C みんなが同じことを言って、ほくだけちがうことがおもしろかったです。
C T男さんが大きくなったら、ドラえもんになりたいといったので大ばくしょうになりました。T男さんがこんなことを思っているなんてびっくりしました

3 **振り返りをする**

T 今日の学習はどうでしたか？
C とっても楽しかった。またやりたいです
C 続きをしたいです
C グループを組めなかった人とも話しをしてみたいです
T これからの1年間、たくさんの人いろいろな面を知って、クラスの人ともっと仲よくなっていきましょう。今日は班とは違う人とグループを作って、一緒に給食を食べながら続きの話しをしてみましょう。
C 賛成です

あんまり話したりしない人と話して楽しかったです。ジャンケンしたり、話したりして相手のことがよくわかりました。とても楽しかったです。またやりたいです。

みんなのいるんなことがわかってうれしかったです。みんなの言うことが意外だったりもするって感じるのが楽しかったです。もっとみんなのことが知りたいです。

学習の場での交流

各教科 総合的な学習の時間の様子

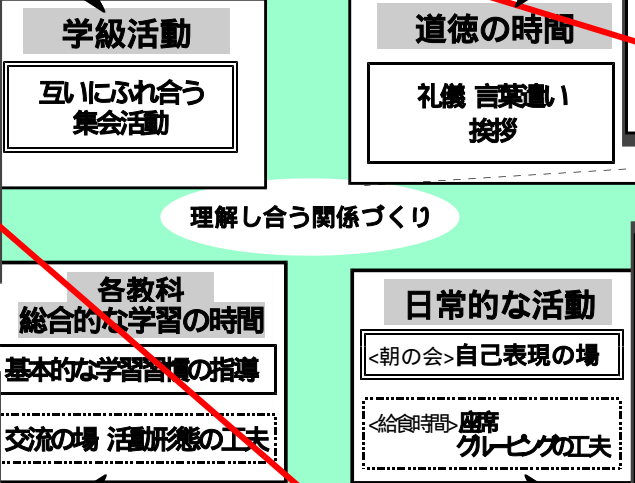
| 配慮点 | ねらい |
|-----------|--|
| ペア学習の取り入れ | 多様な他者との交流を促し、人間関係を広げる <国語、算数、理科、社会> |



今度はぼくが読むね。

お願いします。

| 指導内容 | ねらい |
|---|---------------------------------|
| 発表の態度 ・みんなの方を見る ・大きな声で聞く態度 ・発表者に注目して・うなずいて | 自信をもって発表する態度、発表をしっかりと聞く態度の定着を図る |

他者と気持ちよいかかわりをする上で必要な挨拶・礼儀についての学習を想起させ、実践する場を保障する

日常的な交流の場を設定し、様々な他者の新たな面を知り、ふれ合う楽しさを味わわせる

発表の仕方、聞き方を想起させながらそれらを生かして、スピーチに取り組みさせる


道徳の時間の授業の様子

| 主題名 | 資料名 | ねらい |
|---------------|-----------|--|
| まごころをもって2-(1) | 「春の星」(学研) | 挨拶や、礼儀の大切さに気付き、誰に対しても、気持ちのよい接し方をしようとする気持ちを育む |

授業の様子

役割演技による価値の追求

T 「お先に」と言った時の「わたし」の気持ちは。
C 言ってみてかかった
C 体のどこかがずっきりした
C 次のお客さんのために
T 次に待っていた人がおじぎしてくれましたね。どんな気持ちになったんだろう
C 「ありがとう」という気持ち
C いい人だなあ
C 「お先に」と言ってよかったなあ



価値の一般化

T みんなの生活の中で、挨拶してよかったことはありませんか。
C 帰りの途中で、歩いていた時、「さようなら」と言ったら、おじぎしてくれた
C 近所の人に「おはようございます」と言ったら、「今日もがんばってね」と言われて、とってもうれしかった

終末

T みなさんにこの言葉を言います。「親しき中にも礼儀あり」仲のよい人でも挨拶をしなかったり、乱暴なことを言ったりすると、仲よしくなくなってしまふ、挨拶や礼儀はとっても大切だという意味です。みんなの親しい人、友達とか家族とかの間でも、この言葉を思い出してください。

春の里というお話は、心がすっきりしました。わたしも、学校から帰る途中、道路工事の人に「こんにちは」と言ったら、にっこり笑って、道案内をしてくれました。こんなよつとのことでも人はうれしくなるってすばらしいと思いました。

今日の道徳の時間に、いい言葉を教えてもらったのでよかったです。その言葉は、「親しき中にも礼儀あり」と言う言葉です。わたしは、「おねえちゃんや友達に礼儀なんてやっていなかったなあ」と思いました。「ありがとう」としか言ってなかったで、これからは、もっと言うようにしたいです。

日常的な活動の様子

給食時間の取り組み

| 活動名 | ねらい |
|--------------|--|
| わくわくランチ(全3回) | 様々なグループ編成をして、自由な雰囲気の中で、児童相互のふれ合いや交流を促す |



ぼくの兄ちゃん、超こわいんだよ

えっ、Kくん、お兄ちゃん、いたの？

初めてなった人と給食を食べながら、いろいろな話をしました。その中でも一番話したのは、「世界まるみえ」というテレビの話でした。とても楽しかったです。またやりたいです。

帰りの会の取り組み

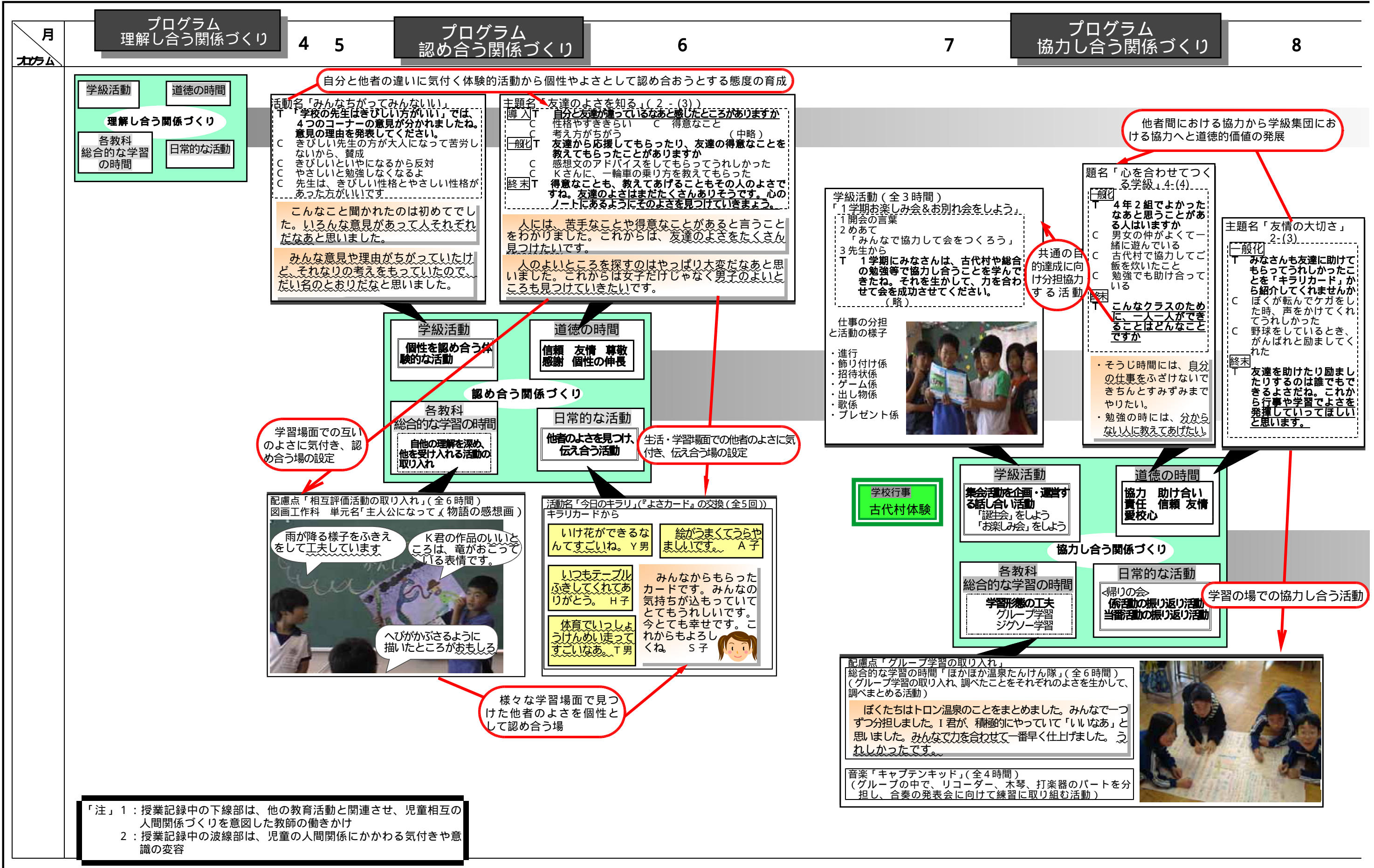
| 活動名 | ねらい |
|---------------|------------------------------|
| 1分間スピーチ(全44回) | 双方向なコミュニケーションを図り、児童相互の理解を深める |

A子(スピーチ内容)
今日は剣道を習いに行く日です。湯口公民館へ行ってみると、(中略)いたいと思っただけど、悔しい気持ちが大きかったです。大きな声を出して、自分の泣き虫のところを直していきたいです。

A子さんへ(感想カード)
剣道を始めたんだねー。初めて知ったよ。剣道をがんばってね。ぼくも、今度の発表を大きな声でがんばってすよ。(H男)

H男くんへ(返信)
H男くんもがんばれー!!
ファイト!!! (A子)

「注」1 授業記録中の下線部は、他の教育活動と関連させ、児童相互の人間関係づくりを意図した教師の働きかけ
2 授業記録及び感想記録中の波線部は、児童の人間関係にかかわる気付きや意識の変容



他者との葛藤が生じる場面での判断力の育成から、実際の行動の仕方を学ぶ学習へ

活動名「こんな時、どう言うの?」(気持ちの伝え方)

T 人には貸したくない物を貸してと言われてたら、どう言ったらいいか実際に言ってみましょう

C こめんね。これはわたしの宝物なの、だから、貸すことはできないの

T この言い方はどうですか

C 自分の気持ちをきちんと言っている

C 相手の気持ちを考えてやさしく言っている

T 言われた方はどんな気持ちになりましたか

C 「うん、わかった」って、思った

T 今日は、自分の気持ちを言葉にしてきちんと伝えること、そして相手の気持ちも考えた言葉の違いや言い方を考えて言うことを学習しましたね

わたしは、自分の思ったことを言っていました。が、相手がきずつかないように言えば、相手もわかってくれるんだなあということがわかりました。

いろいろな言い方を実際にやってみて、言われた方の気持ちもわかりました。相手と自分もきずつかない言い方がよくわかりました。

相手の気持ちを思った対応を在り方を実際のトラブルにおいて生かす場

学級活動

人間関係の諸問題を解決する話し合い活動

・ソーシャルスキルトレーニング

・役割演技

道徳の時間

信頼 友情 親切 公明心

公正 公平 正義 勇気

節度 節制 謙遜 忍 広心

尊重し合う関係づくり

各教科 総合的な学習の時間

ディベート学習

討論形式の話し合い活動

学び合い学習

日常的な活動

<帰りの会>

生活の振り返り活動

主題名「友達への注意」2-(3)

【価値の追求】

T 教えてあげた方がいいのは、どうしてかな

C 友達だからわかってくれる

C まさこさんが同じまちがいをしてしまう

C ぼくだったら、教えてもらった方がうれしい (中略)

【終末】

T 友達に言いにくいことを言うことは難しいことです。けれど、相手のことを思い、どうすることが一番いいのか考えることができればいいですね。

これから友達を大切に、分かり合える友達でいたい。まちがうことはだれにでもあるから、ちゃんと教えてあげたいです。

わたしはこうした場合どうしたらいいか深く考えました。そして、ちゃんとしたことを教えた方がいいと思いました。こういうことはあるかもしれません。その時は、きちんと注意します。

実際の葛藤場面

活動名「お悩み相談」(帰りの会)

(友達とのトラブルの解決相談)

C1(司会) 悩みがある人はいますか

C2 はい、Mちゃんが、「ちゃんがかわいこぶってるよね」と話してくるので困っています

C1(司会) 解決するにはどうしますが、意見を言ってください

C3 仕返す

C1 それは止めた方がいいと思う

C2 止めた方がいいって言うてるんだけど

C4 訳を聞いてみたら、どうしてかって

C5 まず、Mちゃんとそのことをもう一度話し合ったらいいと思う



(5) 指導実践の分析と考察

ア 学級経営プログラムの妥当性にかかわる研究協力校学級担任等の記述分析

【表8】から【表9】は、学級担任教師等の指導実践後の感想についてまとめたものである。

【表8】学級経営プログラム全体の妥当性にかかわる記述

トラブルが起きてからの指導ではなく、目指す学級像に近づける経営を意図的、積極的に進めることができる。年間を見直し、計画的、定期的に児童相互の人間関係の観点から学級経営を見直し、児童に揺さぶりをかけることがとてもよい。人間関係づくりを意識して、様々な学習や活動を結び付け、組み立てることは、点になりがちな指導を線にし、面をつくり、さらに長期的な指導によって、立体的な厚みのある指導ができると思う。プログラムの内容は指導の指針となり、図で示されているのでわかりやすかった。教師と子供たちの目指す学級像とのかかわりから、どのように活用していくのかがわかりにくい。学級の実態に応じて、工夫して活用できそうである。どのような活用ができるのか、バリエーションが示されると参考になる。プログラムのねらいと各教育活動との関連や、教育活動間の関連がわかりにくい。学級活動や日常的な活動は、その内容や進め方が例示されると、指導計画を作成する上で役立つと思う。

「注」 は、役立つと思われる点 は改善・修正を加えた方がよいと思われる点

【表9】学級経営プログラムの四つのプログラムそれぞれの妥当性にかかわる記述

| プログラム 「理解し合う関係づくり」 | プログラム 「認め合う関係づくり」 | プログラム 「協力し合う関係づくり」 | プログラム 「尊重し合う関係づくり」 |
|---|---|--|--|
| もちあがりの学級でも、友達の新たな面に気付かせることができる。また、転入生がある場合も役立つと思う。年度当初に行うことで緊張感をほぐし、学級意識や所属感を感じさせ有効である。以後のよりよい人間関係へと発展が期待できる。道徳の時間と学級活動の関連が示され、わかりやすかった。1分間スピーチやわくわくランチは、普段どんなことを考えているかを分かり合うことができた。クラス替えのあった学級の場合には、一部省略する、アレンジするなど活用のバリエーションが示されるとよい。 | プログラムでの活動において、友達の様々な面を知ることが、プログラムでの友達の個性やよさを見つける活動に役立った。学級活動で他者の違いや個性に目を向け、間をおかず、道徳において、友達のよさを認め合うことの価値について学んだことは、子供の意識がつながり、効果的である。クラス全員のよさを見つけた日常的な活動は、多くの時間を要した。クラスの人数が多い場合の工夫が必要。教師自身が児童一人一人を見取り、計画的意図的に評価していくことが大切であることを付記するとよい。 | 道徳の時間で学習した「助け合おうとする態度」を、実践できる場が各教科や学級活動に用意され、効率的重点的に指導するのに役立った。子供たちにとってもわかりやすかった。行事との関連をもたせた点が効果的である。実践では、一学期に行ったが、学校行事との関連から、実施時期はプログラムに示されたとおり二学期が妥当である。実際には道徳の時間を「信頼・友情」「愛校心」の2時間行った。また、複数の内容項目の扱いも可能であることがわかるような表示にした方がよい。 | 道徳において、友達への注意が大切であることをとらえさせ、実際のかかわり方を学級活動において学ばせる関連はスムーズで、子供たちの意識の上で自然であった。学級活動で扱うロールプレイやソーシャルスキルは、児童の実態に即した指導ができるし、児童も楽しみながら学習できた。道徳の時間で高まった友情に関する価値観が、日常のトラブルを解決しようとする意欲に結び付いたと思う。教科の学習では、問題解決型の学習において効果的であると思う。 |

「注」は表8に同じ

これらの記述からわかることは、次のとおりである。

- ・学級経営プログラムは、人間関係のトラブルを解決する指導から、人間関係を意図的、積極的に育てる指導へと転換させ、目指す学級像へ近づける経営を進めることができること。
- ・年間を見通して活用することで、児童相互の人間関係を育てるといった観点から学級経営を見直し、計画的定期的に児童への指導を進めることができること。
- ・各教育活動の関連を図った学級経営プログラムは、点になりがちな各教育活動における指導を結び付け、長期的、継続的な指導を可能とすること。
- ・学級経営プログラムの内容は、指導を進める上で指針となること。
- ・プログラム は、年度初めの緊張感をほぐし、互いの考えを知り合わせ、友達の新たな面に気付かせることで、学級意識を感じさせることができること。また、次のプログラム のよさの認め合いの活動につながる。
- ・プログラム は、自他の違いの理解から、違いをよさとして認め合う態度の育成、そして、よさを見つけ合う活動が間をおかず連続させることができ、効果的な指導ができること。
- ・プログラム は、「道徳の時間」でとらえた道徳的価値について実践化を図る場として「各教科・総合的な学習の時間」、「学級活動」が位置付けられ、重点的な指導に役立つこと。
- ・プログラム は、「道徳の時間」で道徳的価値を理解し、具体的な行動の在り方を「学級活動」で学び、日常の生活へ生かすといった関連がスムーズで、児童にとっては自然であること。
- ・児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進めるためには、目指す学級像と学級の児童の育ちを踏まえて、学級経営プログラムをどのように活用していくのかという活用の仕方といった観点から、学級経営プログラムを見直す必要があること。また、それぞれのプログラムにおける各教育活動のねらいや教育活動間の関連等実施上の留意点について、内容の改善及び示し方の工夫をするとともに、参考となる指導計画例を提示する必要があること。

イ 児童相互の人間関係及び児童の意識の変容にかかわる研究協力校学級担任等の記述分析と児童の記録分析

【表10】は、学級担任教師等の指導実践後の感想についてまとめたものである。また、指導実践における児童の感想や発言の状況については、【資料1】及び【資料2】にその一部を示した。

【表11】は、指導実践後に、児童が記述した作文の抜粋である。

【表10】児童相互の人間関係及び児童の意識の変容にかかわる記述

| プログラム 「理解し合う関係づくり」 | プログラム 「認め合う関係づくり」 | プログラム 「協力し合う関係づくり」 | プログラム 「尊重し合う関係づくり」 |
|--|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・話題が豊富になったことで、休み時間のおしゃべりや男女間の会話が多く見られるようになった ・お互いの考えを知ることにより、自分の考えに自信をもって言えるようになった。特に、今まで発言の少なかった児童の発言が増えてきた。 ・授業中のプリントの受け渡しや集配時に「お願いします」「ありがとう」の挨拶を言い合う児童が増え、学級の雰囲気よくなった。 ・児童の中から、友達同士の失礼な呼び方は止めようという意見が出され、話し合いの契機になった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習時間に、発言した友達のよさを認めようとする子供が多くなった。 ・普段友達との会話の少ない子が、学級活動を機に、休み時間に友達とおしゃべりに興じる姿が見られるようになった。 ・多様な面から自分のよさを全員から認められ、とても喜んでいました。この経験が大きな自信となり、学級での活動や友達のかかわりに積極的になった児童や、素直に自分の非を認めることができるようになった児童が見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年行事では、分担の仕事以外でも助け合いながら、不満を口にする者もなく、炊事や後片付けに取り組んでいた。事後の作文には、多くの児童が協力して活動できた満足感を書いていた。 ・学年集会での出し物をグループ毎に取り組みたいという意見が多く出された。協力して物事を成し遂げることの楽しさを知ったことで、グループで力を合わせて何かしたいという意欲が出てきた。 ・最近では、男子のサッカー遊びに女子が入って遊ぶようになった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習場面において、間違いをおそれず、わからないことは分からないとはっきりと言える子供が増えてきている。 ・帰りの会で、互いの係活動や当番活動についての意見やアドバイスを率直に言い合うようになった。 ・相手を傷つける発言をした児童にすかさずたしなめる言葉を発した児童がいた。相手の気持ちを考え、嫌な思いをさせないという学級の雰囲気ができてきていると感じる。 ・友達との悩みを互いに共有し、アドバイスをしたり、解決へ向かおうとする態度が見られるようになった。 |

【表11】児童の作文における記述の抜粋

| |
|---|
| <p>わくわくランチをしてたくさんの友達ができました。楽しくおしゃべりができて、いつも楽しみにしています。他にも自分のいいところを見つけてカードに書いてくれました。ぼくはバドミントンをやっているの、「バドミントンがんばってね」とか「大会がんばって」などのカードを読みました。自分でびっくりしたことは、3年生の時あまりしゃべらなかつたKさんと、4年生になってとてもたくさんしゃべっています。いつも朝、「ハリーポッター」の話をしています。ぼくの楽しみです。 (I男)</p> |
| <p>3年生のころはあんまりしゃべらなかつたけど、今ではいっぱいしゃべるようになりました。外で遊ぶときは、男女関係なくサッカーや野球をしています。勉強の時は、教えてくれたりしていいなと思います。金魚のお世話も手伝ってくれます。チャボの世話当番でも、手伝ってくれる人が3人もいます。なんでこんなにみんなやさしいのかなあとと思います。こんな4年2組がいつまでも続くといいなあとと思います。 (N男)</p> |
| <p>4年生になってから、I君やS君やK君や女の子たちが一緒にサッカーや野球をして遊んでいるので変わったなあとと思います。あと、去年よりみんなが男子女子関係なく遊んでいるのでいいなあとと思いました。けんかをしてもすぐ仲直りするところがまたいいなあとと思います。 (S男)</p> |

これらの記述や記録からわかることは以下のとおりである。

- ・プログラム では、児童間、特に男女間の交流が活発になり、児童の人間関係に広がりが見られると同時に、挨拶やお礼等気持ちよいかかわりをしようとする児童が増え、学級の雰囲気よくなったこと。
- ・プログラム では、他者の個性をよさとして受け入れ、認め合おうとする姿が見られるようになったこと。また、よさを認められたことが自信となり、友達に積極的にかかわるようになったり、素直に自分の非を認めることができるようになったり、これまでおとなしい児童がおしゃべりに興じるようになったりする等の育ちが見られたこと。
- ・プログラム では、協力して物事を成し遂げることの楽しさを知り、行事等で互いに進んで助け合って活動する姿が見られたようになったこと。また、グループでの活動に意欲をもつようになったこと。
- ・プログラム では、進んで自分の主張を率直に述べたり、相手の立場に立って互いにアドバイスし合ったりする等互いによりよい関係や楽しい学級生活を築こうとする学級の雰囲気が醸成されてきていること。

以上ア、イの分析結果から、学級経営プログラムは、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上で有効であることを確かめることができた。また、学級経営プログラムを、学級経営の方針や児童の実態に応じた活用の在り方及び手順といった観点から検討し、学級担任教師が学級経営プログラムを活用する上で指針となる「活用の手引き」及び活用の参考となる「活用例」「教

育活動間の関連例」「各教育活動の指導計画例」を付記することとした。また、それぞれのプログラムにおけるねらいと各教育活動との関連、各教育活動の活用上の留意点及び他の教育活動との関連について、見直し、表記の仕方について修正・改善を加えたいと考えた。

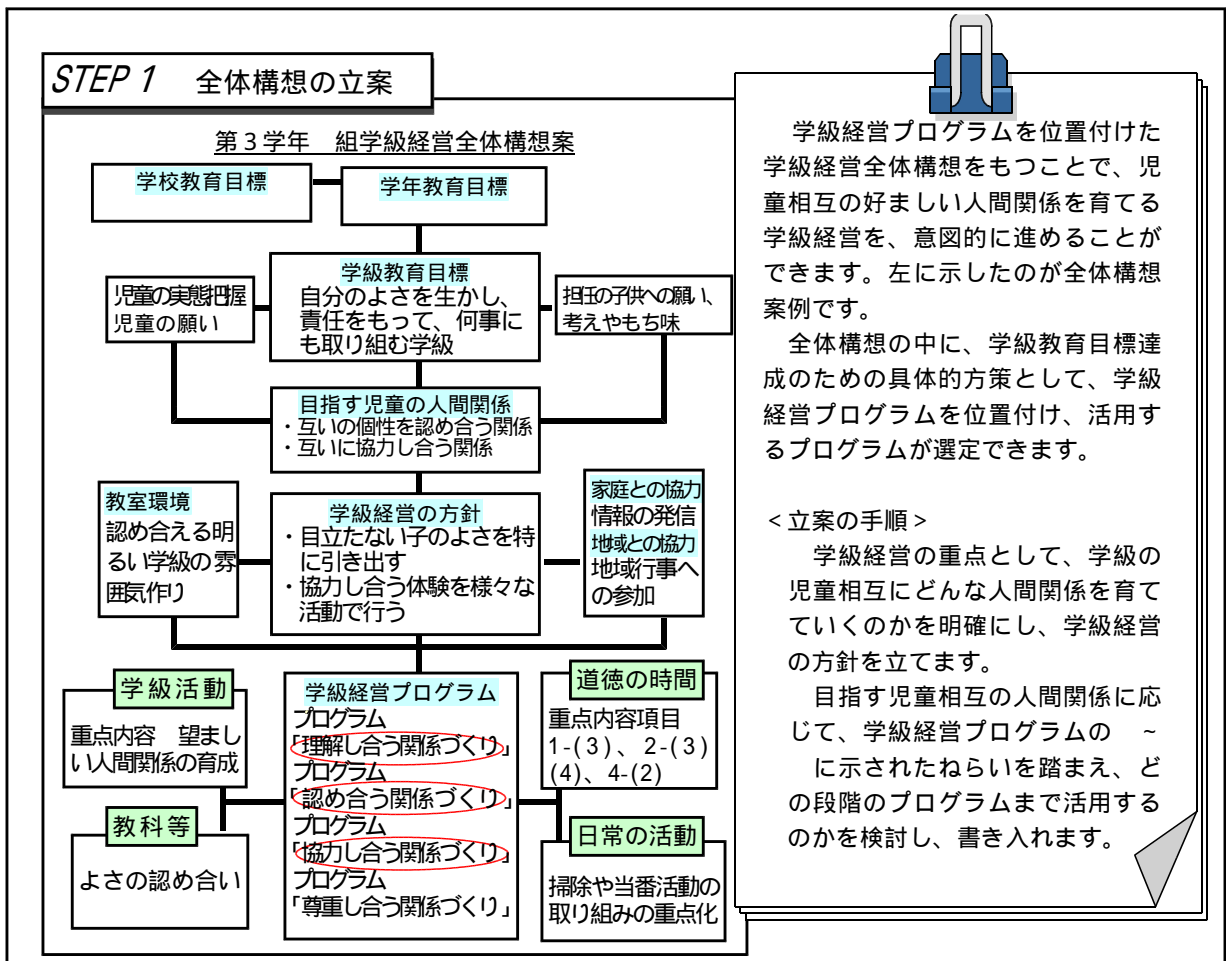
- (6) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正の視点
指導実践の結果を基に、4頁に一部抜粋して示した学級経営プログラムを次のような視点から改善・修正し、学級経営プログラム(【別冊資料】『学級経営プログラム』)を提示することにした。

- (1) 学級経営プログラムの活用の手引きを付記すること
 ア 学級経営の方針に応じた活用の手順の提示すること
 イ 学級経営プログラムの活用例を提示すること
 ウ 学級経営プログラムにおける教育活動間の関連例を示すこと
 (2) 四つのプログラムにおける内容を見直し、表記を工夫すること
 ア プログラムのねらいと教育活動との関連について見直し、表し方を改善・修正すること
 イ 各教育活動の活用上の留意点を見直し、他の教育活動との関連を明記すること
 (3) 学級経営プログラムを活用した指導計画案を例示すること

- 4 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正
 学級経営プログラムの改善・修正の視点に沿って、作成した箇所を以下に例示する。

- (1) 学級経営プログラムの活用の手引きの作成と付記
 学級経営プログラムを学級経営にどのように位置付け、活用していくのかについての計画、実施、評価の段階毎に手順や留意点、活用例、教育活動間の関連例についてまとめ、活用の手引きとして提示することにした。以下ア～イはその抜粋である。
 ア 学級経営の方針に応じた活用の手順の提示
 学級経営の方針からプログラムを選定する手順について【資料3】のように、図式化して示した。

【資料3】学級経営プログラムの活用の手順の提示(『学級経営プログラム』「第2章」より抜粋)



- イ 学級経営プログラムの活用例の提示
 プログラム ~ を順次活用する基本的な活用の他に、学級担任が工夫して活用できるように、【資料4】に示すように、適応する状況例と共に活用例を提示した。
 【資料4】学級経営プログラムの活用例の提示（『学級経営プログラム』「第1章」より抜粋）

| 特長3 学級の児童の育ちや人間関係の実態に応じた活用もできます | |
|--|---|
| 学級経営プログラムは、【図3】に示したように、一年間の学級経営においてプログラム1～へと順次活用することが基本ですが、学級担任が育てようとする児童相互の人間関係の姿、児童相互の人間関係の育ちに応じて、工夫して活用することもできます。 | |
| 【表1】学級経営プログラム活用の工夫 | |
| 適応状況と活用の工夫 | 活用の工夫例 |
| <状況> 学級の児童の発達段階を考慮し、目指す人間関係の姿に応じた活用 | 「互いに認め合う人間関係」を目指す場合 プログラム ○ ○ |
| <工夫> 活用するプログラムを限定する | 「互いに協力し合う人間関係」を目指す場合 プログラム ○ ○ ○ ○ |
| <状況> もちあがり学級や年度途中からの活用 | 「互いに理解し合う人間関係」が十分育っていると判断する場合 プログラム ○ ○ ○ ○ |
| <工夫> 児童の人間関係の育ちを踏まえ、前段のプログラムを割愛する | 「互いに認め合う人間関係」が十分育っていると判断する場合 プログラム ○ ○ ○ ○ |
| <工夫> 必要なプログラムを繰り返す | 「互いに協力し合う人間関係」が十分育っていると判断する場合 プログラム ○ ○ ○ ○ ○ ○ |
| <状況> 目指す人間関係育成を徹底したい場合や指導効果が十分得られない場合に活用 | 学期毎に扱い、「互いに認め合う人間関係の定着化を図る場合等」 プログラム ○ ○ ○ ○ ○ ○ |
| <工夫> 必要なプログラムを繰り返す | 「互いに協力し合う人間関係」の育成が十分ではないと判断する場合等 プログラム ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ |

- ウ 学級経営プログラムにおける教育活動間の関連例の提示
 学級経営プログラムにおいて展開する教育活動間をどのようにつなげ、どのような関連をもたせるのかについて、関連のタイプと関連例を提示し、学級担任が学級経営プログラムを工夫して活用できるようにした。

【資料5】学級経営プログラムにおける教育活動間の関連例の提示（『学級経営プログラム』「第2章」より抜粋）

| 【表8】教育活動間の関連のタイプと関連例 | | |
|-----------------------------|--|---|
| 関連のタイプ | 関連の内容 | 関連例と意図 |
| 並行影響型 | 教育活動A → → → → → 教育活動B → → → → → <ul style="list-style-type: none"> 複数の教育活動を同時期に並行して行う | 教科・総合的な学習の時間 → → → → → 日常的な活動 → → → → → <ul style="list-style-type: none"> 指導・配慮をそれぞれの教育活動において充実させることで、重点化を図る |
| 連続発展型 | 教育活動A → → → 教育活動B <ul style="list-style-type: none"> 共通のねらいをもつ複数の教育活動を連続させることで、指導・配慮の場や機会を広げる 異なるねらいをもつ複数の教育活動を連続させ、それぞれの指導・配慮を効果的に行う | 学級活動 → → → 日常的な活動 学級活動 各教科等 → → → 道徳の時間 道徳の時間 → → → 各教科等、日常的な活動 <ul style="list-style-type: none"> 学級活動での活動内容を日常的な活動の場へと移行させ、活動の日常化を図る 学級活動等で他者とかがかわった体験を道徳の時間において、想起させ、内面の自覚化を図る 道徳の時間の学習を生かす場を各教科等、日常的な活動において設定し、実践化を促す |
| 問題解決型 | 教育活動A → ~ ~ ~ 教育活動B <ul style="list-style-type: none"> 異なるねらいをもつ複数の教育活動を、問題解決的な学びとつながるように意図してつなげる | 道徳の時間 → ~ ~ ~ 学級活動 → ~ ~ ~ 日常的な活動 <ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間において育くんだ他者とのかがわりに関する価値の内面化から、現実の場面でどのように行動するべきかを学級活動において話し合い、日常的な活動において、具体的な問題を解決していく |

(2) プログラム ~ の見直しと表記の工夫

プログラム ~ のそれぞれを、以下のア、イで示す内容について改善・修正をした。

ア プログラムのねらいと教育活動との関連の見直しと表記の改善・修正

それぞれのプログラムにおいて具体化した三つのねらいと各教育活動のねらいとのかかわりを整理し、三つの具体化したねらいの達成に特に重要な教育活動が一目でわかるように【資料6】のように表に示すことにした。

【資料6】学級経営プログラムにおけるねらいの具体化と各教育活動との関連についての表記例
(『学級経営プログラム』「第3章」プログラム より抜粋)

| プログラム1のねらいと教育活動のかかわり | | 学級活動 | 道徳の時間 | 各教科等 | 日常的活動 |
|---|----------------------------------|------|-------|------|-------|
| <ねらい> 互いにふれ合い、互いの嗜好、習慣、興味・関心、行動様式等を理解し合う関係を育てる | | | | | |
| 具 体 化 | 他者と交流をとおして多様な他者の様々な側面に気付かせる | | | | |
| | 他者とかがわる楽しさやおもしろさを体得させる | | | | |
| | 他者への気持ちのよい接し方を学ばせ、実践しようとする態度を育てる | | | | |

イ 各教育活動の活用上の留意点の見直しと他の教育活動との関連の明記

各教育活動の実施上の留意点と他の教育活動との関連が混在した活用上の留意点を見直すとともに整理し、【資料7】のように分けて簡潔に表示することにした。

【資料7】学級プログラムにおける各教育活動の活用上の留意点と他の教育活動との関連についての表記例 (『学級経営プログラム』「第3章」プログラム より抜粋)

| 活用上の留意点 | | 留意点 | 他の教育活動との関連 |
|------------------|------|--|--|
| 学 級 活 動 | 学級活動 | ・どの児童もすぐに参加でき、児童同士が直接ふれ合い、体全体で楽しめる体験的な活動を行う | 一時的な体験に終わらせないように「日常の活動」につなげ、明るく楽しい学級の生活への期待をもたせる |
| | | ・互いに自分の嗜好や趣味等を紹介し合わせる等して、これまで気付かなかった他者の面に気付かせる | |
| | | ・他者と向き合い互いに語り合うことの楽しさやおもしろさを体得させる | |
| | | ・自然な形で他者との関係づくりが進められるよう和やかな雰囲気心がける | |
| 道 徳 | 道徳 | ・礼儀や挨拶、マナーは、他者との人間関係をよりよくしていくことにつながることを内面的に自覚させる | 「日常生活・学習場面」での実践を意欲付け、基本的な行動様式として定着化を図る |
| | | ・普段の自分の在り方を振り返らせ、実践していこうとする態度を育成する | |
| 教 科 等 | 教科等 | ・より多くの他者と学習ができるように、ペアを定期的に組み替える | 「道徳の時間」と関連付け、話し方や聞き方などが身に付くように繰り返し指導する |
| | | ・ペアから、小グループへ、さらに学級全体へとコミュニケーションを図る場の範囲を徐々に拡大し、安心して自分を述べられるよう配慮する | |
| 日 常 活 動 | 日常活動 | ・様々な機会と場をとらえ、様々な他者との交流を促す | 「学級活動」における体験的な活動と関連させ、交流の日常化を図る |
| | | ・楽しく自由な雰囲気の中で互いにふれ合ったり、感情を共有し合ったりする体験をとおして、仲間意識を高めていく | |

(3) 学級経営プログラムを活用した指導計画案の例示

学級経営プログラムの活用を計画、実施する上で参考となる指導計画例を提示することにした。そこで、指導実践において作成した【資料8】に示すような活用計画案と【資料9】に示すような主な教育活動の指導計画案をプログラム ~ に例示することにした。

【資料8】学級経営プログラムの活用計画例（『学級経営プログラム』「第3章」プログラムより抜粋）

プログラム 「理解し合う関係づくり」 活用計画案

1 ねらい

互いにふれ合い、互いの嗜好、習慣、興味・関心、行動様式等を理解し合う関係を育てる
他者と交流をとおして多様な他者の様々な側面に気付かせる
他者とかかわる楽しさやおもしろさを体得させる
他者への気持ちのよい接し方を学ばせ、実践しようとする態度を育てる

2 実施期間 4月第1週～5月第2週

| | | | | | |
|---------------|------|--------|-----|-------|-----|
| 4月第1週 | 第2週 | 第3週 | 第4週 | 5月第1週 | 第2週 |
| 道徳の時間 | 学級活動 | 日常的な活動 | | | |
| 各教科・総合的な学習の時間 | | | | | |

3 各教育活動の概要と関連

【資料9】各教育活動の指導計画例（『学級経営プログラム』「第3章」プログラムより抜粋）

「学級活動」指導計画案

1 活動名 「ゲーム集をしよう」

2 ねらい
他者とふれ合う楽しさを体得させ、他者と積極的にかかわろうとする意欲を高めると共に、児童相互の人間関係をつくったり、広げたりする。

3 他の教育活動との関連
「道徳の時間」における他者との気持ちよい接し方の実践の場として位置付ける
「日常的な活動」において、児童が互いにふれ合う場や機会を広げ、日常化へとつなげる

4 本時の展開

| | 学習活動 | 指導上の留意点（関連上の留意点） |
|---------------|---|---|
| 導 入 (5) | 1 本時の活動のねらいと内容を理解する 学級のいろんな人とジャンケンをしたり話をしたりするゲームです。普通のジャンケンとは違うところがあるので説明をよく聞いて楽しくやりましょう。 | ・今日の活動の趣旨を説明する ・新年度を機に、新しい気持ちで楽しい学級づくりをみんなできていこうとする雰囲気作りをする |
| 展 開 | 2 ジャンケンゲームを行う (1) 「1分間ジャンケン」ゲームをする 1分間にできるだけ多くの相手とジャンケンをして、勝った回数を覚えておきます。同じ相手とは続けてしないで、時間の許す限りいろんな人と行います。 (2) 「あいこでジャンケン」ゲームをする 今度はグー(0)、人差し指(1)、二本指(2)、三本指(3)、四本指(4)、パー(5)を使います。勝ち負けのジャンケンではなく、相手とあいこが出るまで続けます。同じ数になったらお互いに握手をして別れます。これを繰り返します (3) 「ジャンケントーキング」ゲームをする | ・三つのゲームは、連続して行うので、端的に説明しテンポよく進める ジャンケンの相手とは、「よろしくお祈いします」「ありがとうございました」の挨拶をすることが大切であることを補足する ・説明の際には、教師と一人の児童が実際にみんなの前でやってみせる ・「1分間ジャンケン」ゲームでは、「多くの児童とかかわること」、「あいこでジャンケン」ゲームでは、「自然に相手と目を見合わせ、気持ちを合わせようとする」と、「ジャンケト |

5 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究のまとめ

本年度の研究目標は、2年次研究の完結年度として、昨年度作成した学級経営プログラムを活用した指導実践、その分析と考察をとおして、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方についての研究の妥当性を検討し、学級経営プログラムの改善・修正をすることであった。

ここでは、学級経営プログラムを活用した指導実践によって明らかになった成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア 児童相互の人間関係を、年間をとおして、「理解し合う関係づくり」から、「認め合う関係づくり」、「協力し合う関係づくり」、「尊重し合う関係づくり」へと段階的に育てる学級経営プログラムは、児童間に生じた人間関係にかかわる問題に対処する指導から、児童相互の好ましい人間関係を積極的に育てる指導への転換を図り、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を計画的、長期的に進める上で有効であること。

イ 「学級活動」、「道德の時間」、「各教科・総合的な学習の時間」、「日常的な活動」の各教育活動全体をとおして、児童相互の好ましい人間関係を組織的に育てる学級経営プログラムは、様々な教育活動において単発的に行われがちな指導を結び付け、それぞれの特質を生かしながら効果的に関連付けたりすることができ、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を意図的、重点的に進める上で有効であること。

ウ 児童が互いにふれ合い、互いの嗜好、習慣、興味・関心、行動様式等を理解し合う関係を育てることを意図したプログラムは、年度当初に行うことで緊張感をほぐし、児童間、男女間の交流を活発にさせ、児童の人間関係を広げる上で効果的であること。加えて、互いの理解が、次のプログラムでの活動へとつながり、効果的なこと。

また、プログラムの活用によって、挨拶やお礼等気持ちよいかかわりをしようとする児童が増え、学級の雰囲気がよくなったこと。

エ 児童が互いのよさや違いを理解し合い、価値あるものとして、認め合う関係を育てることを意図したプログラムは、自他の違いの理解から、違いをよさとして認め合う態度の育成、そして、よさを見つけ合う活動を連続させることができ、効果的な指導ができること。

また、プログラムの活用によって、自他の個性を認め合い、友達に積極的にかかわるようになったり、素直に自分の非を認めるようになったりする等児童の育ちが見られたこと。

オ 児童が互いによさを生かしながら、共に助け合い、共に協力し合う関係を育てることを意図したプログラムは、「道德の時間」でとらえた道德的価値について実践化を図る場として「各教科・総合的な学習の時間」、「学級活動」が位置付き、重点的な指導に役立つこと。加えて、行事との関連をもたせることで、より効果的な指導ができること。

また、プログラムの活用によって、児童が協力して物事を成し遂げることの楽しさを知り、行事等で互いに進んで助け合って活動する姿が見られたようになったこと。

カ 児童が互いの思いや考えを理解し、互いに高め合い、尊重し合う関係を育てることを意図したプログラムは、「道德の時間」で道德的価値を理解し、具体的な行動の在り方を「学級活動」で学び、日常の生活へ生かすといった関連がスムーズで、児童にとっては自然であること。

また、プログラムの活用によって、進んで自分の主張を率直に述べたり、相手の立場に立って互いにアドバイスし合ったりする等、互いによりよい関係や楽しい学級生活を築こうとする学級の雰囲気が醸成されてきていること。

キ 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める学級経営プログラムは、学級担任が活用する上で、指針となる「活用の手引き」や参考となる「活用例」「指導計画案」の例示を付記するといった改善・修正が必要であること。

(2) 課題

ア 本実践は4学年の学級経営を対象として進めたが、他の学年における学級経営においても指導実践をし、学級経営プログラムの有効性をさらに検討する必要があること。

イ 指導実践を重ね、学級経営プログラムの改善点及び修正点をさらに探る必要があること。

以上のことから、課題は残るものの、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方についての基本的な考え方から作成した学級経営プログラムの活用は、小学校における学級経営の充実に役立つであろうという見通しをもつことができた。

研究のまとめ

この研究は、平成15年度から平成16年度の2年間にわたって行われたものであり、ここでは2年間の研究の成果と課題についてまとめることとする。

本研究の目的は、学級経営プログラムの作成と活用をとおして、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方を明らかにし、小学校における学級経営の充実に役立てようとするものである。

研究第1年次目に明らかにした児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の視点を基に、第2年次は、第1年次目に作成した学級経営プログラムを活用した指導実践、分析・考察、改善・修正を行い、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方について明らかにするという方向で研究を進めた。文献研究から児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める視点として「年間を見通した段階的な指導」「教育活動全体による組織的な指導」を見だし、これら二つの視点に基づく学級経営プログラムを作成した。そして、学級経営プログラムを活用した指導実践及びその分析・考察を行い、さらに学級経営プログラムを改善・修正した。

こうした研究の過程をとおして、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方について明らかにするための、本研究の研究の見通しが妥当であることを確かめることができた。

以下、具体的な研究内容に即して述べる。

1 研究の成果

(1) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営についての基本的な考え方の検討

主題にかかわる先行研究や文献により、児童相互の好ましい人間関係を構成する要素「相互理解」「相互受容」「相互協力」「相互尊重」を明らかにし、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方についての基本的な考え方を検討することができた。

(2) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本構想の立案

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営についての基本的な考え方に基づき、学級経営プログラムにおける作成の視点「年間を見通した段階的な指導」「教育活動全体による組織的な指導」について明らかにし、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する基本構想を立案することができた。

(3) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの作成

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営に関する基本構想に基づき、教育活動の関連を図った、四つのプログラム「理解し合う関係づくり」「認め合う関係づくり」「協力し合う関係づくり」「尊重し合う関係づくり」を作成することができた。

(4) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの活用

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方の手順及び留意点を、「年間指導構想立案」「各教育活動の指導計画作成」「実施」「評価・改善」の段階毎に明らかにすることができた。

- (5) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した指導実践とその分析・考察
研究協力校における学級経営プログラムを活用した指導実践をとおして、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営についての基本的な考え方に基づき、「年間を見通した段階的な指導」「教育活動全体による組織的な指導」の視点から作成した学級経営プログラムが、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進める上で有効であるという見通しをもつことができた。
- (6) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの改善・修正
児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した指導実践の結果の分析と考察から、学級経営プログラムの改善・修正の視点、「活用の手引きの付記」「内容の見直しと表記の工夫」「指導計画案の例示」を明らかにし、これらの視点に基づき、学級経営プログラムを見直し、改善を図ることができた。
- (7) 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方に関する研究のまとめ
指導実践の分析・考察を基に、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方についてまとめることができた。

2 今後の課題

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営が十分機能するためには、児童と教師の信頼関係がその基盤として不可欠であると考えられる。したがって、今後、児童と教師の人間関係づくりも視野に入れた研究を進めていく必要がある。

おわりに

この研究を進めるにあたり、ご協力頂きました研究協力校の先生方、児童のみなさんに心からお礼を申し上げます。

【参考文献】

- 相川充 編 (1995), 『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』, 小学館
 安達昇・川崎史人・平井浩明 (2004), 『みんなとの人間関係を豊かにする教材55』, 小学館
 井上祐吉 (1996), 『学級集団経営』, 明治図書
 押谷由夫 (1995), 『総合単元的道徳学習論の提唱』, 文溪堂
 押谷由夫・伊藤隆二 編著 (1999), 『新小学校教育課程講座 道徳』, ぎょうせい
 菊池章夫・堀毛一也 編著 (2002), 『社会的スキルの心理学』, 川島書店
 岸田元美 (1980), 『人間的接触の学級心理学』, 明治図書
 埼玉県立北教育センター (1998), 『児童生徒の好ましい人間関係を育てる指導法の研究』
 佐賀県教育センター (2003), 『豊かな人間関係を育む学級経営の進め方に関する研究』
 下村哲夫・天竺茂・成田國秀 (1994), 『学級経営実践講座 学級経営の基礎・基本』, ぎょうせい
 田上不二夫 編著 (2003), 『対人関係ゲームによる仲間づくり』, 金子書房
 津村俊充 編 (2002), 『子どもの対人関係能力を育てる』, 教育開発研究所
 栃木県教育研究所 (1999), 『豊かな人間関係を育てる学級経営』
 永岡順・奥田眞丈 編 (1995), 『新学校教育全集 学級・学年経営』, ぎょうせい
 八田久弥 編 (2001), 『人間関係を豊かにする授業実践プラン50』, 小学館
 平井文雄・富山保・平林俊彦 (2000), 『新しい学級経営の条件』, 学陽書房
 山形県教育センター (2003), 『変化する子どもと信頼関係を築く学級経営の研究』

【別冊資料】『学級経営プログラム』

学級経営プログラム

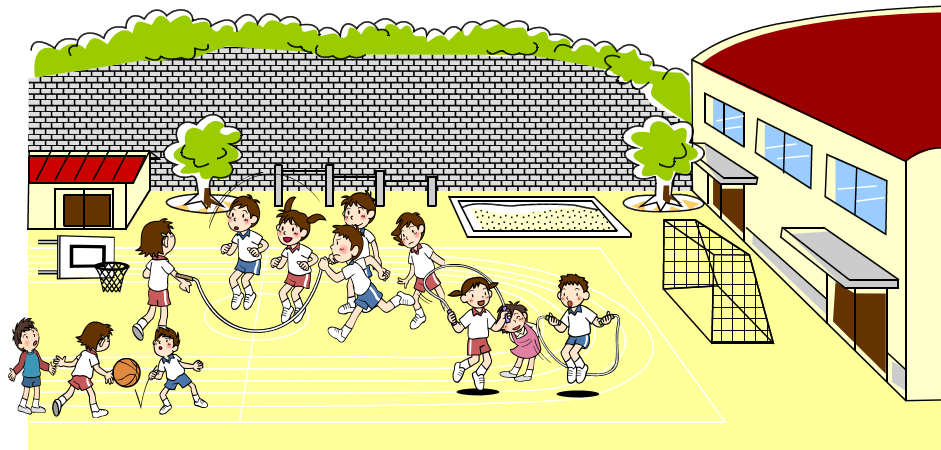
児童相互の

好ましい人間関係を育てる

学級経営のために



平成17年2月8日
岩手県立総合教育センター



はじめに

現在、学校教育では、学級崩壊、いじめ、不登校等学級の人間関係にかかわる問題も見受けられます。このことは、家庭や地域における児童の人間関係の希薄さや社会体験の不足から、他者との適切なかかわり方を学ぶ機会が少なくなっていることに加えて、学級における指導が児童相互の人間関係の修復を図る指導にとどまっている状況が多いことによると考えられます。

このような状況を改善していくためには、児童相互の好ましい人間関係を意図的、計画的に育てる学級経営を進めていくことが必要です。そこで、児童相互の好ましい人間関係を育てる年間の指導構想を立案し、具体的な指導計画を作成するための指針となる学級経営プログラムを作成しました。

初めて学級担任として学級経営を考えようとしている新任の先生や、これから児童相互の人間関係を育てることに重点をおいた学級経営の構想や具体的な計画の立案に取りかかろうとする先生、日々児童相互の人間関係にかかわる問題の解決に追われている先生方のために、少しでも経営のヒントにしていいただければと思います。

CONTENTS

はじめに

第1章

学級経営プログラムとは何か？・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

ー児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方ー

- 1 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の基本的な考え方・・・・・・・・・・ 2
- 2 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラム・・・・・・・・・・ 3
- 3 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの特長・・・・・・・・・・ 4

第2章

学級経営プログラムの活用の手引き・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

ー児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の進め方ー

- 1 学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方・・・・・・・・・・ 5
- 2 学級経営プログラムを活用した学級経営の計画・・・・・・・・・・ 6
- 3 学級経営プログラムを活用した学級経営の実施・・・・・・・・・・ 9
- 4 学級経営プログラムを活用した学級経営の評価・・・・・・・・・・ 9
- 5 学級経営プログラムにおける教育活動間の関連・・・・・・・・・・ 10

第3章

学級経営プログラムの展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

ー児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の展開ー

- 1 プログラムⅠ「理解し合う関係づくり」・・・・・・・・・・12
活用計画案例・・・・・・・・・・14
指導計画案例「学級活動」(ゲーム集会をしよう)・・・・・・・・15
「道徳の時間」(まごころをもって)・・・・・・・・16
「日常的な活動」(BS42放送をしよう・仲良しランチタイム)・・・・17

- 2 プログラムⅡ「認め合う関係づくり」・・・・・・・・・・18
活用計画案例・・・・・・・・・・20
指導計画案例「学級活動」(みんなちがってみんないい)・・・・21
「道徳の時間」(友達のよさを知る)・・・・・・・・22
「各教科・日常的な学習の時間」(主人公の気持ちになって一図画工作)・・・・23
「日常的な活動」(今日のキラリ)・・・・・・・・25

- 3 プログラムⅢ「協力し合う関係づくり」・・・・・・・・・・26
活用計画案例・・・・・・・・・・28
指導計画案例「学級活動」(1学期思い出お楽しみ会をしよう)・・・・29
「道徳の時間」(とべないホテル・心あわせてつくる学級)・・・・31
「各教科・総合的な学習の時間」(われらほかほか温泉たんけん隊)・・・・32
「日常的な活動」(係活動を工夫しよう)・・・・・・・・33

- 4 プログラムⅣ「尊重し合う関係づくり」・・・・・・・・・・34
活用計画案例・・・・・・・・・・36
指導計画案例「学級活動」(どう言うの?)・・・・・・・・37
「道徳の時間」(大きな絵はがき)・・・・・・・・38
「各教科・総合的な学習の時間」(一つだけの花ー国語科)・・・・39
「日常的な活動」(お悩み相談)・・・・・・・・40

第4章

資料集・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

- 1 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の計画・評価資料・・・・・・・・42
- 2 ワークシート等・・・・・・・・・・・・・・・・・・46

第1章

学級経営プログラムとは何か

—児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方—

1 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の基本的な考え方

Q：なぜ、児童相互の好ましい人間関係を育てることが必要ですか？



児童と児童の間に好ましい人間関係が保たれている環境では、児童は、伸び伸びと過ごし、自分のよさを見だし伸ばそうとします。そして、他者から自分がかけがえのない一人の人間として大切にされ、頼りにされていることを実感し、存在感と自己実現の喜びを実感します。さらには、学習することの喜び、周りを思いやる大切さ、集団ルールの意義、仲間との付き合い方など人間として身に付けるべき大切なことを学んでいくことができます。したがって、児童相互の好ましい人間関係は、児童が有意義な生活を実現し、豊かな人間性や社会性を身に付けていくためにきわめて重要です。

Q：学級経営において児童相互の好ましい人間関係を育てることに重点に置くのはどうしてですか？

学級は、児童にとって学習と生活の場であり、学校生活の基盤です。児童の友人関係も学級を中心に広がっていきます。学級における人間関係は、共通の学習や活動経験を有した集団であることから、互いに理解し合い、心を通じ合わせて対等に付き合うことができます。反面、葛藤や対立も避けて通れず、時には個性が衝突し、離反することもあります。しかし、こうした他者との葛藤や対立、離反の経験を重ねながら、児童が成長するための契機をつかみ、他者への態度や他者とのかかわり方を学んでいく場が学級です。そのため、学級担任の教師は、児童相互の人間関係を育てる場としての学級の役割を重要なものとして認識し、個や集団に働きかけ、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の一層の充実を図ることが求められます。



Q：児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営は、どのように進めていけばよいですか？

(1) 「年間を見通した段階的な指導」を進めます！

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営は、年度の当初は「群れ」と言われる学級集団の個や集団に働きかけ、時間の経過とともに児童相互の関係を深め、より好ましい方向へと発展させる長期的な営みです。このような学級経営を可能にするのは、学級担任の先生の明確な経営のビジョンの有無です。つまり、年間の「どの時期」に、「どのような人間関係」を育てていこうとするのかについての指導の構想をもち、児童相互の人間関係の深まりに応じ、段階的な指導を計画していくことが必要です。

(2) 「教育活動全体による組織的な指導」を進めます！

また、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営は、あらゆる教育活動において機能していくものです。つまり、「どの教育活動」で「どのような指導・配慮」をしていくのかについての具体的な構想をもち、それぞれの教育活動の関連を図りながら組織的に進めることが重要です。

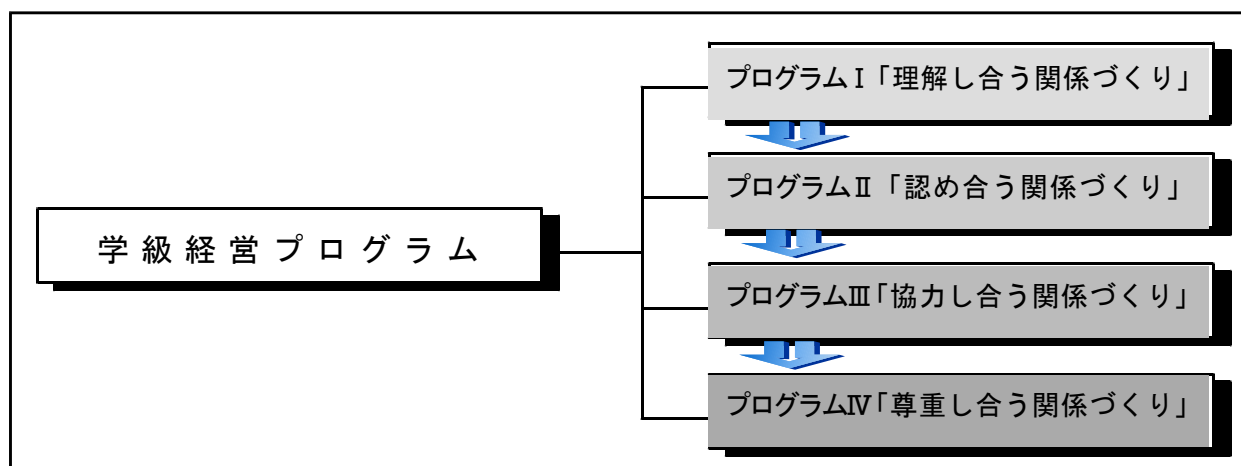
2 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラム

Q：学級経営プログラムとは、どんなものですか？

学級経営プログラムとは、学級経営において、児童相互の好ましい人間関係を意図的、計画的に育てるために、前頁の学級経営の進め方で述べた二つの視点、「年間を見通した段階的な指導」「教育活動全体による組織的な指導」に基づいて作成した指導構想です。学級担任の先生方が、好ましい人間関係を育てる学級経営を進めるに当たって、年間の経営の見通しをもったり、実際の指導計画を立案し運営したりするためのよりどころとなるものです。この学級経営プログラムを活用することによって、児童相互の好ましい人間関係の成立、発展、維持を図る学級経営を進めることを可能にするものです。

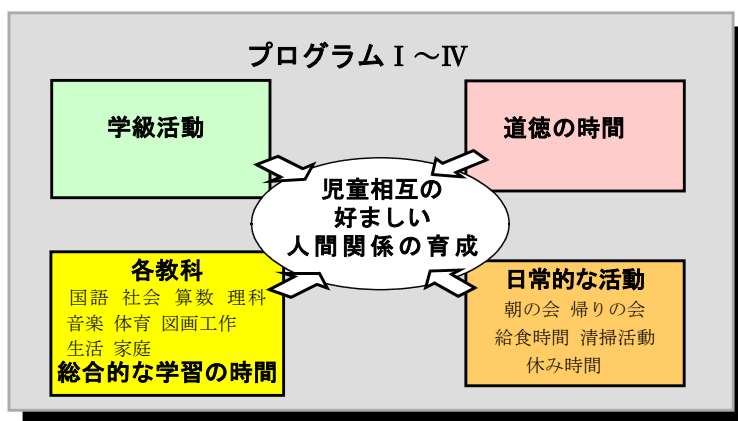
Q：学級経営プログラムは、どんな内容になっていますか？

学級経営プログラムは、「年間を見通し、段階的に育てる指導」が進められるように、【図1】に示した四つのプログラムによって構成されています。学級の児童の人間関係に応じて、I～IVのプログラムを順次活用し、段階的に児童相互の好ましい人間関係を育てることを目的としています。



【図1】学級経営プログラムの構成

また、四つのプログラムのそれぞれには、「教育活動全体による組織的な指導」を進めることができるように、【図2】で示すように、学級で展開される「学級活動」「道徳の時間」「各教科・総合的な学習の時間」「日常的な活動」の四つの教育活動を取り上げています。それぞれの教育活動を連続させたり、関連付けたりしながら、効果的に児童相互の好ましい人間関係を育てることができます。



【図2】学級経営プログラムで取り上げる教育活動

3 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムの特長

Q: 学級経営プログラムの特長を教えてください。



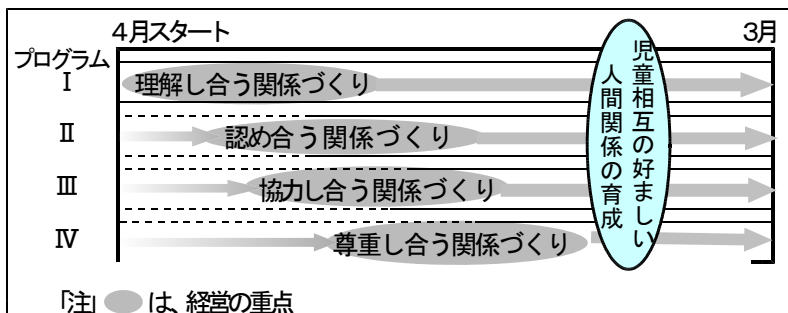
特長1 どの学年でも活用できます

学級経営プログラムで示されている各教育活動の指導内容、活動内容、配慮点は、1学年から6学年のどの学年でも取り上げることのできる共通の内容です。それぞれの学校の年間指導計画を踏まえた活用が可能です。



特長2 一年間の学級経営を通じて活用できます

学級経営プログラムを【図3】に示すように、一年間の学級経営に位置付け、活用を図ることで、継続的、長期的な指導を進めることができます。



【図3】学級経営の重点に児童相互の好ましい人間関係を育てる段階的な指導を配した年間指導計画



特長3 学級の児童の育ちや人間関係の実態に応じた活用もできます

学級経営プログラムは、【図3】に示したように、一年間の学級経営においてプログラムI～IVへと順次活用することを基本としていますが、学級担任が育てようとする児童相互の人間関係の姿、学級の児童の発達段階や児童相互の人間関係の育ちに応じて、工夫して活用することもできます。

【表1】学級経営プログラム活用の工夫

| 適応状況と活用の工夫 | 活用の工夫例 |
|---|--|
| <状況> 学級の児童の発達段階を考慮し、目指す人間関係の姿に応じた活用 ↓ <工夫> 活用するプログラムを限定する | 「互いに認め合う人間関係」を目指す場合 →プログラム ① ② ③ ④ 「互いに協力し合う人間関係」を目指す場合 →プログラム ① ② ③ ④ |
| <状況> もちあがり学級や年度途中からの活用 ↓ <工夫> 児童の人間関係の育ちを踏まえ、前段のプログラムを割愛する | 「互いに理解し合う人間関係」が十分育っていると判断する場合 →プログラム ① ② ③ ④ 「互いに認め合う人間関係」が十分育っていると判断する場合 →プログラム ① ② ③ ④ 「互いに協力し合う人間関係」が十分育っていると判断する場合 →プログラム ① ② ③ ④ |
| <状況> 目指す人間関係の育成を徹底したい場合や指導の効果が十分得られない場合の活用 ↓ <工夫> 必要なプログラムを繰り返す | 学期毎に扱い、「互いに認め合う人間関係」の定着化を図る場合等 →プログラム ①→②→①→② 「互いに協力し合う人間関係」の育成が十分ではないと判断する場合等 →プログラム ①→②→③→②→③ |



特長4 指導計画例とワークシートが付いています

学級経営プログラムを活用した指導実践の実際は、学級担任の教材研究や工夫が当然優先されるべきですが、活用の参考となるように4年生の学級経営を想定した「指導計画例」を各プログラム毎に提示しました。また、各教育活動で使用するワークシートやその様式も資料として添付しました。そのまま、児童の人数分印刷したり、編集したりして活用することができます。

また、学級の実態に応じて、学級経営プログラムを活用した学級経営の計画できるように、「学級経営全体構想案」「学級経営年間指導構想案」「プログラム活用計画案」等の様式も添付しています。

第4章

学級経営プログラムの活用の手引き

—児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の進め方—

1 学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方

Q：学級経営の中で、学級経営プログラムをどのように活用していったらよいでしょうか。

【図4】は、学級経営プログラムを活用した学級経営の流れを示しています。

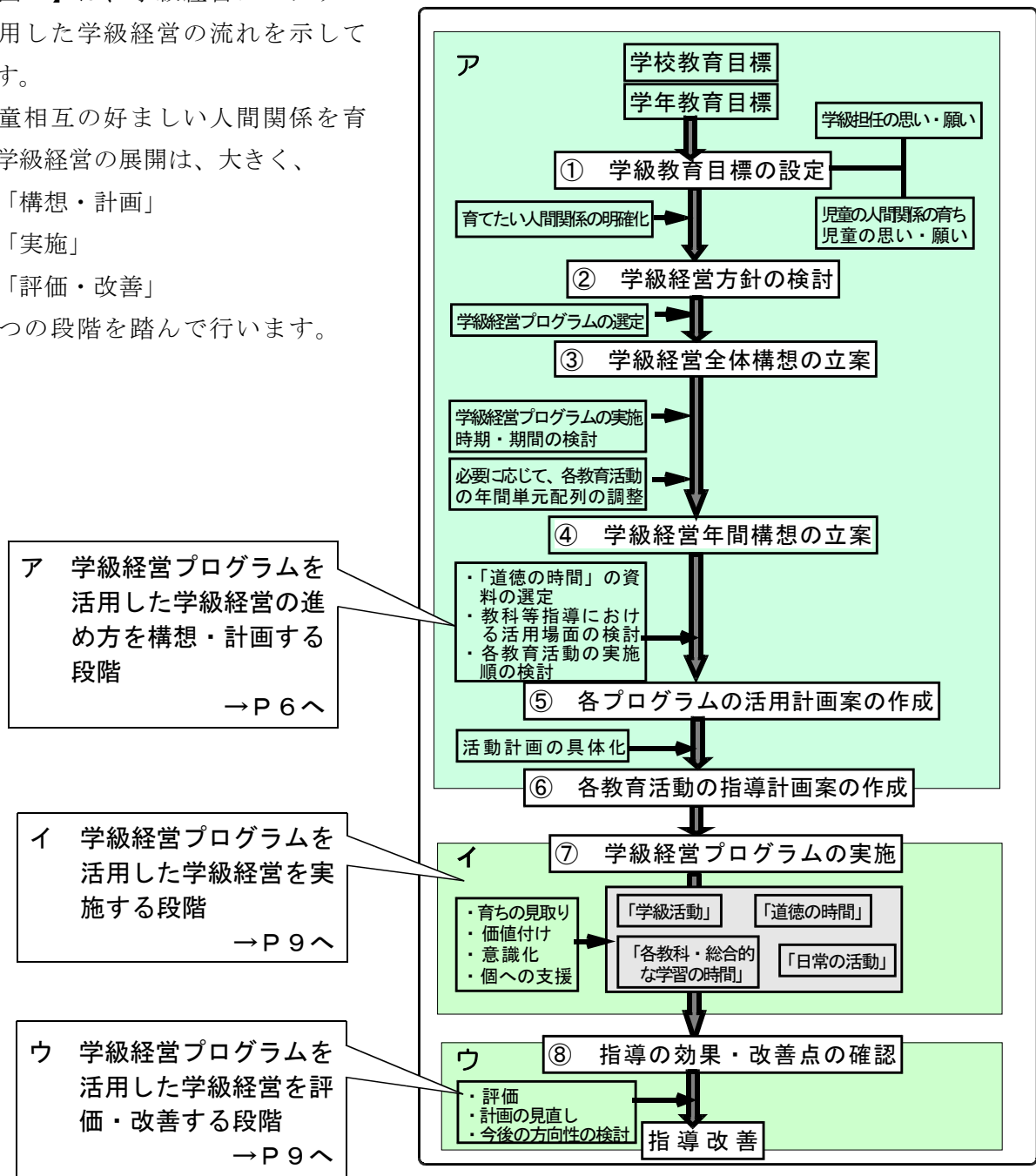
児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の展開は、大きく、

ア「構想・計画」

イ「実施」

ウ「評価・改善」

の三つの段階を踏んで行います。



【図4】 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の進め方

2 学級経営プログラムを活用した学級経営の計画

Q：学級経営プログラムを活用した学級経営の計画は、どのように進めたらよいのでしょうか？

学級担任としての4月は、教師が担任する学級の子供をどのように育てたいか、どんな学級をつかっていきたいか、様々な思いや願いをめぐらせるときです。そしてまた、これからの一年間の学級経営をどう進めていくのかについてビジョンを思い描き、計画を進めていくときでもあります。

児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営プログラムを活用した学級経営の計画は、次のような順序で進めます。

STEP 1 学級経営全体構想の立案

→STEP 2 学級経営年間構想の立案

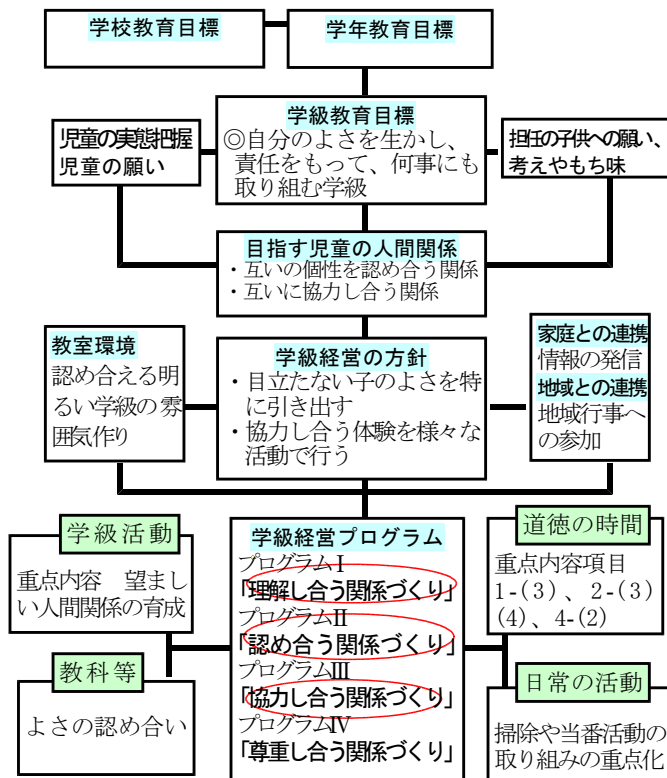
→STEP 3 各プログラムの活用計画案の作成

→STEP 4 各教育活動の指導計画案の作成

以下、それぞれの立案・作成について説明します。

STEP 1 学級経営全体構想の立案

第3学年1組学級経営全体構想案



学級経営プログラムを位置付けた学級経営全体構想をもつことで、児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を、意図的に進めることができます。

左に示したのが全体構想案例です。全体構想の中に、学級教育目標達成のための具体的方策として、学級経営プログラムを位置付け、活用するプログラムを選定します。

＜立案の手順＞

- ① 学級経営の重点として、学級の児童相互にどんな人間関係を育てていくのかを明確にし、学級経営の方針を立てます。
- ② 目指す児童相互の人間関係に応じて、学級経営プログラムのⅠ～Ⅳに示されたねらいを踏まえ、どの段階のプログラムまで活用するのかを検討し、書き入れます。

【図4】学級経営全体構想案例

★ 様式「学級経営全体計画構想」はP42参照

ワンポイント アドバイス

◇ 育てようとする人間関係のゴールによって、活用するプログラムが異なります。

- ・「互いに認め合う関係」→プログラムⅠ・Ⅱ
- ・「互いに協力し合う関係」→プログラムⅠ・Ⅱ・Ⅲ
- ・「互いに尊重し合う関係」→プログラムⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

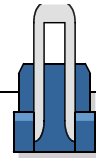
STEP 2 学級経営年間構想の立案

【表2】学級経営の年間構想表例

平成16年度 4年2組学級経営年

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|---------------|---|--|--|--|
| 学級経営の重点 | ◎互いに理解し合う関係づくりを目指す | ◎互いに認め合う関係づくりを目指す | ◎互いに協力し合う | |
| 活用する学級経営プログラム | プログラムⅠ | プログラムⅡ | プログラムⅢ | |
| 学級活動 | 組織作り ゲーム集会 係活動計画 自転車乗り方 | 運動会を成功させよう 身体の清潔 体験活動 | 運動会反省 虫歯の予防 廊下歩行 古代村仕事分担 | 一学期お楽しみ会をしよう 夏休み計画 |
| 道徳の時間 | 礼儀 挨拶 家族愛 | 節度 節制 思いやり 信頼 友情 | 勤勉 努力 敬虔 公徳心 誠実 明朗 | 信頼 友情 愛校心 自然愛動物愛護 |
| 各教科総合的な学習の時間 | <国語> 単元名「とまごちいひな」 <算数> 単元名「大きな数のしくみ」 <理科> 単元名「あたたかくなると」 ペア学習の取り入れ 基本的学習習慣の定着 | <図画工作> 単元名「主人公の気持ちになって」 自己評価、相互評価の取り入れ 作品鑑賞会の開催 | <総合的な学習の時間> 単元名「ほかほか」 <音楽> 単元名「キャプテン」 グループ学習の取 | |
| 日常的な活動 | <朝、帰りの会> 「BS42放送をしよう」 <給食時間> 「わくわくランチタイム」 (グループ編成の週替わり) | <帰りの会> 「今日のキラリ」 (みんなのよさをみつけよう) | <帰りの会> 係活動を振り | |
| 学校・学年行事等 | 始業式 入学式 交通安全教室 身体測定 1年生を迎える会 家庭訪問 | 児童会総会 運動会 知能検査 | ボランティア活動 鑑賞教室 授業研究会 | 古代村体験学習 始業式 終業式 お別れ会 夏休み作品展 ボランティア活動 ゲーム大会 |

★様式「学級経営年間構想表」は、P43参照



STEP1で立案した全体構想に基づき、選定した学級経営プログラムを、【表2】に示すように、学級経営年間構想に位置付けることで、年間の見通しをもって計画的に児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営を進めることができます。

<立案の手順>

- ① 各プログラムに示された活用時期及び期間をめやすに、各校の行事等を考慮した上で、選定したプログラムを年間学級経営の重点として配します。
- ② 各校の「学級活動」「道徳の時間」の年間指導計画に従い、それぞれの欄に内容を書き入れます。活用するプログラムに照らし合わせ、必要に応じて、内容の組み替えや調整を行います。
- ③ 「各教科・総合的な学習の時間」については、指導・配慮を実施していく教科及び単元を検討し、それぞれの欄に書き入れます。
- ④ 「日常的な活動」については、実施する生活場面と活動内容を書き込みます。

ワンポイントアドバイス

- ◇年間の位置付けの違いによる活用のバリエーション
- ・各プログラムを一年間に一回ずつ位置付け順次活用
(例: I → II → III → IV)
- ・各プログラムあるいは一部を繰り返し活用
(例: I → II → I → II → III)

ワンポイントアドバイス

- ◇扱う教育活動の違いによる活用のバリエーション
- 学級経営プログラムでは、基本的に四つの教育活動を扱いますが、学級経営の状況に応じて、教育活動の扱いに軽重を付けたり、学校・地域の行事に関連付けたりする等工夫ができます。

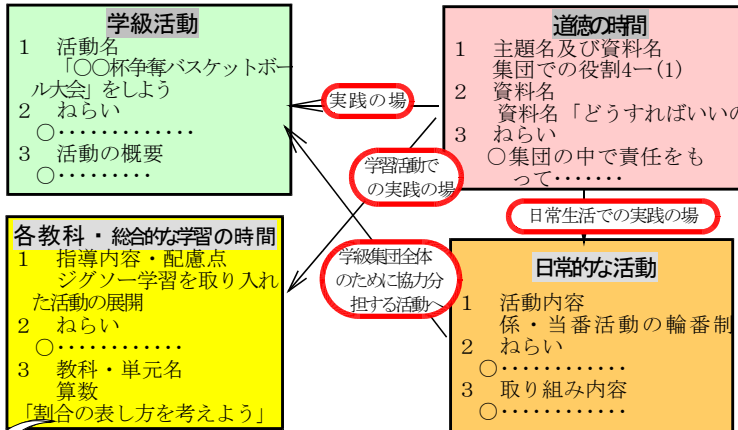
STEP 3 各プログラムの活用計画案の作成

6年1組 プログラム III 活用計画案 「協力し合う関係づ

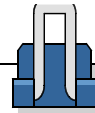
2 実施期間 10月第1週～11月第2週

| | | | | |
|---------------|--------|-----|-----|------|
| 10月 | | | | 11月 |
| 第1週 | 第2週 | 第3週 | 第4週 | 第1週 |
| 道徳の時間 | 日常的な活動 | | | 学級活動 |
| 各教科・総合的な学習の時間 | | | | |

3 各教育活動の概要と関連



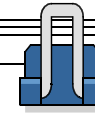
★様式「プログラム活用計画」は、P44参照



STEP 2 で立案した学級経営年間指導構想に基づき、各プログラムにおいて展開する教育活動を配置した活用計画案を作成します。

<作成のポイント>

- ① 各プログラムに示された指導内容、活動内容、配慮点を、学級の児童の発達段階、児童相互の人間関係に応じて具体化します。
- ② 各教育活動の欄には、
 - ・「活動名」(学級活動、日常活動)
 - ・「主題名」(道徳の時間)
 - ・「単元名」(各教科等、総合的な学習の時間)
 - ・「ねらい」
 - ・「主な活動内容」、「指導内容」、「配慮点」を記入します。
- ③ 「道徳の時間」の欄には、ねらいに沿った資料を選定し、記入します。
- ④ 教育活動間の関連を考慮し、実施順と実施時期を確定します。



STEP 4 各教育活動の指導計画案の作成

算数科学習指導案

- 1 単元名 「割合の表し方を考えよう」
- 2 配慮点とそのねらい
ジグソー学習を取り入れ、互いに教え合いながら、共に協力し合う学習場面
- 3 取り組みの対象となる学習場面
2量の割合から同じ味のドレッシングを作るための分量を求める
- 4 他の教育活動との関連
「道徳の時間」において、内面的自覚が図られた役割遂行の価値は本時の展開
- 5 本時の展開

| | 活動内容 | 指導上の留意点 (◆他の教育活動との関連) |
|----|---|--|
| 導入 | 1 本時の学習内容を把握する 課題 割合の表し方について考えよう | ・既習内容について想起させ本時の学習内容を把握する |
| 展開 | 2 結果や方法を見通す。 2つの量の割合を変えないようにドレッシングを作ればよいか 3 見通しを基にジグソー学習に取り組む カウンターセッション | ・解決の手がかりについて話し合い、解決への意欲を高める ・適応の3つの問題についてグループを2人組みの3グループに分かれ、カウンターセッションを行う ・カウンターセッションでの考え方をメモをもとに、ま |

上記のプログラムの活用計画案に基づき、各教育活動の展開案を作成します。

<作成のポイント>

- ① 活動内容及び教師の支援等を検討し、展開案を作成します。
- ② 他の教育活動との関連上の留意点も付記します。
- ③ 「各教科・総合的な学習の時間」においては、単元のどの学習場面で指導・配慮を重点的に行うのかを明らかにして作成します。

3 学級経営プログラムを活用した学級経営の実施

Q：実際に指導実践を進める上で、どのような点に留意していったらよいでしょうか？

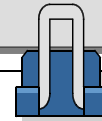


実施の段階においては、それぞれのプログラムを活用した指導計画に基づき、各教育活動における指導・配慮を行います。実施に際しては、以下の点に留意します。

- ・プログラムにおける各教育活動の果たす役割や教育活動間の関連を踏まえ、指導・配慮の充実を図ります。
- ・児童の人間関係の育ちを日常観察、記録、アンケート、他の教師からの情報の収集など多様な方法によって把握し、それらを積極的に取り上げ、価値付け、全体へ広げます。
 <全体へ広げる場・方策例>
 「教育活動での教師評価として」「朝・帰りの会の中で」「学級通信での紹介」
- ・特に指導・配慮が必要な児童へは、個別に支援を講じていきます。
- ・指導実践期間中、目指す人間関係を児童のめあてとして設定するなど、児童一人一人に意識化を図り、意欲付けを図ると効果的です。
 <めあて例>
 『協力し合って、〇〇を成功させよう』 『友だちのよさを見つけよう』

4 学級経営プログラムを活用した学級経営の評価

Q：学級経営プログラムを活用した学級経営の評価と改善は、どのように進めていけばよいでしょうか？



学級経営プログラムを活用した学級経営の評価チェックリスト

| | 評価項目内容 | 改善点 |
|---|--|-------------------------------|
| 計 | <input type="checkbox"/> 児童の実態のとらえは適切だったか | →個々の児童の人間関係のとらえ直し |
| | <input type="checkbox"/> 設定した児童相互の人間関係は適切だったか | →教育目標の修正 →具体化の再検討 |
| | <input type="checkbox"/> プログラムの選定は妥当だったか | →選定の再検討 |
| | <input type="checkbox"/> プログラムの実施時期は適切だったか | →時期の調整 |
| 画 | <input type="checkbox"/> プログラムの実施期間は適切だったか | →必要に応じて継続・中断 |
| | <input type="checkbox"/> 教育活動間の関連は効果的だったか | →実施順の再検討 |
| 実 | <input type="checkbox"/> 学級活動のねらいは達成できたか | →活動内容の検討 |
| | <input type="checkbox"/> 学級活動の指導計画は適切だったか | |
| | <input type="checkbox"/> 道徳の時間のねらいに迫れたか | →内容項目・資料の検討 |
| | <input type="checkbox"/> 道徳の時間の指導計画は適切だったか | |
| 践 | <input type="checkbox"/> 教科等での指導、配慮のねらいを達成できたか | →他教科での指導・配慮の充実 |
| | <input type="checkbox"/> 教科等の指導計画は適切だったか | |
| | <input type="checkbox"/> 日常的な活動のねらいは達成できたか | →実施期間の継続 |
| | <input type="checkbox"/> 日常的な活動の指導計画は適切だったか | →児童の意欲付け |
| | <input type="checkbox"/> 児童へのフィードバックを積極的に進めたか | →児童の育ちの見取り →具体的方途の検討 |
| | <input type="checkbox"/> 指導が特に必要な児童への支援は適切か | →変更の見取りと支援策の検討 |
| | <input type="checkbox"/> プログラムのねらいを達成できたか | →人間関係の見取り →今後の指導・配慮の方向性の検討 |
| | <input type="checkbox"/> プログラムの活用計画は適切だったか | |

★様式「評価チェックリスト」は、P45参照

学級経営プログラムを活用した指導実施中あるいは実施後に、指導の効果と改善点を検討し、その後の指導に生かすために次のことを行います。

- ① 学級経営プログラムのねらい及び各教育活動のねらいに照らし、児童の意識の変容状況や人間関係の育成状況を把握し、指導の効果を検討します。
- ② 「学級経営全体構想」、「年間指導構想」、「各プログラム活用計画」、「各教育活動指導計画」を見直し、改善点を明確にします。
- ③ 改善点に基づき、指導計画の修正や今後の指導・配慮の方向性を検討します。

また、指導実践は、左記のチェックリストを参考に、「計画段階」「実践段階」について評価をします。

5 学級経営プログラムにおける教育活動間の関連

Q：各教育活動は、どのように関連させると効果的なのでしょうか？

学級経営プログラムにおいて扱う四つの教育活動には、児童相互の好ましい人間関係を育てる指導・配慮を進める上で、【表3】に示すような特質もっています。

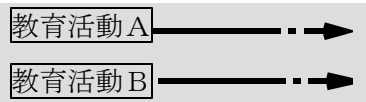
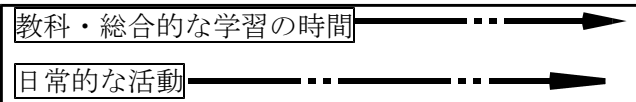
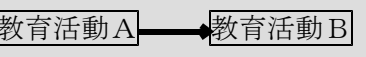
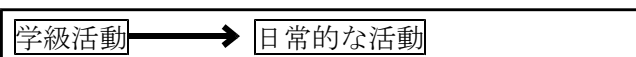
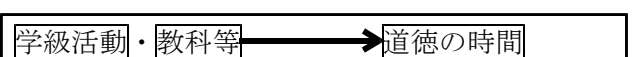
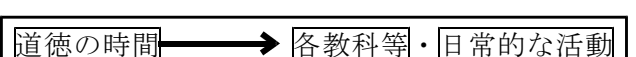
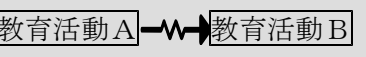
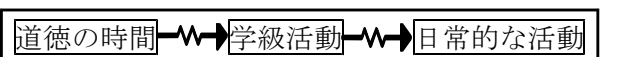
これらの特質を生かし、各教育活動の関連を工夫し、効果的な指導・配慮を行います。

関連のさせ方は、学級の児童の実態、各教育活動の活動内容、指導内容等によって、学級担任の先生が工夫することができますが、ここでは、3つのタイプを例示します。

【表3】児童相互の好ましい人間関係を育てる指導・配慮にかかわる四つの教育活動の特質

| 教育活動 | 特質 |
|----------------------|--|
| 「学級活動」 | ・ 集団活動をととして、児童が他者と共に協力して生活する態度や他者とかかわる上での必要な行動の仕方などを計画的、発展的に指導することのできる教育活動 |
| 「道徳の時間」 | ・ 児童が他者と好ましい人間関係を構築する上で求められる道徳的諸価値の自覚を深め、実践することができるような内面的資質を育てることのできる教育活動 |
| 「各教科」 「総合的な学習の時間」 | ・ 学習集団を学び合いの場として機能させる中で、児童相互の交流を深め、共に学ぶ楽しさ、価値、意義に気付かせることのできる教育活動 |
| 「日常的な活動」 | ・ 自由な雰囲気の中での児童相互の触れ合いや交流を促したり、日常的な指導・配慮を展開したりすることのできる教育活動 |

【表8】教育活動間の関連のタイプと関連例

| タイプ | 関連の内容 | 関連例 |
|-------|---|--|
| 並行影響型 |  <p>・ 複数の教育活動を同時期に並行して行う</p> |  <p>・ 指導・配慮をそれぞれの教育活動において充実させることで、重点化を図る</p> |
| 連続発展型 |  <p>①共通のねらいをもつ複数の教育活動を連続させることで、指導・配慮の場や機会を広げる</p> <p>②異なるねらいをもつ複数の教育活動を発展的につなげ、それぞれの指導・配慮を効果的に行う</p> |  <p>・ 学級活動での活動内容を日常的な活動の場へと移行させ、活動の日常化を図る</p>  <p>・ 学級活動等で他者とかかわった体験を道徳の時間において、想起させ、内面的自覚を図る</p>  <p>・ 道徳の時間での学習を生かす場を教科等、日常的な活動において設定し、実践化を促す</p> |
| 問題解決型 |  <p>・ 異なるねらいをもつ複数の教育活動を、児童の問題解決的な学びとなるよう意図してつなげる</p> |  <p>・ 道徳の時間において育くんだ他者とかかわりに関する価値の内面化から、現実の場面でどのように行動すべきかを学級活動において話し合い、日常的な活動において、具体的な問題を解決していく</p> |

第3章

学級経営プログラムの展開

—児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の展開—

本章の構成

- 1 プログラムⅠ 「理解し合う関係づくり」
- 2 プログラムⅡ 「認め合う関係づくり」
- 3 プログラムⅢ 「協力し合う関係づくり」
- 4 プログラムⅣ 「尊重し合う関係づくり」

本章のプログラムの見方・使い方のポイント


- 各プログラムの趣旨：プログラムのねらいと指導・配慮の意図が説明されています
- 各プログラムのねらいと各教育活動：ねらいの達成に資する教育活動の役割がわかります
- 各プログラムの活用時期・期間：目安となる時期・期間を図式して示しています
- 各プログラムの適応する児童の状況：学級の児童の実態をとらえる観点としてチェック！

プログラムⅠ「理解し合う関係づくり」

プログラムⅠの趣旨

学級編成替えが行われた直後は、前年度まで同じ学級であった児童同士が集まり、狭い範囲での人間関係を形成している場合が見られます。学級編成替えが行われない場合であっても、前年度からの人間関係が固定化・固定化した人間関係の傾向や集団から孤立化している児童の存在も予想されます。こうしたことを踏まえ、このプログラムは、児童相互の新たな人間関係づくりや人間関係の広がりを促していくものです。児童が他者と関係を結び、互いに理解し合う関係を育てるためには、様々な教育活動において、社会的接触や交流をする機会や場を用意し、他者の習慣、嗜好、興味・関心、態度、行動様式などの理解を促す必要があります。その中で、児童に他者への親しみを感じとらせたり、他者の態度や行動が予測できないことに対する不安を軽減させたりすることが大切です。

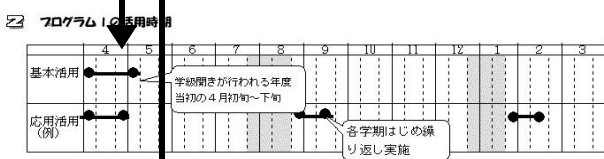
また、同時に他者の目を傾聴する態度や他者への気持ちのよいかわり方を身に付けさせる指導も必要です。このような指導を同時期に行うことによって、児童は安んじて他者と触れ合い、本音で語り合い、他者とかがわる楽しさや喜びを感得することができると考えます。



プログラムⅠのねらいと教育活動のかわり

| <ねらい> | 学級活動 | 道徳の時間 | 各教科等 | 日常的な活動 |
|------------------------------------|------|-------|------|--------|
| ① 他者と交流する場や機会を設定し、多様な他者と出会うさせる | ○ | | ◎ | ◎ |
| ② 他者とかがわる楽しさやおもしろさを体得させる | ◎ | | ◎ | ○ |
| ③ 他者への気持ちのよい接し方を学ばせ、実践しようとする態度を育てる | ○ | ◎ | ○ | |

プログラムⅠの活用時期



適応する児童の状況

- 新たな学級集団での児童が緊張感や不安を感じながら生活している
- 児童が特定の児童とだけ交友関係を持ち、学級内の人間関係に固定化の傾向が見られる
- 親しい友達ができずに、孤立している児童がいる

プログラムⅠ「理解し合う関係づくり」プログラム

学級活動

互いに触れ合う集会活動
・自己紹介 他者紹介
・ゲーム レクレーション

【ねらい】 他者と触れ合う楽しさを体得させ、他者に積極的にかわらうとする意欲を高める

道徳の時間

礼儀 言葉遣い
あいさつ

【ねらい】 よりよい人間関係を築いていくための基本となる気持ちのよい対応の在り方を考え、実践しようとする態度を養う

① 他者を知る ② 他者とかがわる楽しさ ③ 他者との接し方

各教科

総合的な学習の時間

基本的な学習習慣の指導
・先生の仕方、話の聞き方

【ねらい】 自己表現の仕方や傾聴の態度の習慣化を図る

交流の場、活動形態の工夫
・発表の場、自己表現の場の確保
・ペア学習、グループ学習の取り入れ

【ねらい】 多様な他者との交流を促す

日常的な活動

〈朝の会〉 自己表現の場
○1分間スピーチ

【ねらい】 自分ごとや興味ある事柄について輪番で語り、互いの理解を図る

〈休みの時〉多様な他者と触れ合う活動
・学級全員遊び

【ねらい】 共に遊ぶ楽しさを味わわせる

〈給食時間〉座席、グループの工夫
・ローテーション制、日替わり座席

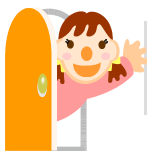
【ねらい】 多様な他者との触れ合いを促す

□ 指導内容 ◯ 活動内容(△は活動例) ▨ 配慮点

プログラムⅠの活用上の留意点

| 留意点 | 他の教育活動との関連 |
|--|--|
| ● 児童もすぐに参加でき、児童同士が直接触れ合い、体全体で楽しむ体験的な活動を行う。 | ◆ 一時的な体験に終わらせないように「日常的な活動」につなぐ。明るく楽しい学級の生活への期待をもたせる。 |
| ● 主に自分の嗜好や趣味などを紹介し合わせるなど等して、これまで気付かなかった他者の面々に気付かせる。 | ◆ 「目標の生活・学習場面」での実践を意図付け、基本的な行動様式として定着化を図る。 |
| ● 他者同士が互いに語り合うことやことの楽しさやおもしろさを体得させる。多様な形で他者と関係づくりを進められるよう和やかな雰囲気の中にしつける。 | ◆ 「道徳の時間」と関連付け、話し方や聞き方などが身に付くように繰り返し指導する。 |
| ● 学級や授業「場」は、他者との人間関係をよりよくしていくことにつながることを内面的に自覚させる。実践していきこする態度を育成する。 | ◆ 「学級活動」における体験的な活動と関連させ、交流の日常化を図る。 |
| ● 多くの児童と学習ができるように、ペアを定期的に組み替える。 | |
| ● アカ、小グループへ、さらに学級全体へとコミュニケーションを図る場の面を徐々に拡大し、安心して自分を述べられるよう配慮する。 | |
| ● 様々な視点と想をとらえ、様々な他者との交流を促す。 | |
| ● 和やかな雰囲気の中で互いの感情の交流を触れ合わせる。楽しい学校生活を共有する体験によって、仲間意識を高めていく。 | |

- 各プログラムの内容：教育活動の指導内容、活動内容、配慮点及びねらいを示しています。年間指導構想・指導計画作成時に活用します。
- 各プログラムの活用上の留意点：各教育活動の留意点及び他の教育活動との関連のポイントを示しています



プログラムⅠ「理解し合う関係づくり」

プログラムⅠの趣旨

学級編成替えが行われた直後は、前年度まで同じ学級であった児童同士が集まり、狭い範囲での人間関係を形成している場合が見られます。学級編成替えが行われない場合であっても、前年度からの人間関係が引き続き、固定化した人間関係の傾向や集団から孤立化している児童の存在も予想されます。こうしたことを踏まえ、このプログラムは、児童相互の新たな人間関係づくりや人間関係の広がりを促していくものです。

児童が他者と関係を結び、互いに理解し合う関係を育てるためには、様々な教育活動において、社会的接触や交流をする機会や場を用意し、他者の習慣、嗜好、興味・関心、態度、行動様式等の理解を促す必要があります。その中で、児童に他者への親しみを感じとらせたり、他者の態度や行動が予測できないことに対する不安を軽減させたりすることが大切です。また、同時に他者の話をしっかり聞く態度や他者への気持ちのよいかかわり方を身に付けさせる指導も必要です。このような指導を同時期に行うことによって、児童は安心して他者とふれ合い、本音で語り合い、他者とかかわる楽しさや喜びを感得することができると思います。



1 プログラムⅠのねらいと教育活動のかかわり

| | <ねらい> 互いにふれ合い、互いの嗜好、習慣、興味・関心、行動様式等を理解し合う関係を育てる | 学級活動 | 道徳の時間 | 各教科等 | 日常的な活動 |
|---|--|------|-------|------|--------|
| 具 | ① 他者との交流をとおして多様な他者の様々な側面に気付かせる | ○ | | ◎ | ◎ |
| 体 | ② 他者とかかわる楽しさやおもしろさを体得させる | ◎ | | ○ | ◎ |
| 化 | ③ 他者への気持ちのよい接し方を学ばせ、実践しようとする態度を育てる | ○ | ◎ | ◎ | |

2 プログラムⅠの活用時期・期間

| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|
| 基本活用 | ■ | | | | | | | | | | | |
| 応用活用(例) | ■ | | | | | ■ | | | | | ■ | |

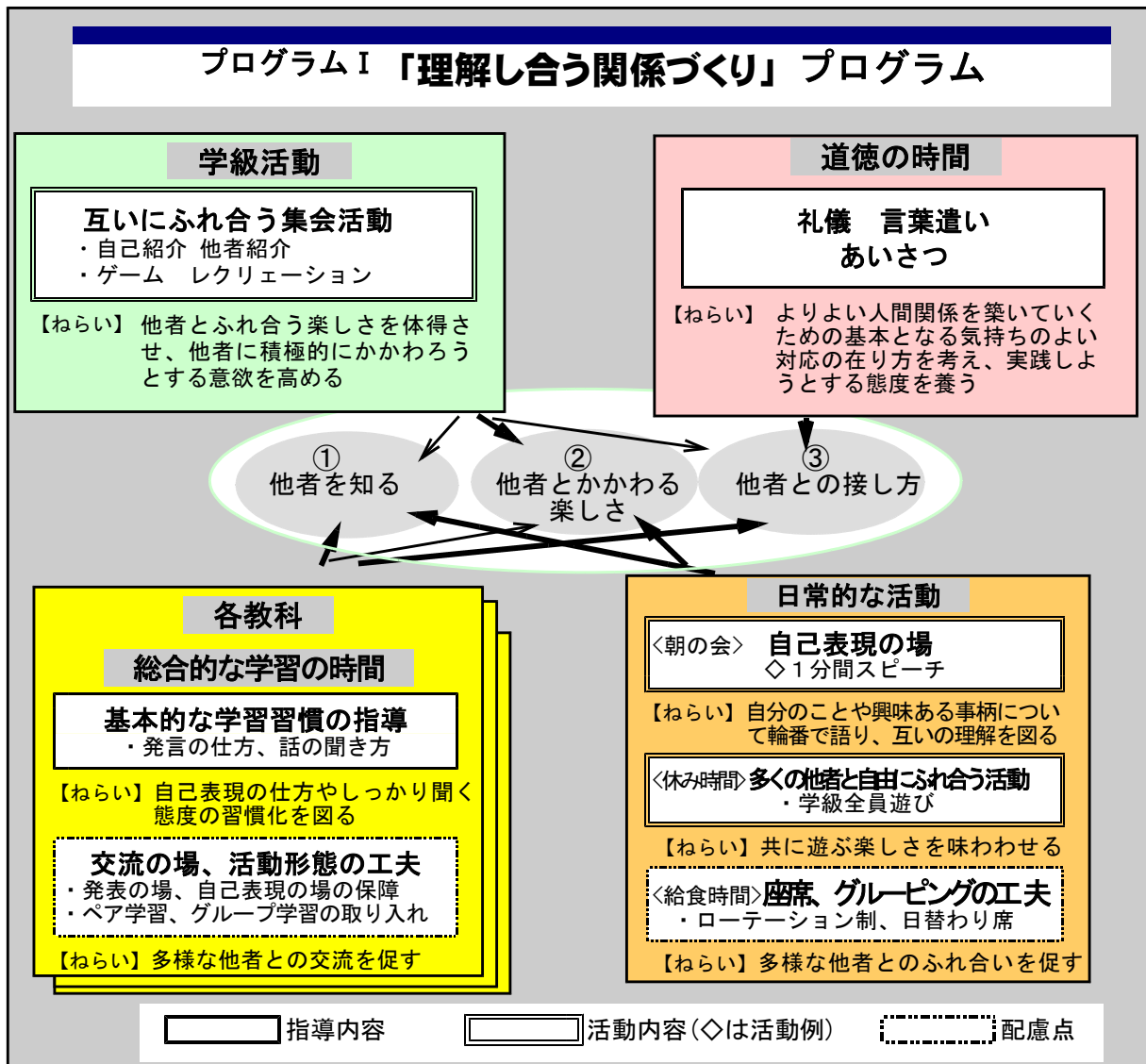
学級開きが行われる年度当初の4月初旬～下旬

各学期はじめ繰り返し実施

3 想定される学級集団及び児童の状況

- 学級の編成替えがあり、児童は新たな人間関係への期待をもっている
- 新たな集団の中で、児童が緊張感や不安を感じながら生活している
- 学級内の人間関係に固定化の傾向が見られる
- 親しい友達ができずに、孤立している児童が存在する

4 プログラムIの内容



5 活用上の留意点

| | 留意点 | 他の教育活動との関連 |
|------|--|---|
| 学級活動 | <ul style="list-style-type: none"> どの児童もすぐに参加でき、児童同士が直接ふれ合い、体全体で楽しめる体験的な活動を行う 互いに自分の嗜好や趣味等を紹介し合わせる等して、これまで気付かなかった他者の面に気付かせる 他者と向き合い互いに語り合うことの楽しさやおもしろさを体得させる 自然な形で他者との関係づくりが進められるよう和やかな雰囲気心がける | ◆一時的な体験に終わらせないように「日常の活動」につなげ、明るく楽しい学級の生活への期待をもたせる |
| 道徳 | <ul style="list-style-type: none"> 礼儀や挨拶、マナーは、他者との人間関係をよりよくしていくことにつながることを内面的に自覚させる 普段の自分の在り方を振り返らせ、実践していこうとする態度を育成する | ◆「日常の生活・学習場面」での実践を意欲付け、基本的な行動様式として定着化を図る |
| 教科等 | <ul style="list-style-type: none"> より多くの他者と学習ができるように、ペアを定期的に組み替える ペアから、小グループへ、さらに学級全体へとコミュニケーションを図る場の範囲を徐々に拡大し、安心して自分を述べられるよう配慮する | ◆「道徳の時間」と関連をさせ、話し方や聞き方などが身に付くように繰り返し指導する |
| 日常活動 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な機会と場をとらえ、様々な他者との交流を促す 楽しく自由な雰囲気の中で互いにふれ合ったり、感情を共有し合ったりする体験をとおして、仲間意識を高めていく | ◆「学級活動」における体験的な活動と関連させ、交流の日常化を図る |

プログラムI

プログラムI 「理解し合う関係づくり」活用計画案

担任名 _____

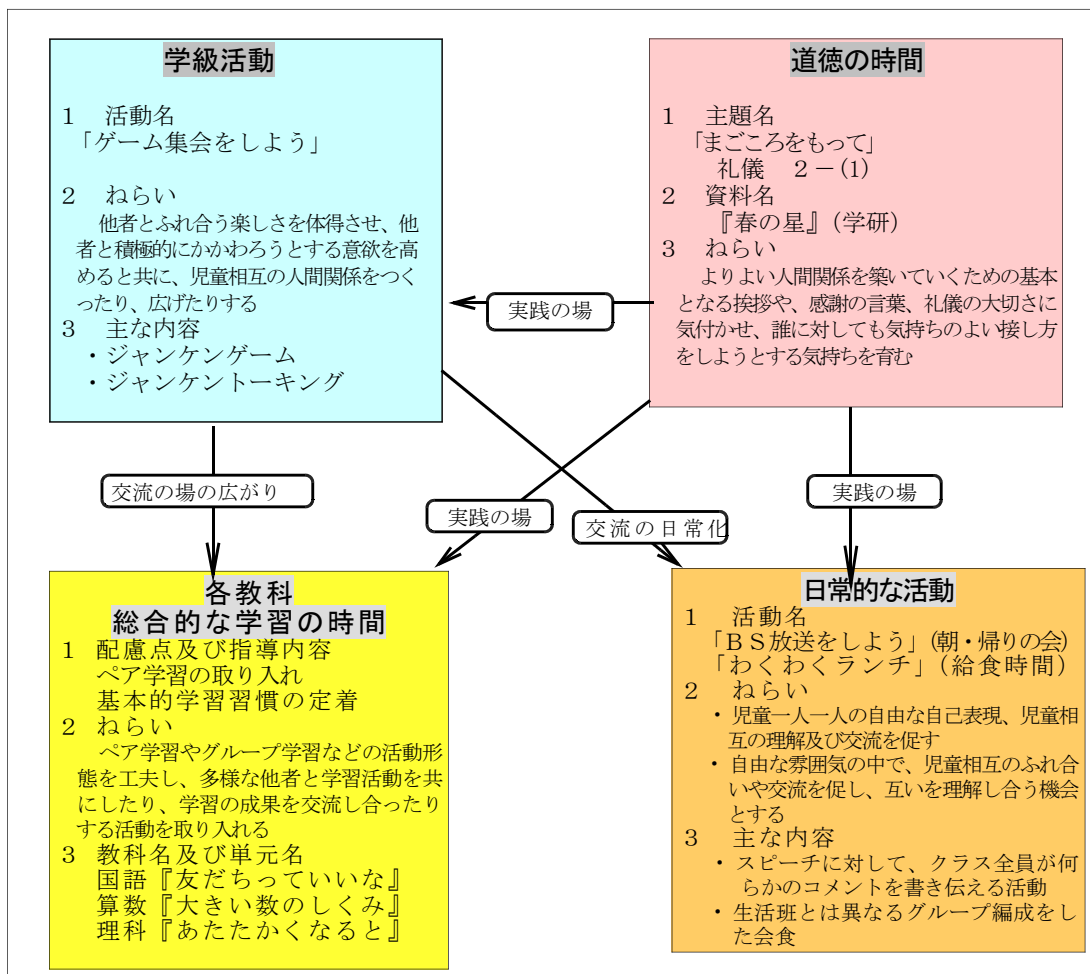
1 ねらい

- ◎ 互いにふれ合い、互いの嗜好、習慣、興味・関心、行動様式等を理解し合う関係を育てる
- ① 他者との交流をとおして多様な他者の様々な側面に気付かせる
 - ② 他者とかかわる楽しさやおもしろさを体得させる
 - ③ 他者への気持ちのよい接し方を学ばせ、実践しようとする態度を育てる

2 実施期間 4月第1週～5月第2週

| 4月 | | | | 5月 | |
|-------|------|---------------|-----|-----|-----|
| 第1週 | 第2週 | 第3週 | 第4週 | 第1週 | 第2週 |
| 道徳の時間 | | | | | |
| | 学級活動 | | | | |
| | | 日常的な活動 | | | |
| | | 各教科・総合的な学習の時間 | | | |

3 各教育活動の概要と関連



学級活動

道徳の時間

各教科
総合的な学習の時間

日常的な活動

学級活動指導案

- 1 活動名 「ゲーム集会をしよう」
- 2 ねらい
他者とふれ合う楽しさを体得させ、他者と積極的にかかわろうとする意欲を高めると共に、児童相互の人間関係をつくったり、広げたりする
- 3 活動の趣旨
ジャンケンというゲームをとおして、普段一緒に活動している友達や今まであまりかかわりの少なかった友達を深く知り合うことを目的とする。友達の知らなかった一面の発見は、自分のこれまでのかかわりの浅さに気付き、友達の見方を振り返るきっかけとなる。また、他者が自分の話を傾聴してくれる体験や学級集団全員でゲームを楽しむ体験は、学年はじめの不安や緊張感を軽減し、自分を安心して表現しようしたり、他者と積極的にかかわろうとしたりする意欲を高めることができると考える。
- 4 他の教育活動との関連
 - (1) 「道徳の時間」における他者との気持ちよい接し方の実践の場として位置付ける
 - (2) 「日常的な活動」において、児童が互いにふれ合う場、機会を広げ、日常化へと発展させる
- 5 本時の展開

| | 学習活動 | 指導上の留意点（◆関連上の留意点） | | | | | | | | |
|--------|---|--|--|---|-----------|---|-----------|---|----------|--|
| 導 入 | 1 本時の活動のねらいと内容を理解する ○学級のいろんな人とジャンケンをしたり話をしたりするゲームです。普通のジャンケンとは違うところがあるので説明をよく聞いて楽しくやりましょう。 | ・今日の活動の趣旨を説明する ・新年度を機に、新しい気持ちで楽しい学級づくりをみんなでしていこうとする雰囲気作りをする | | | | | | | | |
| 展 開 | 2 ジャンケンゲームを行う (1) 「1分間ジャンケン」ゲームをする ○1分間にできるだけ多くの相手とジャンケンをして、勝った回数を覚えておきます。同じ相手とは続けてしないで、時間の許す限りいろんな人と行います。 (2) 「あいこでジャンケン」ゲームをする ○今度はグー(0)、人差し指(1)、二本指(2)、三本指(3)、四本指(4)、パー(5)を使います。勝ち負けのジャンケンではなく、相手とあいこが出るまで続けます。同じ数になったらお互いに握手をして別れます。これを繰り返していきます。 (3) 「ジャンケントーキング」ゲームをする ○四人組のグループを作って、ジャンケンをし、全員の出した指の数をたし算します。ワークシートにあるたした数の質問に全員が順番に答えていきます。 | ・三つのゲームは、連続して行うので、端的に説明しテンポよく進める ◆ジャンケンの相手とは、「よろしくお願いします」「ありがとうございました」の挨拶をすることが大切であることを補足する（道徳、各教科等） ・説明の際には、教師と一人の児童が実際にみんなの前でやってみせる ・(1)のゲームでは、「多くの児童とかかわること」(2)のゲームでは、「自然に相手と目を見合わせ、気持ちをあわせようとする事」、(3)のゲームでは「友達や自分の一面を知り、他者への親しみを増すこと」を目的として行う ・ワークシートの質問項目は、児童の興味 ・関心や嗜好、行動様式などを知り得る内容とする | | | | | | | | |
| 開 閉 | <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">質問例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>今日の朝ご飯は何？</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>好きな食べ物は何？</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>好きな勉強は何？</td> </tr> </tbody> </table> | 質問例 | | ① | 今日の朝ご飯は何？ | ② | 好きな食べ物は何？ | ③ | 好きな勉強は何？ | |
| 質問例 | | | | | | | | | | |
| ① | 今日の朝ご飯は何？ | | | | | | | | | |
| ② | 好きな食べ物は何？ | | | | | | | | | |
| ③ | 好きな勉強は何？ | | | | | | | | | |
| 終 末 | 3 学習のふりかえりとまとめ ○今日の活動をして、どんなことを感じましたか。 ・みんなで楽しんでよかった ・みんなのことがよくわかった | ・児童の発見や気付きを全体へ広げる ◆普段あまり話さないような相手ともたくさんかかわることができたことを価値付け、今後の生活や学習につなげる | | | | | | | | |

- 6 資料 『ジャンケントーキング ワークシート』は P46参照

道徳学習指導案

- 1 主題名 「まごころをもって」
- 2 資料名 「春の星」(出典『学研』)
- 3 ねらい
よりよい人間関係を築いていくための基本となる挨拶や、感謝の言葉、礼儀の大切さに気付かせ、誰に対しても気持ちのよい接し方をしようとする気持ちを育む
- 4 主題設定の理由
よりよい人間関係を築くには、挨拶や感謝の言葉、礼儀など、気持ちのよい対応ができなければならぬ。それは、相手を思いやる気持ち、相手の立場に立って考える気持ちが伴ってこそ本来の意味をもつものである。中学年の段階は、気の合う友達同士で仲間集団をつくりがちであるため、特に誰に対しても真心をもって接する態度を育てることが重要である。また、学級開きの時期にこの主題を位置付けることで、児童相互の新たな人間関係づくりや人間関係の広がりを促す活動と関連付け、実践化を促していきたい。
- 5 他の教育活動との関連
 - (1) 「学級活動」における他者と向き合いふれ合う活動での接し方の指導へとつなげる
 - (2) 「各教科等」「日常的な活動」における発表の態度、聞く態度の指導へとつなげる
- 6 本時の展開

| | 学習活動と予想される児童の反応 | 指導上の留意点（◆関連上の留意点） |
|----|---|--|
| 導入 | 1 これまでの経験を想起して発表し合う ○普段、挨拶はどんなときにどんな人としますか。 2 資料「春の星」を読み、人との接し方について役割演技をしながら話し合う | ◆普段どのような挨拶をしているのかを想起させ、価値への方向付けを行う |
| 展開 | (1) 寒い夜に並んでタクシーを待っている人々はどんな気持ちか ・早く家に帰りたい ・あとどれくらい待たされるのか (2) 次々に「お先に」といわれて、待っている人々はどんな気持ちになったか ・なんだかほっとして、うれしい ・心が通じ合っているようだ (3) 自分の番の時、「わたし」はどんな気持ちで「お先に」と言ったのか ・先に行くので、申し訳ないという気持ち ・もう少しですから、我慢してくださいという気持ち 3 自分たちのこれまでの生活経験を発表し、その時の気持ちを話し合う (4) 心が温かくなるような挨拶や言葉かけをしてもらったことはないか 「どうぞ」「ありがとう」「ごめんなさい」 「よろしくおねがいします」「失礼します」 | ・資料が大人の視点で書かれ、さらに、寒い夜にタクシーを待つという経験をしている児童は少ないと思われるので、状況をしっかりとらえさせる ・寒さの中で順番がこないで待っている人々への、さりげない思いやりの気持ちを役割演技でとらえさせる ・何気ない挨拶や言葉がけに、他者への気持ちが込められていることを役割演技で気付かせると同時に、自分の心もさわやかになる点にも着目させたい ・普段の生活の中の挨拶や言葉がけ、言葉遣いを話題とし、相手への心遣いや気持ちが込められた小さな言葉が、互いを温かな気持ちにさせることを自分とのかかわりでとらえさせる |
| 終末 | 4 学習のまとめをする ことわざ「親しき中にも礼儀あり」 | ◆おろそかになりがちな親しい人への礼儀についてふれ、新しい学年を機に、誰に対しても互いに気持ちのよい接し方を考えて実践しようとする意欲を高める |

学級活動

道徳の時間

各教科
総合的な学習の時間

日常的な活動

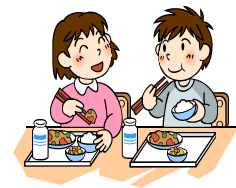
「BS42放送をしよう」計画案

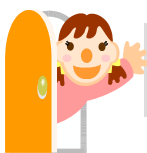


- 1 活動のねらい 児童一人一人の自由な自己表現、児童相互の理解及び交流を促す
- 2 活動の場 朝の会あるいは帰りの会
- 3 活動の概要 1分間スピーチは多くの実践が見られるが、とかく一方通行になりがちである。そこで、スピーチに対して、クラス全員が何らかのコメントを書き伝える活動をとおして、双方向的なコミュニケーション活動を促す。
- 4 他の活動との関連
 - (1) 「教科等」における話の聞き方、発表の仕方の指導との関連を図る
 - (2) 「道徳の時間」における挨拶、マナーなどの基本的な生活習慣を身に付ける指導との関連を図る
- 5 活動の手順
 - (1) 発表者（日直）が、スピーチを行う
（順番は輪番、スピーチ内容は自由あるいは課題、発表時間は1～2分程度）
 - (2) 聞き手2～3人が質問及び感想を発表する（時間で切り上げる）
 - (3) 聞き手が『質問・感想カード』を書き、発表者に届ける
（カードはB5判1/2～1/4程度の用紙、記入時間は1分程度、ポストを用意して投函）
 - (4) 発表者は休み時間などにカードに目を通し、感想へのコメントを返信欄に記入後ポストに投函したり、帰りの会で全体にお礼を言ったりするなどして交流の継続を工夫する
- 6 活動実践の期間 約1ヶ月間（一日あたり1～2人の発表で、学級全員が1～2回程度）
- 7 資料 『質問・感想カード』はP46参照

「仲良しランチタイム」計画案

- 1 活動のねらい 自由な雰囲気の中で、児童相互のふれ合いや交流を促し、互いを理解し合う機会とする
- 2 活動の場 給食の時間
- 3 活動の概要 生活班とは異なるグループ編成をした会食を行う
（星座別グループ、血液型別グループ、生まれ月別グループ、兄弟人数別グループ等）
- 4 他の教育活動との関連
 - (1) 「学級活動」における他者と楽しく語らう体験を日常の生活場面の場へと発展させる
 - (2) 「道徳の時間」における気持ちのよい挨拶、言葉かけ、礼儀、マナーの実践の場とする
 - (3) 「教科・総合的な学習の時間」における指導内容である他者の話の聞き方、傾聴の定着の場とする
- 5 活動の手順
 - (1) 活動の趣旨を児童に説明する
 - (2) 2～4人のグループに分かれる。グループ編成の観点、教師が学級の実態に応じて工夫する
 - (3) 話題については自由とするが、トピックを提示して会話の糸口を示す
 - (4) 話題の選択や食事のマナーなど、楽しい会食とする上で必要な事柄を確認する
 - (5) 会食
 - (6) 会食の感想を話し合ったり、紹介したりするなどして、多くの友達と交流する楽しさやおもしろさに気付かせる
- 6 活動実践の期間 約1ヶ月間
（1週間に1回程度、日替わりで編成替えを行い実践期間を短くする方法も考えられる）





プログラムII 「認め合う関係づくり」

プログラムIIの趣旨

学級集団内の人間関係は、時間の経過とともに児童間の交流が図られると、児童は心理的な選択をしながら他者と関係を結ぶようになります。その関係は、互いに対等な関係である場合もありますが、時として、「成績がよい」「力が強い」などの理由から常に強いリーダーシップを発揮する児童とそれに従う児童との関係など、序列化した関係になっている場合があります。こうしたことを踏まえ、このプログラムは、自分と他者の多面的な理解を一層深めると同時に、自分と他者のよさを認め合い、互いの違いを個性として受け入れられることができるようにすることを目的とします。

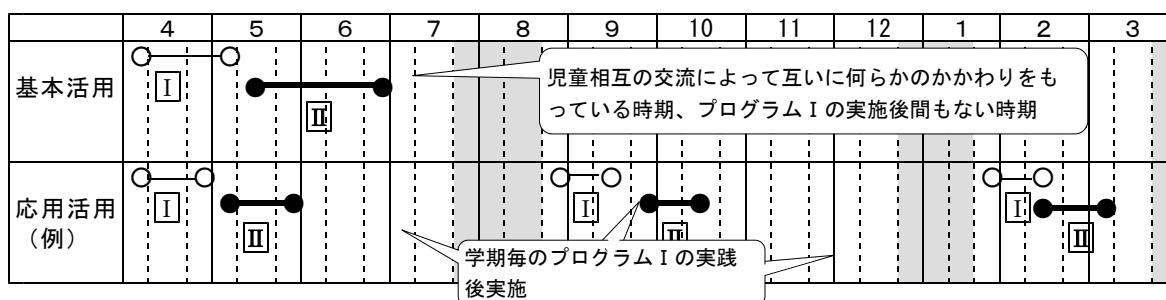
児童が自分や他者を価値ある存在と認め受け入れるようになるためには、自分と他者のもつ多様なよさや違いを理解する場や機会が必要であります。そして、そのよさや違いを価値あるものとして受け入れ合うことの大切さに気付かせ、多様性を受容しようとする態度を育てることが重要です。このような指導を進めることによって、自分に対する理解と自信を深めながら他者と積極的にかかわり、さらに他者を肯定的に受け入れようとする意欲が育つと考えます。



1 プログラムIIのねらいと教育活動のかかわり

| 〈ねらい〉 互いのよさや違いを理解し、価値あるものとして、認め合う人間関係を育てる | | 学級活動 | 道徳の時間 | 各教科等 | 日常的な活動 |
|---|--------------------------------|------|-------|------|--------|
| 具 | ① 自分と他者のよさや違いを理解させる | ◎ | ○ | ○ | ◎ |
| 体 | ② 自分と他者のよさや違いを認め合うことの大切さに気付かせる | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 化 | ③ 自分の個性を伸ばし、多様性を認めようとする態度を育てる | ○ | ○ | ◎ | ○ |

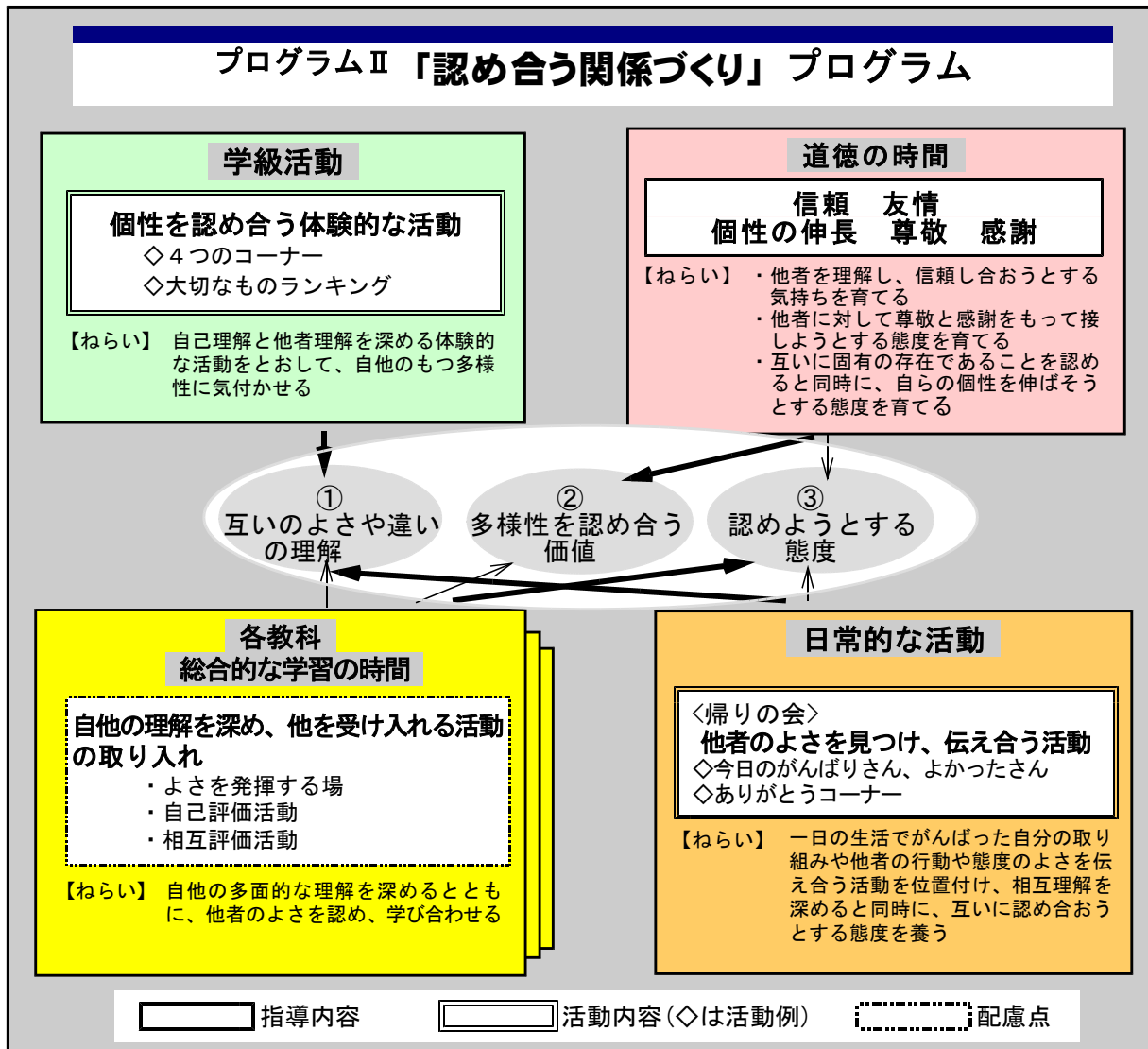
2 プログラムIIの活用時期・期間



3 想定される学級集団及び児童の状況

- 学級集団において、児童相互の交流が図られ、互いに理解し合う関係が育っている
- 能力的な優劣、性別、好嫌の感情によるグループ化の傾向が見られる
- 発言に強い影響力をもつ児童とそれに追従する児童が存在するといった力関係がある
- 自分に自信がもてず、他者と積極的にかかわれない児童が存在する

4 プログラムIIの内容



5 活用上の留意点

| | 留意点 | 他の教育活動との関連 |
|------|--|---|
| 学級活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・構成的グループ・エンカウンターなどの手法を取り入れ、体験的な活動を行う ・どの児童も自分なりの意見や価値判断をもち、自分と他者とのものの見方や考え方、価値観が浮き彫りになるような身近な話題や事柄を取り上げる ・互いの考えや価値判断の是非を問うことを目的としない | ◆「教科等」「日常的な活動」と関連させ、互いの違いに気付かせる |
| 道徳 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人がそれぞれ固有の長所をもち、かけがえのない存在であることに気付かせる ・人々に支えられ、自分が存在することに気付かせ、他者を価値ある存在としてとらえられるようにする | ◆「学級活動」での体験的な活動と関連させ、互いに異なる個性をもっていることを想起させる |
| 教科等 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科等の特性に応じて、考え方、工夫、技能、知識、関心・意欲、態度など、児童一人一人のもつよさが発揮できる場や機会を設定する ・児童が互いに学習の成果を評価し合う場を意図的に取り入れる ・学習の過程における個々の児童の取り組み状況やその子らしさ等の他の児童には見えにくいよさについては教師が意図的、計画的に取り上げ価値付ける | ◆「学級活動」と関連させ、自他のよさや個性に目を向けさせる |
| 日常生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活、学習場面での互いの行動・態度のよさを見つけさせ、他者を肯定的に理解しようとする態度を育成する ・他者のもつよさを学級全体の場で伝え合わせ、多様な他者の存在に気付かせ、一人一人を価値あるものとして認識させる | ◆「教科等」における相互評価と関連させ、多様な観点から互いのよさに気付かせる |

プログラムII

プログラムII 「認め合う関係づくり」 活用計画案

担任名 _____

1 ねらい

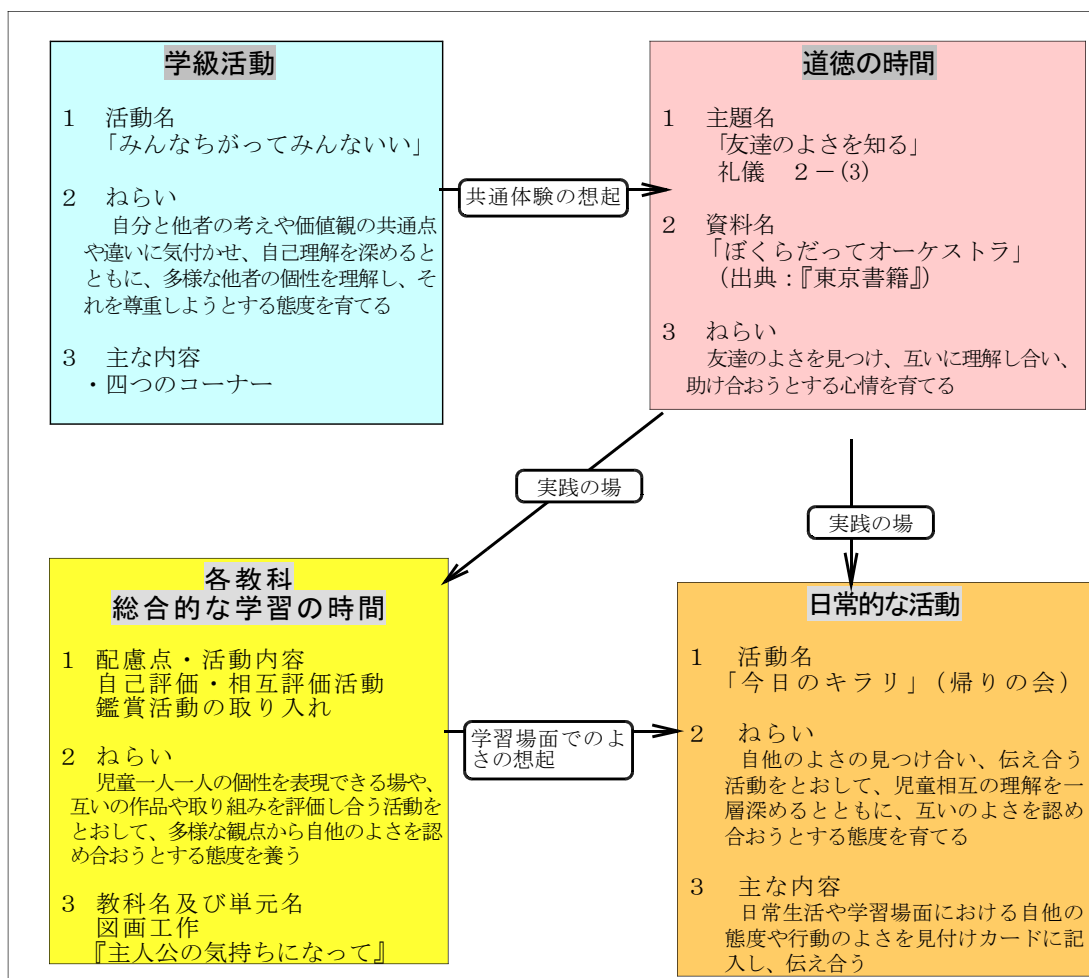
◎ 互いのよさや違いを理解し、価値あるものとして、認め合う人間関係を育てる

- ① 自分と他者のよさや違いを理解させる
- ② 自分と他者のよさや違いを認め合うことの大切さに気付かせる
- ③ 自分の個性を伸ばし、多様性を認めようとする態度を育てる

2 実施期間 5月第3週～6月第3週

| 5月 | | 6月 | | | |
|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 第3週 | 第4週 | 第1週 | 第2週 | 第3週 | 第4週 |
| 学級活動 | | | | | |
| 道徳の時間 | | | | | |
| 日常的な活動 | | | | | |
| 各教科・総合的な学習の時間 | | | | | |

3 各教育活動の概要と関連



学級活動

道徳の時間

各教科
総合的な学習の時間

日常的な活動

学級活動指導案

- 1 主題名 「みんなちがってみんないい」
- 2 ねらい
自分と他者の考えや価値観の共通点や違いに気付かせ、自己理解を深めるとともに、多様な他者の個性を理解し、それを尊重しようとする態度を育てる
- 3 活動の趣旨
教師が提示する設問に対する意見を交流し合う活動によって、自他のものの見方や考え方、価値観、好みについての共通点や相違点を理解させるとともに、それらを個性として肯定的に受け止めさせ、一人一人は他人とは比べることができない大切な存在であることに気付かせたい。また、同時に自分に対する理解と自信を深めさせ、自分らしく安心して他者とかがわろうとする意欲を高めたい。
- 4 他の教育活動との関連
本時の活動における自他の違いに気付く共通体験を「道徳の時間」において生かす
- 5 本時の展開

| | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|--------|--|--|
| 導 入 | 1 本時の活動のねらいと内容を理解する ○今日は、「4つのコーナー」という活動をみんなでします。これからいくつかの質問を出します。4つの答えの中から、自分で一つ選んで、その答えの陣地のあるコーナーに移動します。質問の答えに、どれが正しいとか、まちがっていると言うことはありません。自分の考えですばやく動きます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動の趣旨を説明する ・友達の動きに左右されたり、質問の答えに迷うことが予想される場合は、ワークシートを事前に配付し、自分の考えをまとめる段階を一つ踏んでから始める ・友達と同じになるように動いたり、正解を考えるのではなく、一人一人の考えが大切であることを強調する |
| 展 開 | 2 「4つのコーナー」をする(以下質問例) (1) 季節の中で、好きな季節は？ A春 B夏 C秋 D冬 (2) 朝食はご飯よりパンがいい A とてもそう思う B 少しそう思う C あまりそう思わない D 全然そう思わない (3) 学校の先生はきびしい方がいい 以下選択肢は(2)に同じ (4) 宿題は必要だ (5) お金持ちは幸せだ (6) 女の子は、男の子より頭がよい (7) 親の言うことは絶対聞かなくてはならない (8) 天気はいつも晴れがよい (9) 一番大切なのは、ともだちだ (10) テレビは勉強に役に立つ | <ul style="list-style-type: none"> ・質問項目(ワークシート)は、児童にとって身近な内容で、児童の嗜好、価値観の違いが浮き彫りになる内容を選定する ・選択肢は質問内容によって異なることを知らせる ・初めは、中央に集まり、質問を提示する ・一つ一つの質問のあとで、数人に理由を聞く ・自由に話し合わせ、どんな意見に対しても否定はしない ・質問によっては、コーナーに集まった子供たち同士で理由について話し合う。同じ選択をしたとしても、根拠となる考え方に違いがあることに気付かせたい ・理由がはっきりしている場合は、意見の違うもの同士を話し合わせてもよい ・どちらがよりよいかという判断はさせずに、お互いの意見の違いを認め合うことに重点を置く ・どこに移動してよいか判断できない子供がいた場合、無理に移動させず、その迷いを話させたい ・状況に応じて、理由の発表後、自分の考えが変わったら、移動してもよいこととする |
| 終 末 | 3 今日の活動で気が付いたことをカードに書き、発表し合ったり、感想を話し合ったりする ○今日の活動でどんなことを感じましたか。 ・友達の考えを聞いてなるほどと思った ・人にはいろいろな考えがあることがわかった 4 詩「みんなちがってみんないい」を読む 歌「世界に一つだけの花」を歌う | <ul style="list-style-type: none"> ・人にはそれぞれ異なった好みや考え、見方があり、それは個性として大事にし、互いにわかり合って仲良くしていくことが大切であることを伝える |

- 5 資料 ワークシートは、P47参照

道徳学習指導案

- 1 主題名 「友達のよさを知る」
- 2 資料名 「ぼくらだってオーケストラ」(出典『東京書籍』)
- 3 ねらい
友達のよさを見つけ、互いに理解し合い、助け合おうとする心情を育てる
- 4 主題設定の理由
よい友達関係を築くには、互いに認め合い、様々な場面で助け合い、理解し合い、信頼感や友情を育てることが大切である。中学年の時期の児童は、誰とも仲良くしなければならぬことはわかっているが、時に好き嫌いの感情や性別の違い、能力的な優劣などの理由から親しくなったり反発し合ったりして、気の合う友達同士で仲間を作る傾向があり、自分たちの世界を確保し、楽しもうとするものである。健康的な仲間集団を積極的に育成するためにも、友達のよさに気付かせ、互いに認め合い、信頼し、助け合っていこうとする気持ちを育てることが必要である。
- 5 他の教育活動との関連
・学級活動における共通体験を導入において想起させる
・終末段階で、「日常的な活動」への動機付けを図り、実践意欲を高める
- 6 本時の展開

| | 学習活動と予想される児童の反応 | 指導上の留意点（◆関連上の留意点） |
|----|--|--|
| 導入 | 1 友達と自分の個性の違いの気づきを想起する ○自分と友達と違っているなあとと思うことはどんなことですか。 ・好きなこと ・得意なこと ・考え方 | ◆学級活動での活動等を想起させ、人にはそれぞれ異なる価値観、好み、考え、得意なことがあることを押さえる ・資料に登場する主人公は体育は得意で、楽器の演奏が苦手な子であることが、市の連合音楽会に出場することになった場面状況の概要を説明する |
| 展開 | 2 資料「ぼくらだってオーケストラ」を読み、話し合う (1) 最初、なつみの声にてつおが知らんぷりしていたのは、どうしてか ・おせっかいとおもったから ・できるからって自慢しているように思った ・なんだかめんどくさい (2) 練習の時、なつみからほめられたてつおは、どんな気持ちになったのか ・恥ずかしい ・よい音が出たことには感謝の気持ちをもった ・ありがとうという素直な気持ちが表せない (3) 「逆上がりを教えてあげようかな」と思ったてつおは、なつみにどんな気持ちをもったようになったのか ・なつみを友達と感じ始めた ・助け合うことの大切さを知った ・よいところを認め合うことが大切だと思った ・自分にできることをなつみに教えた | ・いろいろ言われるのが面倒くさいし、女の子に言われるのはいやだという気持ちや逆上がりもできないなつみから教わりたくないという気持ちに共感させる ・よい音が出るうれしさを素直に言うことができない気持ちを理解させる ・言われたように練習するとよい結果が出てきたことから、なつみのよさ（励まし熱心に教えようとする態度）に気づき、なつみに対する気持ちが少しずつ変わっていくことを押さえる ・なつみに、自分ができていることを教えることで、友情を育てていこうとするてつおの気持ちを理解させる ・性別を超えて、互いのよさを認め合って、仲良く励まし合い、助け合うことが大切であることに気付かせたい |
| 開 | 3 性別を超えて、友達の良いよさを認め合い、お互いに助け合ったり、励まし合った経験について話し合う (4) クラスの友達の良いよさを見つけたり、互いのよさを生かして助け合ったりしたことがあるか ・○○さんに一輪車の乗り方を教えてもらった、うれしかった ・総合の時間に、互いに得意な作業をして、協力して完成させた | ・導入で話し合った違いはそれぞれのもつよさであること、また、態度や行動にもよさがあり、それを認め合うことの大切さについて考えさせる ・自他のよさを生かして、互いに助け合うことの大切さについて考えさせる |
| 終末 | 4 学習のまとめをする ○互いのよさはまだまだたくさんありますね。そのよさを進んで見つけ合い認め合っていきましょう。 | ・先入観や固定観念をもたず、たくさんの方のよさを見つけ、認め合おうとする実践意欲を高める ◆「心のノート」を活用し、「日常的な活動—今日のキラリー」の活動への動機付けを図る |

学級活動

道徳の時間

各教科
総合的な学習の時間

日常的な活動

図画工作科指導案

- 1 題材名 「主人公の気持ちになって」(感想画)
- 2 題材の目標
 - ・物語の世界を十分に楽しみ、主人公の気持ちの表れた場面を絵に表す
 - ・その場面の感じがよくわかるように、画面の組み立てや色の組み合わせや表し方を工夫して絵に表す
 - ・作品をとおして、自分と友だちとの表現の違いやよさ、おもしろさに気づき、味わう
- 3 題材選定の理由

本単元は、物語から、自分の思いやイメージを大切に、感じたことや想像したことを基に、表し方や材料・用具を自ら選ばせたり、表現を工夫させたりしながら、造形活動を進めさせ、児童一人一人の個性を生かした表現活動ができるようにする。また、作品を互いに鑑賞し合う活動をとおして、いろいろな表し方や材料による感じ、発想の楽しさや表現のおもしろさやよさに関心をもたせたい。
- 4 学級経営上の指導・配慮

本単元において、自分と他者のよさや違いに気付かせ、認め合うことができるように、以下の活動を位置付ける。

 - (1) 表現したい物語の場面や想像した主人公の思いなど物語から受ける一人一人の感じ方を交流し合う活動
 - (2) 作品を見せ合い、自分や他者の思いや表現の仕方の違い、よさやおもしろさに気付かせる評価活動
 - (3) 互いの作品から、よさや工夫したところを認め合いながら、作品の世界を味わう鑑賞活動

また、本単元を通じて、以下のような配慮をもって指導にあたる。

 - ・導入段階において、自他のよさを積極的に見つけていくことを、本時の課題の一つとして取り上げ確認する
 - ・終末段階において、自己評価及び相互評価活動を位置付け、発揮できた自分のよさや気付いた他者のよさを意識化させる。また、互いに評価結果の交流をとおして、互いの学習の成果を認め合わせる
 - ・様々な観点から児童一人一人のよさを計画的に取り上げ、価値付けたり、全体に広めたりすることで、児童に自他のよさに気付かせるようにする
- 5 他の教育活動との関連

「道徳の時間」において内面化を図った他者のよさを認め合おうとする価値の自覚を高め、実践する場とする
- 6 単元指導計画(全6時間)
 - (1) 第1次 物語から主人公の気持ちが表れた場面をスケッチで描き、自分なりのイメージをもつ・・・1時間
 - (2) 第2次 自分の表現したい物語の場面の感じがわかるように、工夫して絵に表す・・・4時間
 - (3) 第3次 互いの作品を鑑賞し、互いの表現の違いやよさを話し合う・・・1時間
- 7 単位時間の指導過程における指導・配慮の展開

| 次時 | 学 習 活 動 | 指導上の留意点 |
|----------------------------|-----------------------------------|---|
| 1 1 開 展 終 末 | 1 本時の学習課題の確認 | ・物語を読んで、主人公の気持ちになって感じたことや想像したことを絵に表すことを告げる |
| | 2 物語を聞いて、自分が描き表したい物語の場面をスケッチする | ・物語を読み聞かせ、主人公の心の動きが感じられるように、朗読の仕方の工夫や効果音を使うなどして、児童の想像の世界を広げ、意欲付けを行う |
| | 3 表そうとした場面や主人公の気持ちをカードに記入する『カード①』 | ・互いに質問し合いながら、物語から受けた感じ方の違いに気付かせ、自分の表したい物語の世界を確かなものにする |
| | 4 互いのスケッチを見合う | |
| | 5 本時のまとめをする | ・同じ物語を聞いても、様々な感じ方やとらえ方があり、それぞれのよさとして認め合うことが大切であることをまとめる |

プログラムII

| 学級活動 | | 道徳の時間 | | 各教科 総合的な学習の時間 | | 日常的な活動 | |
|-------------|--------|-------|--|------------------|---|---|--|
| 2 ・ 3 | 導 入 | 1 | 本時の学習課題の確認する スケッチを参考に、表したい場面や気持ちがわかるように工夫しよう | 2 ・ 3 | <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題の確認とあわせて、学習の中で互いのよさを見つけ合うことを確認する 場面のおもしろさや雰囲気、主人公の気持ちが伝わるように、画面の構成、人物の配置、大きさなどの工夫があることに気付かせる 自分なりに表現を工夫した点を解説し記入する 作品と解説カードから、友達の表現したい場面や工夫点に気付かせる | <ul style="list-style-type: none"> 互いによさを認めようとしている態度を賞賛し、より豊かな表現への意欲化を図る 気付かせたい児童のよさ（技能、意欲、態度）を補説し、広げる 次時は、彩色をしていくを告げる | |
| | 展 | 2 | 物語をもう一度読み、自分の表現にあった紙を選び、下絵を描く | | | | |
| | 開 | 3 | 解説カードに工夫点を記入する『カード②』 | | | | |
| | | 4 | 互いに作品を見合い、話し合う | | | | |
| | 終 | 5 | 本時の学習活動を振り返る『カード③』 ・自己評価活動 ・相互評価活動 ・評価の交流活動 | | | | |
| | 末 | 6 | 本時のまとめをする | | | | |
| 4 ・ 5 | 導 入 | 1 | 本時の学習課題を確認する | 4 ・ 5 | <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題の確認とあわせて、学習の中で互いのよさを見つけ合うことを確認する 表現方法の工夫（基調色、色の組み合わせ）について気付かせる 物語の背景となる場面の景色から彩色をさせる 自分なりの表現方法をいろいろ試せるように、小さい紙を用意しておく 友達の表現のよさやおもしろさに気付かせ、表現の幅を広げる | <ul style="list-style-type: none"> 互いによさを学び合い、助け合いながら活動しているよさをとらえ、全体に広める 気付かせたい児童のよさ（技能、意欲、態度）を補説し、広げる 次時は、学級の鑑賞会をすることを伝える | |
| | 展 | 2 | 彩色する | | | | |
| | 開 | 3 | 解説カードに工夫点を記入する『カード②』 | | | | |
| | | 4 | 互いに作品を見合い、話し合う | | | | |
| | 終 | 5 | 本時の学習活動を振り返る『カード③』 ・自己評価活動 ・相互評価活動 ・評価の交流活動 | | | | |
| | 末 | 6 | 本時のまとめをする | | | | |
| 3 6 | 導 入 | 1 | 本時の学習課題の確認する 「作品鑑賞会をしよう」 | 3 6 | <ul style="list-style-type: none"> 互いに作品を鑑賞し合い、友達の作品の分からないところやよい点などを話し合いながら、物語の世界を味わうことを告げる 解説カードを基に、自分の作品について解説させる 感想カードの記入をとおして、それぞれの作品のよさやおもしろさを見つけさせる | <ul style="list-style-type: none"> 自分の作品のよさや学習の成果を評価する 友達の作品のよさを見つけようとしている態度のよさに気付かせる 様々な表現の工夫があり、それぞれをよさとして認め合い、互い学び合うことが大切であることを伝えまとめる | |
| | 展 | 2 | 鑑賞会をする (1) 自分の作品について描きたかった場面や主人公の気持ち、表現の工夫を発表する | | | | |
| | 開 | (2) | 見つけた友達の作品のよさを発表したり、感想カードに書いたりする『カード④』 | | | | |
| | 終 | 3 | 本時の学習を振り返る『カード③』 ・自己評価活動 ・相互評価活動 ・評価の交流活動 | | | | |
| | | | | | | | |
| | 末 | | | | | | |

7 資料 活用したカード及びカードの様式は、P48参照

「今日のキラリ ー友だちのよさを見つけようー」活動計画案

1 活動のねらい

自他のよさの見つけ合い、伝え合う活動をとおして、児童相互の理解を一層深めるとともに、互いのよさを認め合おうとする態度を育てる

2 活動の場

帰りの会

3 活動の概要

日常生活や学習場面における自他の態度や行動のよさをカードに記入し、伝え合う。

4 他の教育活動との関連

「道徳の時間」で高まった道徳的実践力（互いのよさを認め合おうとする態度）の実現の場として保障し、日常化へとつなげる

5 活動の手順

(1) 学級の友達のよさを見つけ、伝える活動の趣旨を教師が説明する（第一日目）

- ・各人に、記入用『キラリカード』（学級児童数分）を配付する
- ・活動時間や期間（1～2週間程度）を知らせ、児童が計画的に記入できるようにする
- ・活動期間は児童数に応じて適宜設定する

(2) 学習や生活の中で見つけたクラスの友達の良いことを『キラリカード』に書く活動を展開する

- ・帰りの会のプログラムに活動を位置付け、毎日5分程度の記入時間を保障する
- ・記入済みカードは各自ストックしておく
- ・メモ書きをして、後で清書してもよいことを知らせる
- ・人に贈るカードであるから丁寧に心を込めて書くよう指導する

(3) 全員分のカード記入期間終了後、宛先毎にカードを集め、それぞれの児童に渡す

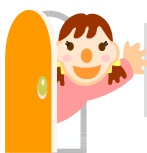
- ・個々の児童宛の封筒を用意し、児童は記入した『キラリカード』をそれぞれの封筒に入れる。
- ・全員分入れたら、封筒に封をして、宛名の児童に渡す

(4) 児童は手元に届いたカードを読み、『感想カード』に感じたことを書く

(5) 児童は、①『キラリカード』②『感想カード』③封筒を一枚の画用紙に思い思いのレイアウトで貼り、教室に掲示する

(6) 活動終了後も、友達の良いことを見つけたら、そのつど各人の封筒へ『キラリカード』を入れることを奨励する

6 資料 活用したカード及びカードの様式は、資料P49参照

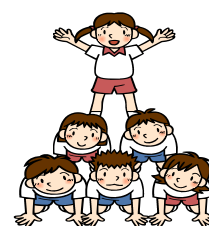


プログラムⅢ 「協力し合う関係づくり」

プログラムⅢの趣旨

学級集団の発達とともに、集団内のグループ化が進みます。それと同時に、グループ間の対立が生じる場合もあります。また、一見グループに所属しているように見えても、連帯感や所属感をもてずに集団に埋没している児童や、児童が望むと望まざるとにかかわらずグループに所属しない児童の存在が浮き彫りになってきます。このような状況において、児童相互の関係性を深め、児童一人一人に他者との連帯感や学級への所属感をもてるようにするために、互いに協力し合い、共に助け合うといったかかわり合いを深め、集団内における自分の存在感を実感させる必要があります。こうしたことを踏まえ、本プログラムは、グループ内あるいは学級集団内において、児童が共に助け合い、互いのよさを生かし合いながら協力し合う関係づくりを目的とします。

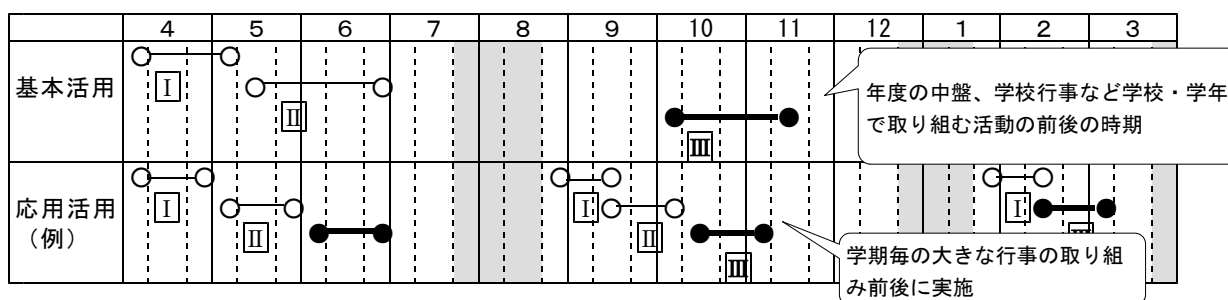
児童が他者と共に支え合うような関係を育成するには、共通の目標をもって他者と共に活動する体験が不可欠です。その体験をとおして、自分のよさを生かし役立つことの喜びを感得させること、互いに支え合いながら共に生きていくことの価値に気付かせることが大切です。さらに、このような共同の活動を様々な教育活動において用意し、他者とともに協力し合うおうとする態度を育てることが大切であると考えます。



1 プログラムⅢのねらいと教育活動のかかわり

| <ねらい> 互いのよさを生かしながら、互いに助け合い、共に協力し合う関係を育てる | | 学級活動 | 道徳の時間 | 各教科等 | 日常的な活動 |
|--|-----------------------------|------|-------|------|--------|
| 具 | ① 自己の役割を遂行する満足感や成就感を体得させる | ◎ | | ◎ | ○ |
| 体 | ② 他者と助け合い、協力し合うことの大切さに気付かせる | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 化 | ③ 他者を助け、他者に協力しようとする態度を育てる | ○ | ○ | ○ | ◎ |

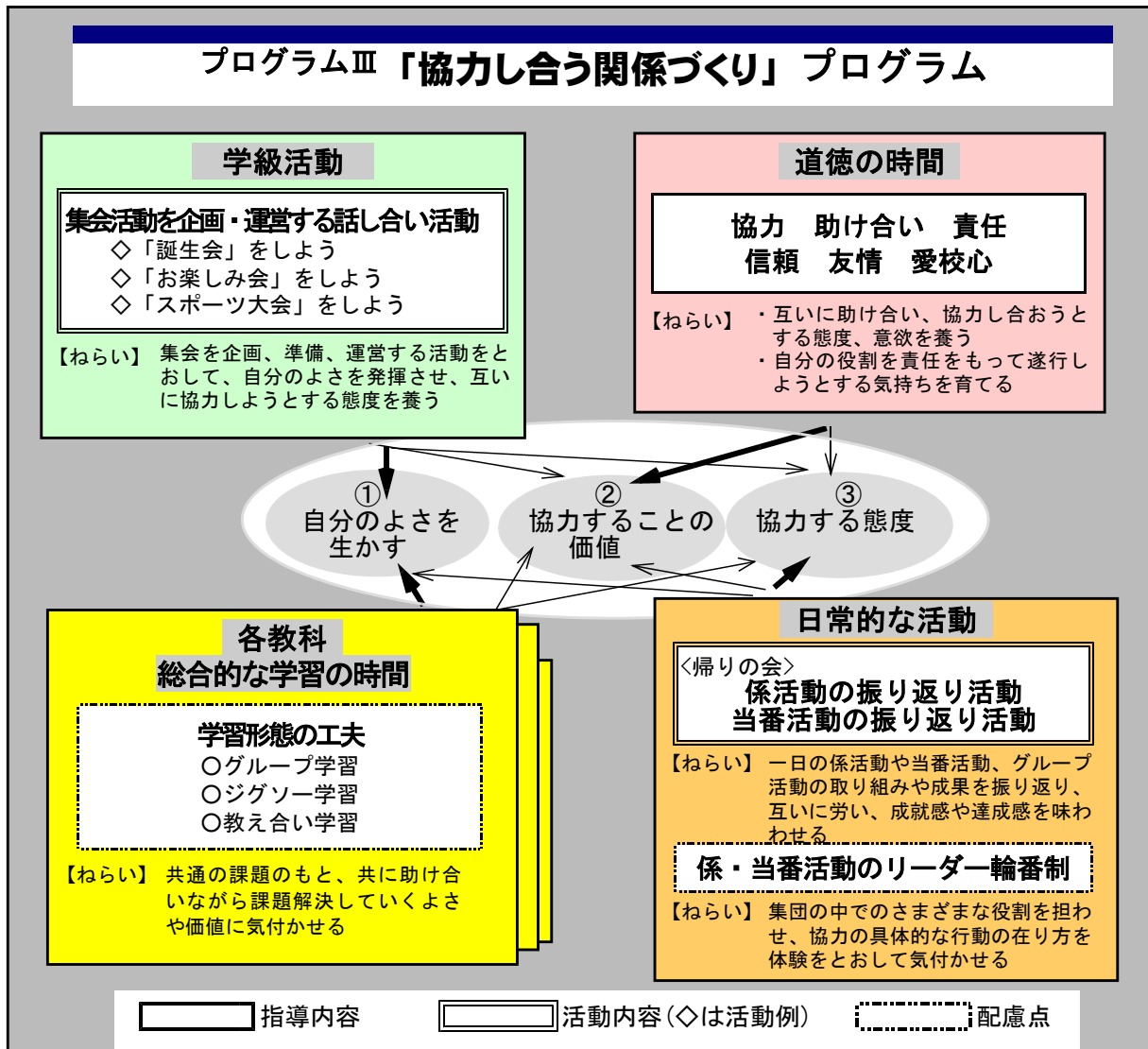
2 プログラムⅢの活用時期・期間



3 想定される学級集団及び児童の状況

- 学級集団内に、互いのよさや違いを個性として認め合う関係が育っている
- グループ内での児童の役割が固定化している
- グループ内でのまとめ、学級として一体感に欠ける
- 班や学級をいごちのよい居場所として感じられず、単独での活動を好む児童が存在する

4 プログラムⅢの内容



5 活用上の留意点

| | 留意点 | 他の教育活動との関連 |
|------|---|---|
| 学級活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループあるいは学級集団全体で、学級生活をより楽しいものにする集会活動を企画・運営していく活動を行う ・自分のよさを生かした役割を担い、力を発揮できるよう支援し、他者の手助けをしたり、支えたりする体験や自分が頼られ「ありがとう」と感謝される体験をとおして、自分が他者にとって有用な存在であることを実感させる | ◆「教科等」「日常的な活動」での体験と関連させ、発展的な活動として位置付ける |
| 道徳 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者と支え合い、協力すること、責任を果たすことに関する道徳的価値を理解させる ・道徳的価値に照らして、自分自身の生活の仕方を振り返らせ、集団の一員として、社会の一員として、共に支え合って生活しようとする実践意欲を育てる | ◆「日常的な活動」「教科等」「行事」等での体験を生かす ◆道徳的実践力が発揮される場を他の教育活動に用意する |
| 教科等 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の解決のために互いに役割を分担したり、教え合ったりしながら、学習を進めていくことができるような授業の展開に配慮する ・学習場面における助け合いの意義に気付かせる体験を多く設定する | ◆「日常的な活動」や「教科等」「学級活動」と同時期に進め共に学び合う体験の場を多く設定する |
| 日常活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・係活動や当番活動の互いの役割分担を明確にさせる ・「帰りの会」で一日の活動状況を振り返り、自他の貢献について認め合う場や互いにアドバイスする機会を設定する ・役割交替によって、どの児童にも公的な地位を経験させ、協力し合うことの大切さを体験をとおして学ばせる | ◆プログラムⅡでの「日常的な活動」「教科等」で認め合ったよさを生かす場とする |

プログラムⅢ

プログラムⅢ「協力し合う関係づくり」活用計画案

担任名 _____

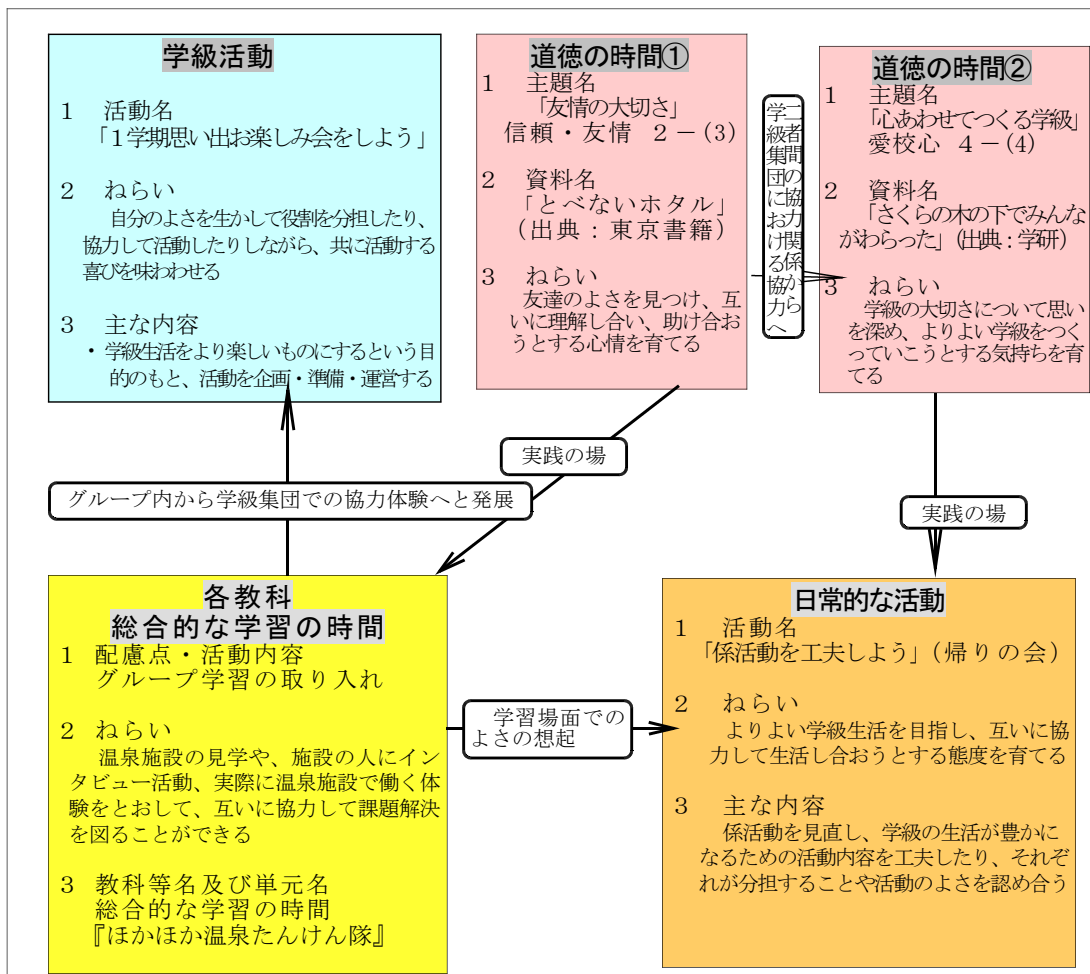
1 ねらい

- ◎ 互いのよさを生かしながら、互いに助け合い、共に協力し合う関係を育てる
- ① 自己の役割を遂行する満足感や成就感を体得させる
 - ② 他者と助け合い、協力し合うことの大切さに気付かせる
 - ③ 他者を助け、他者に協力しようとする態度を育てる

2 実施期間 6月第4週～7月第3週

| 6月 | | 7月 | | |
|-----|---------------|--------|------|-----|
| 第3週 | 第4週 | 第1週 | 第2週 | 第3週 |
| | 道徳の時間① | 道徳の時間② | | |
| | 各教科・総合的な学習の時間 | | | |
| | 日常的な活動 | | | |
| | | | 学級活動 | |

3 各教育活動の概要と関連



学級活動

道徳の時間

各教科
総合的な学習の時間

日常的な活動

学級活動指導案

- 1 活動名 「1学期をふりかえり、思い出になる会をしよう」
- 2 ねらい
 - ・自分のよさを生かして役割を分担したり、協力して活動したりしながら、共に活動する喜びを味わわせる
 - ・1学期の歩みを振り返りながら、自分や他者の成長を確かめ合い、学級の一員としての自覚を深める
- 3 活動の趣旨

本時は、学級生活をより楽しいものにするという目的のもと、活動を企画・運営し、互いに協力し合おうとする主体的な態度を育てる活動である。この活動をとおして、自分のよさを生かした役割を分担し、責任をもって遂行することで自分の存在感を自覚し、互いに協力し合うことの大切さ、共に活動する喜びや目標の達成の満足感、成就感を味わわせたい。
- 4 他の教育活動との関連

「教科等」や「日常的な活動」、あるいは学校行事において、互いに支え合い助け合った経験を生かし、児童が主体的に活動できる場を保障する
- 5 指導計画
 - 第1時 活動の目当てを理解し、互いに協力して活動の計画を立案する・・・1時間
 - 第2時 役割分担にしたがって、活動の準備を進める・・・1時間
 - 第3時 計画に従って、活動をし、活動の達成感・成就感・満足感を味わう・・・1時間
- 6 活動の展開

| | 学習活動 | 指導上の留意点（◆関連上の留意点） |
|-----|--|--|
| 第1時 | 1 1学期の生活や学習の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ○1学期の思い出を振り返って、自分ができるようになったことやがんばったことはどんなことですか。 ○学級みんなが、できるようになったことやがんばったことはどんなことですか。 ・運動会での力一杯の応援や競技 ・友だちのよさを見つけること ・古代村での協力しての食事作り等 2 学級会で開き集会について話し合う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> (1) はじめの言葉 (2) 議題の説明とめあての確認 ○学級みんな、協力して1学期の思い出になる集会をしよう (3) 話し合い 内容、必要な役割と係、係分担決め (4) 決まったことを発表する (5) 先生の話 (6) おわりの言葉 </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・1年間の一つの区切りである1学期末を迎えた今と4月当初の自分と比較させる等して、4月当初立てた目標の達成状況を各自振り返らせる ◆4月からの行事や活動を想起させるとともに、そこでの児童の成長や学級のよさに気付かせる ・一人一人の成長は、自分一人のがんばりに加えて、学級の友だちとの学び合いや助け合い等によって支えられたものであることや、学級の他者の存在や学級集団での学びの意味にふれる ・1学期のまとめとして、学級のよさをさらに伸ばしていく思い出の行事を開催することを議題として提案する ・提案理由「学級のみんなで協力して、思い出に残る行事をしよう」を全員で共有し、見通しをもって話し合いや活動ができるようにする ・時間的な条件や児童の思いを考慮し、助言する ・個々のよさや得意なところを生かした役割分担となるよう助言する ・話し合いの中での助け合いや譲り合いなどのよさを称讃し、活動意欲を高める ・今後の日程を知らせ、活動の見通しをもたせる |
| 第2時 | 1 本時のめあての確認をする 2 活動の準備をする ・係分担の活動 3 活動の振り返りをする 4 次時の確認をする 学級集会「1学期思い出お楽しみ会」 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動のめあてを明確にする ・限られた活動時間であることを伝え、計画的に活動させる ・一人一人が役割をもち、責任をもって活動できるよう励ます ・活動の中での児童相互の助け合いや教え合い、支え合いなどの具体的なよさを紹介する ・会の成功への期待を話し、意欲を高める |
| 第3時 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 1 はじめの言葉 2 めあての確認 3 会の進行 4 感想発表 5 先生から 6 おわりの言葉 </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的な活動を促すような方向で支援する ・めあてについての評価を行う ・会の成功は個々の児童の力の結集であることと、協力分担によってまた一つ児童自身や学級集団が成長を遂げたことを伝え、新学期の学級生活への意欲を高める |

プログラムⅢ

学級活動

道徳の時間

各教科

日常的な活動

道徳学習指導案①

- 1 主題名 「友情の大切さ」
- 2 資料名 「とべないホテル」(出典『東京書籍』)
- 3 ねらい
友達と互いに理解し合い、助け合っていこうとする心情を育てる
- 4 主題設定の理由
よい友達関係を築くには、互いの立場を理解し、互いに助け合い協力し合いながら、信頼感や友情を育てることが大切である。この時期の児童は、お互いに気の合う友だち同士で仲間を作り、集団で行動することが多く、能力的な優劣などの理由から他を排斥するような行動も出てくる。開放的で健康的な仲間集団を育成していく上で、互いを思いやり、いたわりながら、助け合っていくことの大切さを理解させていく必要がある。本時は、自分を助けようと一生懸命になる仲間の存在に気付いた飛べないホテルが、同じ仲間として、助け合っていこうと思いつく心情を追いながら、進んで友だち同士助け合っていこうとする気持ちを高めたい。
- 5 他の教育活動との関連
「各教科・総合的な学習」「日常的な活動」における他者との分担・協力場面で道徳的実践力の実現ができるように活動をつなげる
- 6 本時の展開

| | 学習活動と予想される児童の反応 | 指導上の留意点(◆関連上の留意点) |
|---|--|--|
| 導 | 1 資料について関心をもたせる ○友達のよいところはどんなところですか。 ・図工の絵が上手なところ ・いつでも挨拶を元気よくしている ・困っているとき助けてくれる | ◆児童が気付いている友だちのよさを様々な観点から取り上げ、ねらいとする価値へ方向付ける ・資料に登場する主人公、とべないホテルが置かれている状況を説明し、児童の資料理解を促す |
| 入 | ○今日のお話は、生まれつき羽が縮んで飛ぶことができないホテルが、仲間のホテルが自由に飛んでいるのを悲しい目で見ているところから始まります。このホテルの気持ちを考えながらお話を読みましよう。 | |
| 展 | 2 「とべないホテル」を読んで話し合う (1) 生まれたときから、羽が縮んでいるホテルは、どんなことを考えながら、他のホテルたちがとんでいるのを見ていたのか ・自分だけとべないなんてつまらない ・他のホテルがうらやましい ・一緒に遊んでくれる仲間がいなくて悲しい (2) とべないホテルの身代わりになって、他のホテルが捕まったとき、とべないホテルはどんな気持ちになったか ・自分のことを心配してくれる仲間がいたなんて知らなかった ・身代わりになってくれたんだ、有り難う (3) とべないホテルは、目が涙でいっぱいになったとき、どんなことを思ったのか ・ひとりぼっちと思っていたが、みんながぼくのことを思ってくれていたんだ ・みんなが助けようとしてくれたんだ ・やさしい友達がいてうれしい ・とべないことを気にすることはないんだ (4) とべないホテルは、どんなことを考えて身代わりのホテルを迎える用意をしていたのか ・これからは、ぼくもみんなのことを助けていこう ・とべなくても、みんなと力を合わせてやっていこう ・友達っていいな、帰ったらお礼を言おう | ・資料を範読する ・生まれつき羽が縮まるとぶることができず、一人取り残されたホテルの心情を押さえる ・疎外感をもっていたホテルが、自分を助けてくれる友だちがいたことに気づき、驚きと喜びを感じている心情をとらえさせる ・友達から助けられ、友達のよさを感じ取っているホテルの心の中をしっかりと考えさせる ・ホテルが、進んで友だちのことをいたわろうとしている気持ちをとらえさせる ・ワークシートへの記入をとおして考えを深めさせる ・生活や学習の中で、助け合い、励まし合い、教え合いなどいろいろなかわり合いとそのよさを広げる |
| 開 | 3 自分の友だちとのかかわり方を振り返る (5) 今日のホテルのように、友だちがいてくれてよかったなと思ったことはどんなことか ・○○さんに一輪車の乗り方を教えてもらったおかげで乗れるようになった ・泣いていたとき、どうしたのって声をかけてくれてうれしかった | ・友達を助けてあげた側の児童の気持ちにふれ、友達を気遣い思う気持ちや行動が、勇気や喜びをもたらすことに気付かせる |
| 終 | 4 学習のまとめをする ○みなさんには、よさがたくさんあります。得意なことや上手なこと等の違いはありますが、友達のことを思い、助けてあげたり、励ましてあげたりすることは、誰でもできるよさです。そういうよさを大切にして、たくさんの友達ともっと仲良くなっていくといいですね。いつか、ホテルを見つけることがあったら、今日のお話を思い出してください。 | ◆資料のホテルのように、友達を思い、自分にできることを考え、教え合ったり、励まし合ったり、助け合ったりしながら生活したり、学習したりすることの大切さにふれ、意欲付けを図る |
| 末 | | |

学級活動

道徳の時間

各教科

日常的な活動

道徳学習指導案②

- 1 主題名 「心あわせてつくる学級」
- 2 資料名 「さくらの木の下でみんながわらった」(出典『学研』)
- 3 ねらい
学級の大切さについて思いを深め、よりよい学級をつくっていかうとする
- 4 主題設定の理由
学級や学校が自分にとって真に大切だという思いが深まれば、自然に愛着心がわくものである。その気持ちが愛校心である。そのような気持ちが深まるのは、同じ時期、同じ場所を共有しながら人とのかかわりを伴って自分がつながっていることを感じるからである。それを大切に思う気持ちが、自分たちの学級をよりよくしていこうとする意欲へと高まるのである。自分たちの学級生活を改めて見つめさせ、これからのようにかかわっていくのかを考えさせたい。
- 5 他の教育活動との関連
 - (1) 「各教科・総合的な学習」や行事において他者との力を合わせてやり遂げてきた経験を想起させる
 - (2) 学級のみんなとのかかわりへの思いを『心のノート』に書き、「日常的な活動」へつなげる
- 6 本時の展開

| | 学習活動と予想される児童の反応 | 指導上の留意点(◆関連上の留意点) |
|----|---|--|
| 導入 | 1 資料について関心をもつ ○この学級の自慢は何ですか。 ・男女仲がよいところ ・給食をたくさん食べること ・みんなそれぞれ個性があつておもしろいこと ・困っているとき助けてくれること ○今日のお話は、ある学校のみんなと同じ4年2組のお話です。写真を見てみましょう。 ・昔の写真だね ・みんなわらっている ・仲が良さそうなクラス | ・自分たちの学級に目を向けさせ、価値への方向付けを行う ◆学習場面や生活場面での学級のよさを想起させる ・資料中の記念撮影写真(42年前の写真)を提示して、写真の印象を話し合わせる |
| 展開 | 2 「さくらの木の下でみんながわらった」を読んで話し合う (1) 4年2組の子供たちは、梅沢先生をどう思っていたか ・自分たちのことを考えてくれる先生 ・最後まで話を聞いてくれるやさしい先生 ・しかられても元気が出てくる ・一人一人にことを心配してくれる先生 (2) クラスのみんなは、どんな気持ちで入院している梅沢先生や文江さんを見守っていたか ・二人とも早く直ってほしい ・命がけで子供を守ってくれた先生、早く戻ってきてほしい (3) 先生や文江さんが教室に元気な姿を見せたとき、クラスのみんなはどんな気持ちで迎えたのか ・元気になってよかった ・安心した ・また、みんなと勉強できてうれしい ・先生ありがとう、これからまたがんばります | ・資料を範読する ・いつも子供たちのために一生懸命な梅沢先生の姿を丁寧に押さえる ・命がけで文江さんを守った場面だけでなく、先生のいない教室で帰りを待ちわびている子供たちの姿を思い浮かべさせ、その気持ちに気付かせるようにしたい ・戻ってきてくれてうれしいという気持ちだけでなく、これから自分たちと先生で力を合わせていい学級をつくるんだという意気込み等も、反応として引き出す ・記念写真やビデオ等の記録を提示しながら、自分たちの学級と自分とのかかわりを具体的に想起させ考えさせる |
| 終末 | 4 学習のまとめをする ○みんなの話を聞いて、4年2組も素敵なクラスだとまた強く思いました。こんなに素敵なクラスなのは、みんな一人一人が励まし合ったり助け合ったりしているからだと思います。こんなクラスのために、みんなができることはあるかな。『心のノート』に自分の気持ちを書いてみましょう。 | ◆『心のノート』の空欄(学習場面、休み時間、係活動、掃除の時間)に、自分の気持ちを書き込むことで、よりよい学級をつくらうとする意欲を高める |

総合的な学習の時間活動案

- 1 小単元名 「われらほかほか温泉たんけん隊」
- 2 単元の目標
 - ・地域にある温泉についての興味・関心を持ち、人やものにかかわろうとすることができる
 - ・温泉施設の見学や、施設の人へのインタビュー活動、実際に温泉施設で働く体験をとおして、互いに協力して課題解決を図ることができる
 - ・調べ活動によって課題解決できたことを工夫してグループ毎に新聞に表現することができる
- 3 題材選定の理由
本単元では、児童の身近な温泉を題材として取り上げる。地域に点在する温泉施設は、地域の人、もの、自然と密接なかかわりをもっている。温泉施設への訪問をとおして、地域のもの、人、自然への理解を深めながら、地域を見直し、地域へのかかわりを深めさせたい。
- 4 学級経営上の指導・配慮
学習場面において、互いに協力して学習を進めることができるように次のような活動の場や機会を設定する。
 - (1) 共通の課題をもつ児童同士が集まり、役割分担しながら、活動計画を立て、訪問し、まとめを行うグループ学習
 - (2) グループの学習において、互いに教え合い、励まし合い、協力し合いながら活動できたかを評価する活動また、次のような配慮を行う
 - ・グループ内の役割分担は、それぞれのよさを生かして進めるよう助言したり、役割を責任をもって果たすことができるように励ます
 - ・学習のめあてや自己評価や相互評価の項目の中に、協力して学習を進めることに関する事項を盛り込み、互いに協力して学習しようとする意欲付けを図ったり、教師による具体的な活動のよさを見取った評価によって、活動の達成感や満足感を感得させる
- 5 他教科との関連
「道徳の時間」において内面化を図った他者と助け合いに関する価値の自覚を高め、実践する場とする
- 6 単元指導計画（全7時間）
 - (1) 第1次 温泉に関する課題毎に、訪問計画を立てる・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
 - (2) 第2次 グループ毎に訪問し、課題解決を図る・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
 - (3) 第3次 グループ毎に訪問してわかったことをまとめる・・・・・・・・・・3時間
- 7 単元における指導・配慮の展開

| 次時 | 学習活動 | 指導・配慮点（◆関連上の留意点） |
|----|---|--|
| 1 | 1 本単元の学習課題の確認する 「地域の温泉について調べよう」 | ・本時の学習課題の確認とあわせて、学習の中で協力し合い、学び合いながら学習を進めることを確認する。 |
| | 2 温泉についての疑問や課題を話し合う | |
| | 3 課題を整理し、グループを編成する | ・必要な役割を話し合わせ、協力して分担を決められるように助言する |
| | 4 グループ毎に訪問計画を立てる ・質問事項 ・役割分担 ・日程計画 ・施設との連絡 ・持ち物 ・安全事項 | ・協力して課題解決している児童やグループのよさを価値付け、広げる ・評価カードによって、他者と協力しながら取り組む態度に関する観点についても自己評価及び相互評価する |
| | 5 活動を振り返る | |
| 2 | 1 グループ毎に温泉施設を訪問する ・グループ毎に活動 | ・活動を見守り、児童の主体性が発揮できるように励まし支援する |
| | 2 活動の振り返り | ・評価カードによって、他者と協力しながら取り組む態度に関する観点についても自己評価及び相互評価する |
| 3 | 1 本時の学習課題を確認する | |
| | 2 グループ毎に温泉訪問して解決できたことをまとめる ・新聞記事の整理 ・割付 ・トップ記事 ・記事の分担 ・カット、見出しの工夫 | ・児童一人一人のよさを生かして、役割分担を話し合うように助言する |
| | 3 活動を振り返る ・自己評価活動 ・相互評価活動 ・学習の成果の交流 | ・協力して課題解決している児童やグループのよさを価値付け、広げる ・評価カードによって、他者と協力しながら取り組む態度に関する観点についても自己評価及び相互評価する ◆グループ学習によって、活動が深まったことにふれ、今後の学習につなげる |
| | | |

「係活動を工夫しよう」活動計画案

1 活動のねらい

係活動を見直し、学級の生活が豊かになるための活動内容を工夫したり、それぞれが分担することや活動のよさを認め合うことをとおして、互いに協力して生活し合おうとする態度を育てる

2 活動の場

帰りの会

3 活動の概要

係活動として学級のためにできることを話し合い、互いにアイデアを出し合いながら創意工夫のある自主的な活動へとつなげる。また、活動における取り組みや成果を振り返り、互いに労い合う。

4 他の教育活動との関連

「道徳の時間②」において高まった道徳的価値観（互いに協力し合いながら、明るく楽しい学級をつくろうとする心情）のさらなる自覚化を図り、現実的、実践的場面で生かす場として関連付ける

5 活動の手順

(1) 活動の趣旨を教師が説明する（第1日目）

- ・「学級のためにわたしができること、やってみたいこと」を『カード①』に書き、一人一人の思いを確認する（道徳の時間に心のノートに記述した内容を想起させるのもよい）

(2) 係毎に集まり、仕事内容について話し合い、工夫点や新たな活動内容を『カード②』に書く

（第2日目の給食時間のわくわくランチとして場を設定してミーティング）

（活動内容は、必ずしも従来の係活動に関連した内容にこだわらず、自分たちが気が付いた活動内容であればよく、児童の意欲や発想を大事にしたい）

- ・活動の分担を確認する

- ・係の活動内容の工夫を発表し、係活動コーナーへ『カード③』を掲示する（帰りの会）

(3) 係毎に活動する。活動の中でさらなる工夫点を見つけたら、その都度帰りの会で報告し、活動内容を増やしてもよいこととする（第3日目以降）

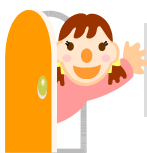
(4) 帰りの会に、係毎に簡単な反省会を行い、自分たちが決めた活動を責任をもって遂行できたかどうか振り返る

(5) 「今日のキラリ」を「ご苦労さん・ありがとうコーナー」とし、自主的な係活動を互いに振り返り、互いの労を労い合う（第3日目以降）

6 活動実践の期間

学期末の2週間程度とするが、2学期以降の係活動についても、児童の創意工夫を生かしたり、自主的な取り組みを促したい

7 資料 活用するカード及びカードの様式は、P50参照



プログラムⅣ「尊重し合う関係づくり」

プログラムⅣの趣旨

学級集団内の人間関係は、その深まりと同時に、意見の相違や感情の行き違いによってトラブルが生じることがあります。互いの納得のもと解決されると、相互理解がより深まり、互いの絆が一層強く結ばれていく一方、トラブルが解決されないままであったり、あるいは表面的な解決に終わると相互に不信感を生じさせ、人間関係に亀裂が生じることもあります。このような状況においては、他者の人権や尊厳を理解させながら、学級集団内の規範意識を高め、互いに尊重し合う関係づくりを進めることが大切です。こうしたことを踏まえ、このプログラムでは、互いの意見や感情を尊重した行動の仕方を身に付けさせ、互いの人間関係をよりよいものにするために、積極的にかかわっていきこうとする態度を育てることを目的とします。

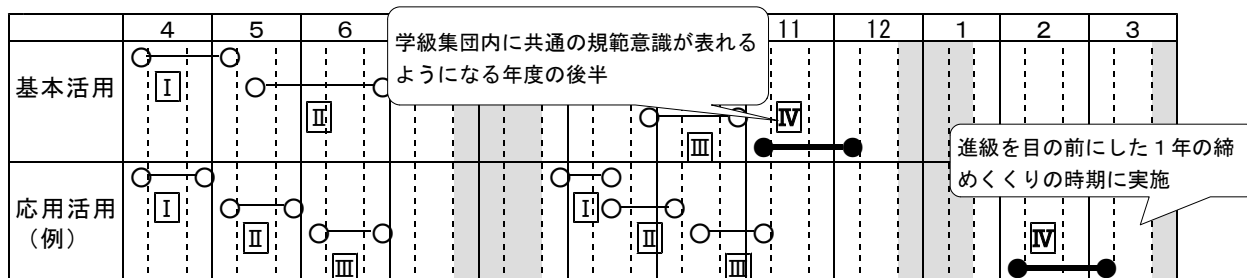


児童が互いに尊重し合う関係を育てるには、他者の置かれている立場に立ち、他者の言動を支える思いや考えを共感的に理解する場や機会を意図的に設定する必要があります。そして、他者との間に生じる具体的な葛藤場面や対立場面を想定して、他者を思いやった行動の在り方や自己主張の仕方を考えさせ、身に付けさせる指導が必要です。このような指導をとおして、他者とのトラブルに直面しても、児童自らが問題を解決していきこうとする態度を養うことができると考えます。

1 プログラムⅣのねらいと教育活動のかかわり

| <ねらい> 互いの思いや考えを理解し、互いに高め合い、尊重し合う関係を育てる | | 学級活動 | 道徳の時間 | 各教科等 | 日常的な活動 |
|--|--------------------------------|------|-------|------|--------|
| 具 | ① 他者の気持ちや考えを共感的に理解させる | ○ | ◎ | ◎ | |
| 体 | ② 自分と他者を尊重した行動の在り方を考えさせ、学ばせる | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 化 | ③ 人間関係にかかわる問題を自ら解決しようとする態度を育てる | ○ | | | ◎ |

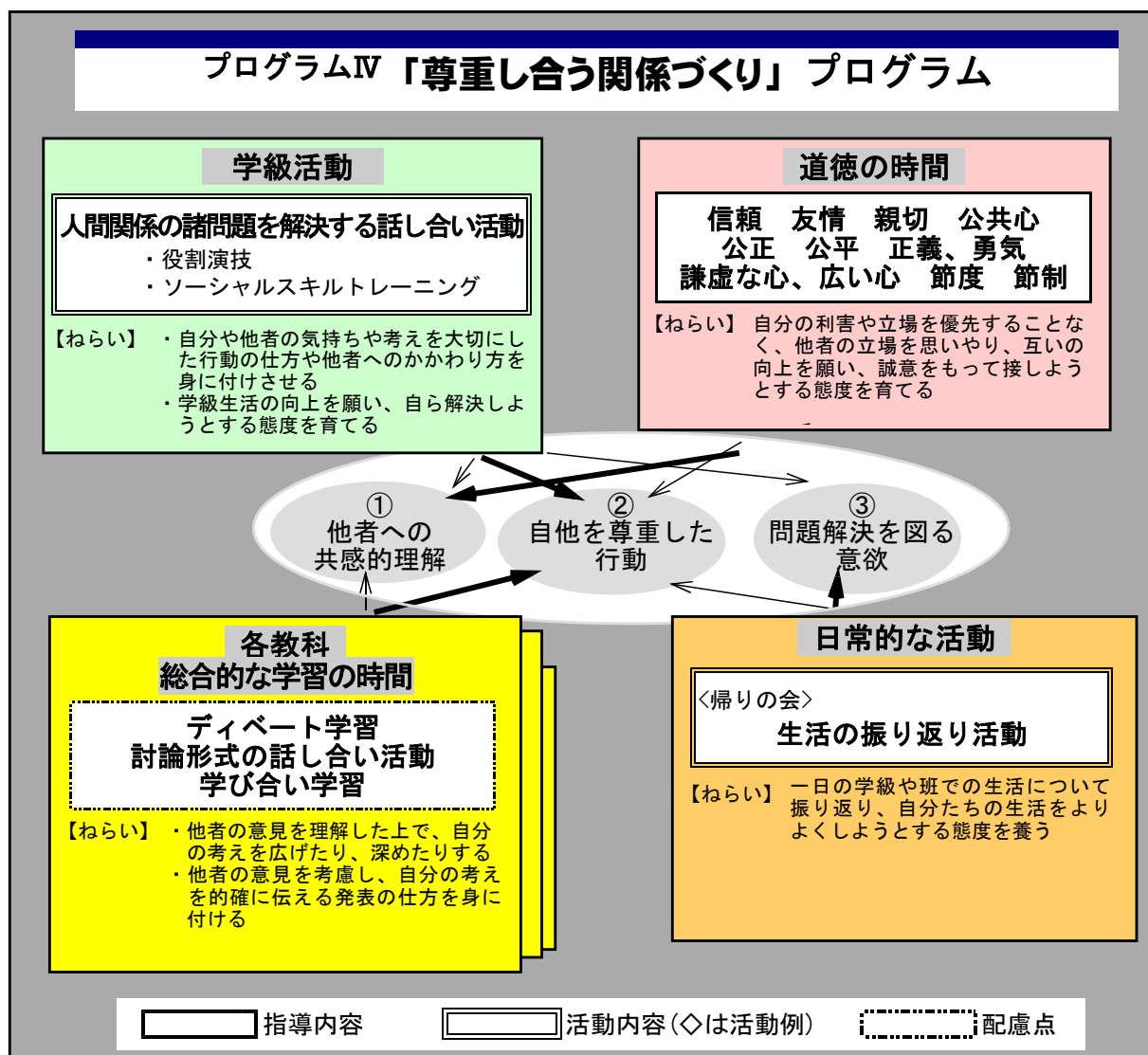
2 プログラムⅣの活用時期・期間



3 想定される学級集団及び児童の状況

- 学級集団内に、互いに助け合い、協力し合う関係が育っている
- 児童間にトラブルが生じることが多い
- 学級のルールを逸脱する行動が見られることがある
- 友達とのかかわりに問題や葛藤を抱えている児童が存在する

4 プログラムⅣの内容



5 活用上の留意点

| | 留意点 | 他の教育活動との関連 |
|------|--|---|
| 学級活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にアンケートを取る等して日常的な生活場面において実際に生じている典型的な葛藤・対立場面を取り上げ、教材化を図る ・ 他者の視点への転換を図る体験的な活動を取り入れ、具体的な行動の仕方や接し方を考えさせる | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「道徳の時間」との関連を図り具体的な行動を学ぶ場とする ◆ 「日常的な活動」における解決策の話し合いに生かす |
| 道徳 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 規範意識の育成にかかわる道徳的価値と信頼・友情の道徳的価値が共に内在する資料を活用する ・ 自他の利害を超えて、真に互いを尊重するためにはどうすべきなのかを道徳的に判断することができるようにする | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 道徳的価値観の高まりを「学級活動」「日常的な活動」「教科等」において生かす |
| 教科等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分とは異なる意見をもつ他者の考え方や理由に着目させ、共感的に理解させる ・ 自分の意見と他者の意見の共通点や相違点に気付かせ、自分の考えに生かすよう助言する ・ 他者と共に学ぶことの意義や価値に気付かせる | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「日常的な活動」や「教科等」「学級活動」と同時期に進め共に学び合う体験の場を多く設定する |
| 日常生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童自らがトラブルを解決し乗り越えていくよう見守り支援する ・ 多様な解決策を、児童の発達段階に応じて具体的に提示する ・ 児童の話し合いによって解決が困難なトラブルについては、個別にアドバイス及び指導を行う | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「道徳の時間」での道徳的価値観の高まり、「学級活動」における他者とのかかわり方を関連付け、現実の問題解決に生かす |

プログラムⅣ

プログラムⅣ「尊重し合う関係づくり」活用計画案

担任名 _____

1 ねらい

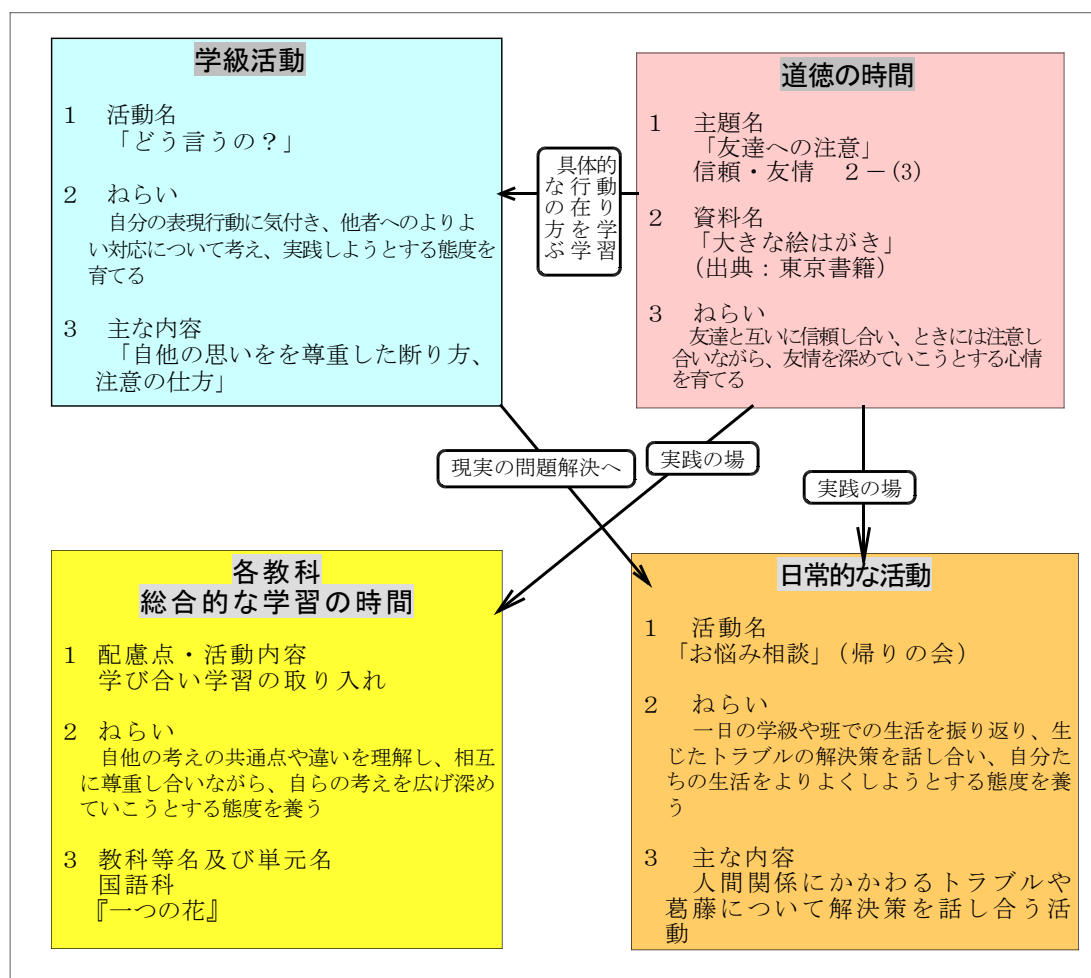
◎ 互いの思いや考えを理解し、互いに高め合い、尊重し合う関係を育てる

- ① 他者の気持ちや考えを共感的に理解させる
- ② 自分と他者を尊重した行動の在り方を考えさせ、学ばせる
- ③ 人間関係にかかわる問題を自ら解決しようとする態度を育てる

2 実施期間 10月第1週～10月第4週

| 9月 | 10月 | | | |
|-----|---------------|-----|-----|-----|
| 第4週 | 第1週 | 第2週 | 第3週 | 第4週 |
| | 道徳の時間 | | | |
| | 学級活動 | | | |
| | 日常的な活動 | | | |
| | 各教科・総合的な学習の時間 | | | |

3 各教育活動の概要と関連



学級活動

道徳の時間

各教科
総合的な学習の時間

日常的な活動

学級活動指導案

- 1 主題名 「どう言うの？」
- 2 ねらい 自分の表現行動に気付き、他者へのよりよい対応について考え、実践しようとする態度を育てる
- 3 活動の趣旨
友達とのかかわりの深まりと共に、他者との間で葛藤や衝突は避けられない。重要なのは、このようなトラブルを解決する過程である。本時は、児童のアンケートを基に、日常的な葛藤場面を事例として取り上げ、どのように行動することが、自分や相手の相手の気持ちや考えを尊重する言い方なのかをロールプレイングや話し合いをとおして考えさせ、身に付けさせたい。他者へのよりよい対応を一時間で身に付けることは難しいが、このような活動を通して、自分も相手も大切にしようとする意欲を育て、他者との葛藤や衝突を解決しながら、児童が自ら学級内の好ましい人間関係を作っていくようにしたい。
- 4 他の教育活動との関連
 - (1) 「道徳の時間」における、「言いにくいことでも、相手のために忠告や注意をすることが真の友情である」ことへの気付きと実践への意欲の高まりを踏まえ、具体的な他者への対応の仕方について学ぶ場として位置付ける
 - (2) 「日常的な活動」における、日常の生活や活動場面において生じる他者との葛藤について話し合い、具体的な解決策や行動の仕方を話し合う活動へとつなげ、日常の実践へとつなげる
- 5 本時の展開

| | 学習活動 | 指導上の留意点（◆関連上の留意点） |
|--------|--|--|
| 導 入 | 1 問題文を読み、自分ならどのように対応するかを考え、ワークシートに書く たかし君の学級では5時間目の算数の時間、ドリルの問題をみんなでまる付けをしました。先生が、放課後まちがったところを直してから帰るようにと話されました。 放課後、みんなはそれぞれのまちがったところを直しています。たかし君は、かけ算の問題をもう一度やり直して、もうすこしでおわるところです。すると、となりのたろうくんが、「たかしくん、終わったら、キャッチボールをして遊ぼうよ。だから、答えを写させてくれよ。」と、たかし君に言ってきました。たかし君は、いやだなと思いました。前にも同じように言われて、見せてあげていました。 | ・ワークシートを配り、課題文を読む ・より良い答え方を求めているのではないことを告げ、普段の自分の言い方を自由に書かせる 受け身的（言われるまま、他人任せ） ・自分の望んでいることを言わない ・傷ついても誰にも話さない ・自分が我慢している 攻撃的（相手をやりこめる、傷つける） ・自分が望んでいることを無理にさせる ・人が傷ついていないかなどは気にしない ・他の人の権利を尊重したり、よく考えたりしない 尊重的（自分や相手の気持ちを考え、主張） ・自分の望んでいることを主張する ・相手をやりこめない ・相手のことをおもしろい |
| 展 開 | 2 三通りの対応の任方をみて、感じたことを記録し、発表する ・言う側、言われた側の気持ちに着目させたい 3 自分も相手の大切にしている話し方について話し合う ○自分の言い方は、どれに近いでしょう。 ○断りたいのにはっきり断らなかつたらどういうことになるでしょう。 ○怒って言ったり、相手の悪口を言ったりしたらどういうことになるでしょう。 ○自分も相手も大切にしている話し方をやってみましょう。 ○お互いにいやな気持ちにならないのはどの言い方でしょう。 4 別の設定の場面での対応の仕方についてロールプレイをしながら話し合う ○気持ちのよい対応の仕方をしている人を紹介してください。 「自分の一番大切にしているものを友だちから貸してくれと頼まれた」 「あの子に意地悪しようと誘われた」 「危険な遊びを一緒にしよう」と誘われた」 | ・たろう君に対する受け身的な対応、攻撃的な対応、攻撃的な対応、自他を尊重した対応例を示す ・担任外の先生の協力を得てT Tで進めるなどして、演示する <受け身的な対応例>→うん、…いいよ、でも、少しだけだよ。 <攻撃的な対応例>→なんだよ、おまえはいつもそうやって、ずるいことばかりするよな。いい加減にしろ。 <自他を尊重した対応例>→こういうことはよくないことだと思うよ。自分で考える方がいいよ。 ・受け身的な言い方では、相手につけ込まれることになることや決して相手のためにならないこと、また、攻撃的な言い方では、相手を怒らせたり、傷つけたりして、親密な関係は築けなくなることを教える ・児童を指名し、尊重的な対応を一度ロールプレイさせ、対応の非言語的な側面（表情・目線・声の大きさ）についてもふれ、改善すべき点をフィードバックさせる ・2人組をつくり、役を交替しながら、自分の言い方を演じ合わせる ・何人かを指名し、全体の前で演じさせ、よい点を認め称賛する |
| 終 末 | 5 学習の感想を書く | ・ワークシートに記入させる ◆日常場面でも、自分や相手の気持ちを大切にしたい言い方を考えていくよう意欲付けを図る |

6 資料 ワークシートは、P51参照

道徳学習指導案

- 1 主題名 「友達への注意」
- 2 資料名 「大きな絵はがき」(出典『東京書籍』)
- 3 ねらい 友達と互いに信頼し合い、ときには注意し合いながら、友情を深めていこうとする心情を育てる
- 4 主題設定の理由
真の友情とは、互いの長所を認め合い、互いの忠告を素直に言い合い聞き合うことができることである。お互いの成長を望む姿は、友情には不可欠なものである。このような信頼関係によって、さらに友情を深め、それぞれが人間性を高めていくことができるのである。この時期の児童の友達観は、楽しいことが一緒にできる、仲良く遊べる、励ましたりしたり慰めたりしてくれる等、自分にとっては大変ありがたい存在であり、都合のよいことがほとんどである。そこで、友情について一歩踏み込んで考えさせ、互いに忠告し合うといった行為が、互いの信頼関係をさらに深めていくことに気付かせたい。
- 5 他の教育活動との関連
本時の学習活動で児童の心情の高まりを「学級活動」における実際場面での相手への対応の仕方を体験をとおして身に付ける場として意図し、価値の内面化を一層高め、日常の実践へとつなげる
- 6 本時の展開

| | 学習活動と予想される児童の反応 | 指導上の留意点（◆関連上の留意点） |
|----|---|--|
| 導入 | 1 「よい友達関係」ということについて発表する ○「よい友達」とは、どんな友達ですか。 ・困っているとき助けてくれる友達 ・一緒に遊んでくれる友達 ・かなしいときなぐさめてくれる友達 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童のもつ友達像を問いながら、信頼・友情の価値への方向付けをする ・児童が素直に思っていることで、表面的にとらえているものでよい |
| 展開 | 2 資料「大きな絵はがき」を読んで話し合う (1) 転校していった正子さんからの手紙を読み、ひろ子はどんな気持ちになったか ・忘れないでいてくれてうれしい ・やっぱり仲良しのお友達だ ・一緒に高原へ行ってみたいな (2) 料金不足のことについて、母と兄の考えを聞き、ひろ子はどんなことを考え迷ったのか <お礼だけに（伝えない理由）> ・せっかく私のためにきれいな絵はがきを送ってくれたのだから、ひろ子さんに悪い ・切手の不足のことを知らせたら、きつともうおこって、お手紙はこないかもしれない ・知らないで送ってきたことだろうから、悪気はない ・切手ぐらいのことだから私が我慢すればいい <教えてあげた方がいい（伝える理由）> ・悪いことは悪いから ・同じように他の人にも出したら、まちがいが大きくなる ・相手の身になって考えてみると、自分だったら、教えてほしいから ・友達だからこそ、自分が教えてあげたい ・たとえ、いやな気持ちになっても、教えてあげることが友達のためだ ・正子さんなら私の気持ちを分かってくれる (3) ひろ子は、返事にどんなことを書いて自分の気持ちを伝えたのか ・正子さん、きれいな絵はがき、どうもありがとう。すごくうれしいです。 ・…送ってくれた絵はがき、大きかったので、料金がたりませんでした。他の人に出すときは気を付けた方がいいですよ。また、お手紙くださいね。 | <ul style="list-style-type: none"> ・範読前に登場人物間の友情関係に着目させる ・友達から送られてきた手紙を読んだひろ子の喜びを押さえさせる ・ひろ子がどうしたらよいか分からなくて相談した母の考えと、それと対する兄の考えの相違点を話し合いの中ではっきりさせ、どちらにも一理あることを押さえる ・母と兄の考えを聞き、正子のことを気遣いながら葛藤するひろ子の心にある二つの声を、それぞれに分かれて発言したり、役割演技したりさせてもよい ・自分の考えを途中で変えてもよいことを確認する ・補助発問で、兄の言葉「友達だろう」を取り上げ、友達だからこそ、友達のことを思いやればこそ、ときにはまちがいを忠告することも友情を深める上で大切であることに気付かせたい ・忠告は正子さんにとってプラスとなり、当座は気分を害したとしてもきつと分かってくれると友達を信じるひろ子の心をとらえさせたい ・ひろ子の気持ちになって、正子への返事をカードに書かせる ・相手を思いやる表現で返事を書かせたい ・表現が不十分でも、気持ちを込めて書いたものを取り上げ、補説する ・忠告した経験の発表とあわせて、友達への自分の思いや願いも発表させたい ◆忠告できなかった児童の心情にも共感させ、相手を思いやりつつ自分の気持ちを伝えることの難しさにふれ「学級活動」の学習につなげる |
| 終末 | 3 自分の友達に対する接し方を振り返る (1) 仲のよい友達を思い、勇気を出して注意したことや注意できなかったことがあるか 4 教師の説話を聞く | <ul style="list-style-type: none"> ・友達への勇気ある忠告によって、助けられた体験を話し、実践への意欲を高める |

学級活動

道徳の時間

各教科
総合的な学習の時間

日常的な活動

国語科学習指導案

- 1 単元名 「場面をくらべて読もう」 教材名 「一つだけの花」
- 2 単元の目標及び本時のねらい
 - (1) 単元の目標 (略)
 - (2) 本時のねらい ゆみ子に一つの花をわたしながら、由美子が苦しくても、美しさ、明るさを失わず、強く生きてほしいというお父さんの願いを読み取ることができる
- 3 単元選定の理由
本単元において、場面の移り変わりや情景、人物の心情について叙述に即しながら豊かに読み深めさせたい。そのためにまず、自分の読みをはっきりと自覚させたい。そして、互いの読みを交流し合うことで、自分の感じ方と他人のそれとの違いを実感させ、自分の読みを見つめ直し、考えや感じ方を広げ深めていこうとする態度を養いたい。違うことの良い面を見いだし、互いに学び合う学習を展開することで、他者の意見を尊重しながら、共に高まり合おうとする態度を育てる。
- 4 学級経営上の指導・配慮
自分とは異なる考えや立場を理解させ、互いにその考えのよさを学び合う学習を展開するために、次のような活動の場や機会を設定する。
 - (1) 課題について自力で解決する活動
 - (2) 自力解決によって得られた自分の考えを発表し合い、話し合いながら課題解決を図る活動
また、次のような配慮を行う
 - ・児童の読み取りのよさを認め、課題解決の過程に位置付けることで、自分の考えを自信をもって発表しようとする意欲や友達の見解を取り入れながら読み深めていこうとする意欲を高める
 - ・学び合い学習による学習の成果を確認し、共に学ぶ価値に気付かせる
- 5 他の教育活動との関連
「道徳の時間」において内面化を図った他者とのかかわり合いに関する価値の自覚を高め、実践する場とする
- 6 単元指導計画（全8時間）
 - (1) 第1次 学習計画を立てる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
 - (2) 第2次 場面毎に読み深め、課題を解決する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5時間（本時4/5）
 - (3) 第3次 感想をまとめ、発表し合う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- 7 本時における指導・配慮の展開

| 段階 | 学習活動及び予想される児童の反応 | 指導上の留意点 |
|----|---|---|
| 導入 | 1 前時の学習を想起する | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題の確認とあわせて、自分の考えをもち、学び合いによってさらに考えを深めていくことを学習のめあてとして確認する |
| | 2 学習課題を把握する 「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだようー。」と言ったときのお父さんの願いを考えよう | |
| 展開 | 3 課題を解決を図る <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習場面を音読する (2) 解決の見通しをもつ ・読み取りの視点 ・方法 (3) 自力で読み取り箇所をサイドラインを引く (4) サイドライン箇所を発表し合い確認する (5) 課題解決に迫る ○ どうしてお父さんは、「おにぎりをみんなおやりよ」といったのでしょうか。 ○ コスモスはどんな風に咲いていると思いますか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動を見守り、児童の主体性が発揮できるように励まし支援する ・お父さんの行動に着目させ、ゆみ子に対して行った行動が叙述された箇所にサイドラインを引かせる ・ゆみ子との最後の別れにゆみ子の泣き顔や口癖を見たり聞いたりしたくない様子を押さえる ・コスモスの花の様子を豊かに想像させ、各自まとめさせたい ・ごみすて場のような所に忘れ去られたように咲いて、一見弱々しく見えるコスモスに、たくましさや生きる強靱さがあることを読み取らせたい ・児童の考えを比較させたり、整理させたりしながら、読み取りを深めさせ、課題についてまとめさせる ・各自の課題についてのまとめを発表させ、学び合いによる学習の成果を確認する |
| | 4 課題をまとめる ○ 学び合いによって深まった考えをまとめよう。 ・ コスモスの花のように強くたくましく生きてほしい ・ 幸せになってほしい ・ 命を大切にしたい | |
| 終末 | 5 学習のまとめをする <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習場面を音読する (2) 学習を振り返る ・ 自己評価活動 ・ 相互評価活動 (3) 次時の学習を確認する | <ul style="list-style-type: none"> ・評価カードによって、自分の読みの深まりを振り返らせる ・自分の考えをもって発表し合い、互いに学び合いながら課題解決が図られたことを価値付け、今後の学習につなげる |

「お悩み相談」活動計画案

- 1 活動のねらい

一日の学級や班での生活を振り返り、生じたトラブルの解決策を話し合い、自分たちの生活をよりよくしようとする態度を養う
- 2 活動の場

帰りの会、給食時間
- 3 活動の概要

日常生活に生じるトラブルについて、解決策を話し合ったり、アドバイスし合ったりする
- 4 他の教育活動との関連

「学級活動」で学習した他者とのよりよい関係を築くかわり方を生かし、現実の場面での葛藤やトラブルを解決を図る場として関連付ける
- 5 活動の手順
 - (1) 事前指導→帰りの会（初日）5分間
 - ・「トラブルやけんかは、決して悪いことでない。大事なのは、そのトラブルやけんかをどう解決するである。トラブルやけんかから、友達の気持ちをわかったり、自分の友達への接し方が悪かったことも振り返ることができる。お互いを分かり合って、前より仲がよくなることもある。そのためには、問題や悩みをそのままにせず、解決していくことが大事である」ことを確認し、週末の帰りの会に「お悩み相談」の班ミーティングを行うことを告げる
 - ・「班ミーティング」の進め方を説明する

- 1 一日の生活や当番活動等を個人で振り返る
 - (1) 時間：(月曜日～木曜日 帰りの会 1分程度)
 - (2) 内容：個人の振り返り（班の中でトラブルや困っていること）
例 ・○○君がちっとも掃除をしません。
・わたしと○○さんがけんかをしています。
 - (3) 記入するもの：「連絡ノート」への記入（生活、掃除、当番など）
 - 2 問題の解決策の話し合う
 - (1) 時間：(金曜日 帰りの会、または給食時間)
 - (2) 内容：班毎の話し合い
 - (3) 記入するもの：『お悩み相談カード』
 - (4) 進め方：
 - ・司会は班長 記録は副班長
 - ・最近の生活で、友達との関係等で困っていることを出し合う
 - ・一つの問題を取り上げ、「解決策」について、話し合う
 - ・どの解決策が当事者にとって効果的かどうかについて検討する
 - ・具体的な解決策を検討し、決定する
 - *特に話し合う問題が出ない場合は、一週間の生活の感想を話し合う
 - 3 解決策の結果を報告する（随時）
 - ・必要があれば全体での話し合いの場で提起する

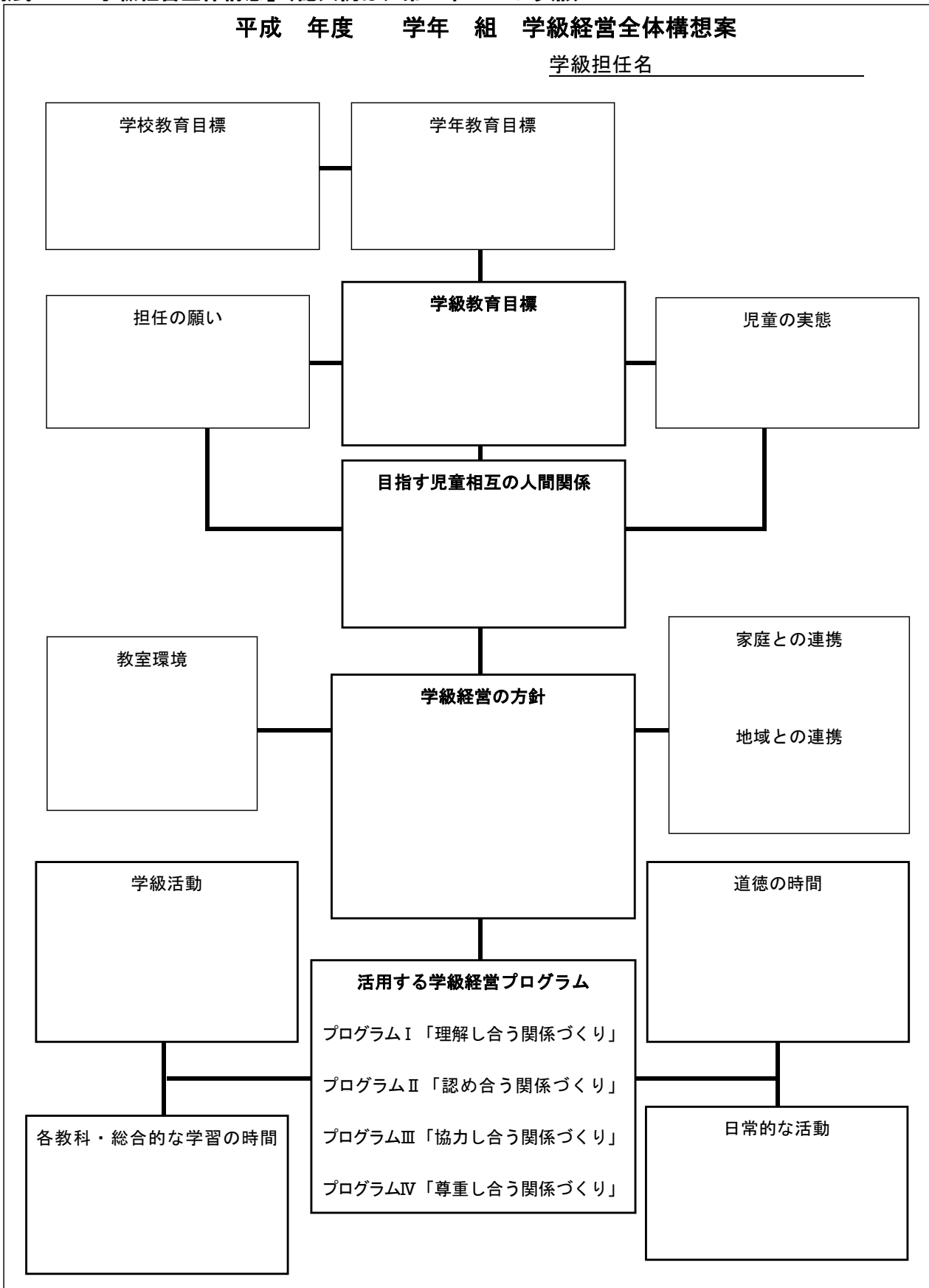
本章の構成

- 1 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の計画・評価資料
 - 様式1 「学級経営全体構想」
 - 様式2 「学級経営年間構想」
 - 様式3 「学級プログラム活用計画」
 - 様式4 「学級経営プログラムを活用した学級経営評価チェックリスト」

- 2 ワークシート等
 - プログラムⅠ 「理解し合う関係づくり」活用資料
 - プログラムⅡ 「認め合う関係づくり」活用資料
 - プログラムⅢ 「協力し合う関係づくり」活用資料
 - プログラムⅣ 「尊重し合う関係づくり」活用資料

1 児童相互の好ましい人間関係を育てる学級経営の計画・評価資料

様式1 「学級経営全体構想」(記入例は、第1章 P6参照)



様式2 「学級経営年間構想」(記入例は、第2章 P7参照)

| 平成 年度 学年 組 学級経営年間構想 | | | | | | | | | | 学級担任名 _____ | | |
|---------------------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|-------------|---|---|
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
| 学級経営の重点 | | | | | | | | | | | | |
| 活用する学級経営プログラム | | | | | | | | | | | | |
| 学級活動 | | | | | | | | | | | | |
| 道徳の時間 | | | | | | | | | | | | |
| 各教科総合的な学習の時間 | | | | | | | | | | | | |
| 日常的な活動 | | | | | | | | | | | | |
| 学校行事 学年行事等 | | | | | | | | | | | | |

「注」 必要に応じて拡大してご活用下さい

様式3 「学級経営プログラム活用計画」(記入例は、第3章 P14、P20、P28、P36参照)

平成 年度 学年 組 プログラム 活用計画

学級担任名 _____

1 ねらい

| |
|---|
| ◎ |
| ① |
| ② |
| ③ |

2 実施期間 月 第 週 ~ 月 第 週

| 月 | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 第 週 | 第 週 | 第 週 | 第 週 | 第 週 | 第 週 |
| | | | | | |

3 各教育活動の概要と関連

学級活動

道徳の時間

各教科
総合的な学習の時間

日常的な活動

様式4 「学級経営プログラムを活用した学級経営評価チェックリスト」

| プログラム を活用した学級経営の評価チェックリスト | | |
|--|--|---------------------------|
| 評価期日 月 日 評価者名 | | |
| | 評価項目内容 | 改善点例 |
| 計 | <input type="checkbox"/> 児童の実態のとらえは適切だったか | →個々の児童の人間関係のとらえ直し |
| | <input type="checkbox"/> 設定した児童相互の人間関係は適切だったか | →教育目標の修正 →教育目標の具体化の再検討 |
| | <input type="checkbox"/> プログラムの選定は妥当だったか | →選定の再検討 |
| | <input type="checkbox"/> プログラムの実施時期は適切だったか | →時期の調整 |
| 画 | <input type="checkbox"/> プログラムの実施期間は適切だったか | →必要に応じて継続・中断 |
| | <input type="checkbox"/> 教育活動間の関連は効果的だったか | →実施順の再検討 |
| | <input type="checkbox"/> | |
| 実 | <input type="checkbox"/> 学級活動のねらいは達成できたか | →活動内容の検討 |
| | <input type="checkbox"/> 学級活動の指導計画は適切だったか | |
| | <input type="checkbox"/> 道徳の時間のねらいに迫れたか | →内容項目・資料の検討 |
| | <input type="checkbox"/> 道徳の時間の指導計画は適切だったか | |
| | <input type="checkbox"/> 教科等での指導、配慮のねらいを達成できたか | →他教科での指導・配慮の充実 |
| | <input type="checkbox"/> 教科等の指導計画は適切だったか | |
| 践 | <input type="checkbox"/> 日常的な活動のねらいは達成できたか | →実施期間の継続、児童の意欲付け |
| | <input type="checkbox"/> 日常的な活動の指導計画は適切だったか | |
| | <input type="checkbox"/> 児童相互の人間関係の育ちを全体へ広げるなど児童へのフィードバックを積極的に進めたか | →児童の育ちの見取り →具体的方途の検討 |
| | <input type="checkbox"/> 特に指導・配慮が必要な児童への支援は適切だったか | →変容の見取りと支援策の検討 |
| | <input type="checkbox"/> プログラムのねらいを達成できたか | →人間関係の見取り |
| | <input type="checkbox"/> プログラムの活用計画は適切だったか | →今後の指導・配慮の方向性の検討 |
| | <input type="checkbox"/> | |
| | <input type="checkbox"/> | |

「注」空欄には、適宜項目を加えてご活用下さい

2 ワークシート等

プログラムI「理解し合う関係づくり」活用資料

ア 「学級活動」活用資料 『ジャンケントーキング ワークシート』

| ジャンケンゲーム ワークシート | | | | |
|-----------------|-----------|------------------|-------|-----------------|
| ジャンケンの和 | し つ 問 (例) | | し つ 問 | |
| 0 | A | すきなきゅう食のメニューは？ | B | 好きなキャラクターは？ |
| 1 (11) | A | よく見るテレビ番組は？ | B | むじん島にもっていくとしたら？ |
| 2 (12) | A | 生まれかわるとしたら？ | B | 今年がんばりたいことは？ |
| 3 (13) | A | いま一番ほしいものは？ | B | もし、一万円あったら？ |
| 4 (14) | A | このクラスのじまんできることは？ | B | 自分の直したいところは？ |
| 5 (15) | A | たんにんの先生のすきなところは？ | B | 自分のとくいなことは？ |
| 6 (16) | A | すきなべんきょうは？ | B | すきな歌は？ |
| 7 (17) | A | さいきんうれしかったことは？ | B | すきな動物は？ |
| 8 (18) | A | このごろびっくりしたことは？ | B | にがてな食べ物は？ |
| 9 (19) | A | 大きくなったら何になりたい？ | B | すきなスポーツは？ |
| 10 (20) | A | 行ってみたいところは？ | B | 自分のいいところは？ |

イ 「日常的な活動」活用資料 『BS42放送をしよう 質問・感想カード』

月 日 (曜日)

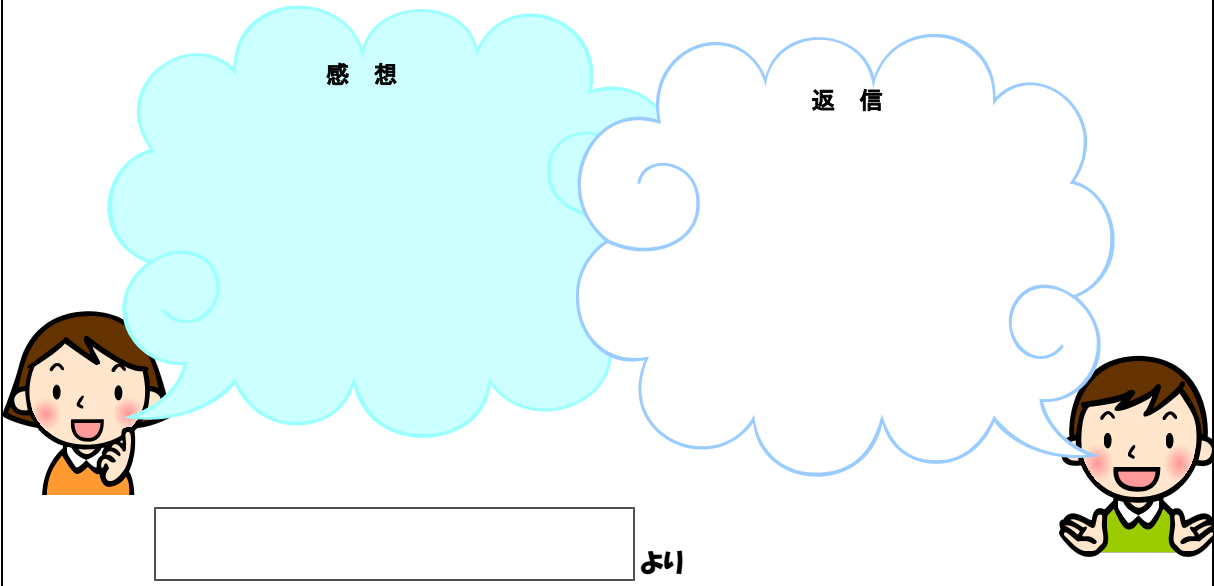
★今日のスピーチを聞いて、しつ問したいことや思ったことを書いて伝えよう

さんへ

感想

返信

よい



プログラムII「認め合う関係づくり」活用資料

ア 「学級活動」活用資料 『みんなちがってみんないい ワークシート』

学級活動「みんなちがってみんないい」 ワークシート
名前 _____

★ 次の質問で自分の考えに一番あてはまるのはどれですか。友達とそうだんしないで、あてはまる記号に○を付けましょう。また、どうしてそう思ったのかその理由も考えて□に書きましょう。

| 番号 | し つ 問 (例) |
|----|---|
| 1 | 「季節の中で、好きな季節は？」 A 春 B 夏 C 秋 D 冬 |
| 2 | 「朝食は、ごはんよりパンがいい」 A とてもそう思う B 少しそう思う C あまりそう思わない D ぜんぜんそう思わない |
| 3 | 「ペットを飼うなら、ねこより犬がいい」 A とてもそう思う B 少しそう思う C あまりそう思わない D ぜんぜんそう思わない |
| 4 | 「学校の先生は、きびしい方がいい」 A とてもそう思う B 少しそう思う C あまりそう思わない D ぜんぜんそう思わない |
| 5 | 「お金持ちは、幸せだ」 A とてもそう思う B 少しそう思う C あまりそう思わない D ぜんぜんそう思わない |
| 6 | 「女の子は、男の子より、とくである」 A とてもそう思う B 少しそう思う C あまりそう思わない D ぜんぜんそう思わない |
| 7 | 「親の言うことは、ぜったい聞かなくてはならない」 A とてもそう思う B 少しそう思う C あまりそう思わない D ぜんぜんそう思わない |
| 8 | 「天気は、いつも晴れがよい」 A とてもそう思う B 少しそう思う C あまりそう思わない D ぜんぜんそう思わない |
| 9 | 「宿題は、必要だ」 A とてもそう思う B 少しそう思う C あまりそう思わない D ぜんぜんそう思わない |
| 10 | 「一番大切なのは、ともだちだ」 A とてもそう思う B 少しそう思う C あまりそう思わない D ぜんぜんそう思わない |

イ 「各教科・総合的な学習の時間」活用資料 『主人公の気持ちになって カード』
 (ア) 『カード①』

主人公の気持ちになって物語の絵をかこう

名前

お話を聞いて、自分がかきたい場面とそのときの主人公の気持ちを想像してみましょう
 ★どのような場面ですか？また、それはなぜですか？

★その場面はどのような様子ですか？

★その場面で、主人公はどんな気持ちでしょうか？

(イ) 『カード②』(様式)

物語の絵 題名『 』 かいせつカード
 名前

| 月 日 | 場面の様子 主人公の気持ち | 工夫したところ |
|-----|---------------|---------|
| | | |
| | | |
| | | |

(ウ) 『カード③』(様式)

学習のふりかえりカード

名前

| 月 日 | 今日の学習で自分のがんばったところ | 今日の学習で見つけた友達のがんばり |
|-----|-------------------|-------------------|
| | | |
| | | |
| | | |

(エ) 『カード④』(様式)

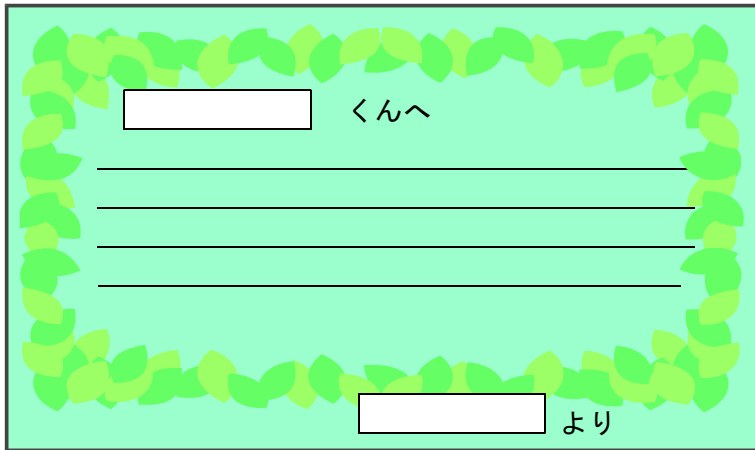
かんしょう会感想カード

名前

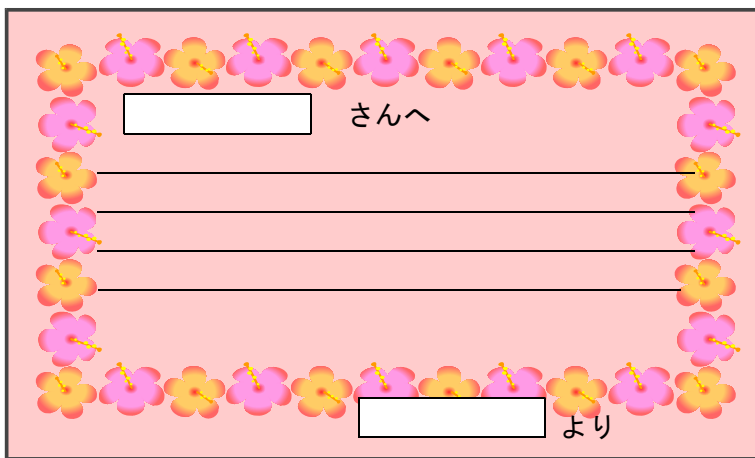
★友達の作品のよいところやおもしろいところを見つけましょう

| 名 前 | 作 品 の 感 想 |
|-----|-----------|
| | |
| | |
| | |
| | |

ウ 「日常的な活動」活用資料 「今日のキラリ」
 (7) 『キラリカード』(個人宛メッセージカード)

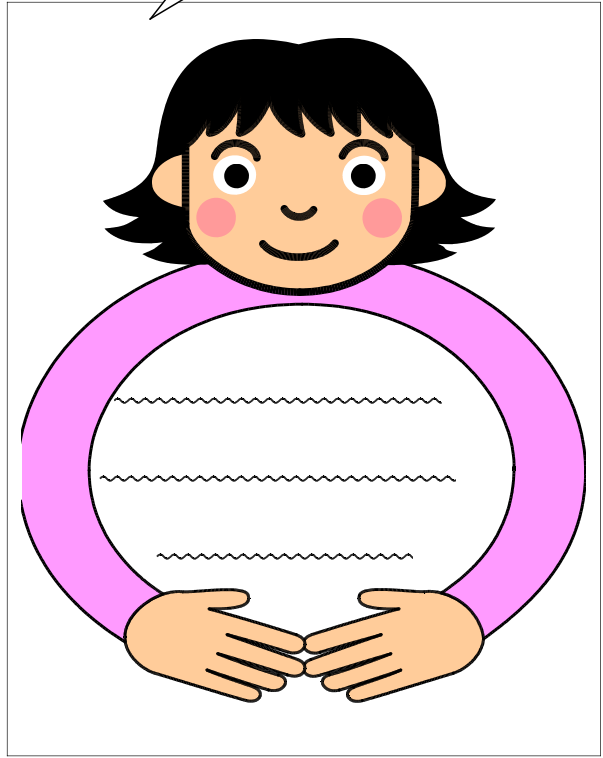
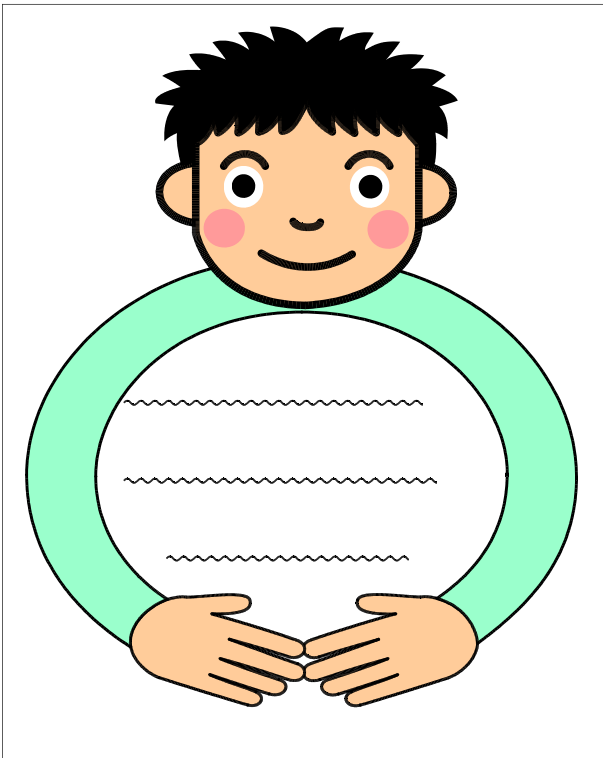


メモ
 ・名刺サイズのカードを用意し、
 学級的人数分を児童一人一人に
 配付する
 ・児童は、一日数人分のカードに
 記入する



メモ
 ・顔の部分は自分の似顔絵を描く
 ・腕の囲み部分に、メッセージカ
 ードをもらった感想や気付いた
 ことを書く

(1) 『感想カード』



プログラムⅢ「協力し合う関係づくり」活用資料

ア 「日常的な活動」活用資料 『係活動を見直そう カード』

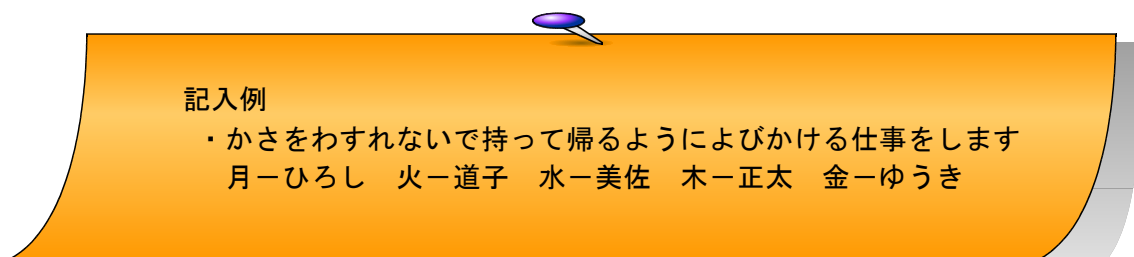
(ア) 『カード①』

| 学級のためにわたしにできること | 名前 |
|-----------------|----|
| | |

(イ) 『カード②』(様式)

| 係の仕事を見つけよう | | 名前 |
|--|---------------|----|
| 仕事の内容 | 分担(順番や活動する曜日) | |
| 記入例 ・学級全員遊びの計画を立てる ・かさを忘れないように帰りの会でよびかける | | |
| | | |
| | | |
| | | |

(ウ) 『カード③』 (掲示用短冊カード)



プログラムⅣ「尊重し合う関係づくり」活用資料

ア 「学級活動」活用資料 『どう言うの ワークシート』

学級活動 「どう言うの？」

名前 _____

たかし君の学級では5時間目の算数の時間、ドリルの問題をみんなでまる付けをしました。先生が、ほうか後まちがったところを直してから帰るようにと話されました。

ほうか後、みんなはそれぞれのまちがったところを直しています。たかし君は、かけ算の問題をもう一度やり直して、もうすこしでおわるところです。すると、となりのたろうくんが、「たかしくん、終わったら、キャッチボールをして遊ぼうよ。だから、答えを写させてくれよ。」と、たかし君に言いました。たかし君は、いやだなと思いました。前にも同じように言われて、見せてあげていました。

★あなたは、たろうくんに何と言いますか。よそうして書いてみよう。



★たろうくんに、三通りの言い方をしてみます。聞いて感じたことをメモしましょう。

| | | |
|---|---|---|
| ① | ② | ③ |
|---|---|---|

★自分の言い方は、どれが近いですか。 _____

★他の場面での言い方をやってみましょう。

★今日の学習でわかったことや思ったことを書きましょう。

| | | | | |
|-----|---|-----------------|---|------------|
| 月 日 |  | お悩み相談カード |  | 班 名前 _____ |
|-----|---|-----------------|---|------------|

1 相談ごとは

↓

2 ねがっていることは（どうしたいのか）

↓

3 解決するためには

| | | | |
|---------|--|--------|----------|
| 方法 ① | | 理 由 | <ていあん者 > |
| 方法 ② | | 理 由 | <ていあん者 > |
| 方法 ③ | | 理 由 | <ていあん者 > |
| 方法 ④ | | 理 由 | <ていあん者 > |

↓

| | |
|-------|--|
| 選んだ方法 | |
| 結 果 | |

<かいけつ方法のいろいろ>

ア わけを聞く イ あきらめる ウ しかえしをする エ 同じことをする
 オ もう一度やってみる カ がまんする キ あやまる ク 気にしない
 ケ 友達に相談する コ 先生に相談する サ 親に相談する シ お願いする
 ス 学級会や帰りの会に出す セ 相手と話し合う ソ ジャンケンしてきめる
 タ ことわる チ 声をかける ツ 自分の考えや気持ちを話す
 テ 相手の言うとおりにする ト その他

